


計画 1-13 「研究者情報や研究成果情報を積極的に公開していくためにインターネットや大学広報誌等による広報活動の充実を図る。」に係る状況

ホームページの全面リニューアルに合わせた産学官連携・教育研究者情報の充実、研究シーズ情報の公表、附属病院の最先端医療を紹介するTV番組の制作、大学案内（デジタルパンフレット）の作成など、広報センターを中心に戦略的かつ効果的な情報発信を行った【資料 1-13-1～10】。

資料 1-13-1 ホームページの全面リニューアル



学長・常勤理事の直接指揮の下、懸案であった本学ホームページの全面リニューアルを平成 17 年 12 月に実施した。

リニューアルに当たっては、特に研究・産学官連携情報を重視し、企業向けの受託・共同研究、技術相談、研究シーズのページを充実させた。

また、地域連携に関しては、一般社会人向けの「生涯学習市民開放プログラム」や講習会・研修会のページを充実させ、特に公開講座については、国立大学法人では初となる Web からの申込みを可能とするなど、「開かれた大学づくり」に向けての広報に努めた。

トップページ：各学部学生の協力の下、キャンパスライフを生き生きと伝えることに主眼を置いた。

(福井大学ホームページより)

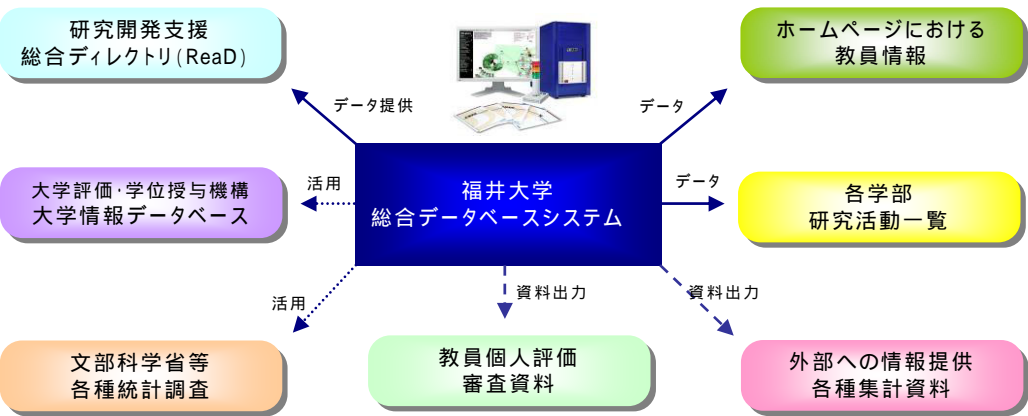
資料 1-13-2 福井大学総合データベースシステムを利用した研究実施状況の公表について

学内のデータベース（教員業績、教務、人事等の各システム）を統合し、広報・外部へのデータ提供等に資するため、「福井大学総合データベースシステム」を平成 17 年 3 月に構築した。

これにより、本学ホームページからの教員情報の公表、研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) への情報提供、研究活動一覧の WEB 公表、活動状況の集計等について、当システムからのデータを活用できる体制を整備した。


このような学内全体を網羅したデータベースシステムは全国的にも珍しく、先進的な取組として、各大学から注目されている。

「福井大学総合データベースシステム」による広報体制の構築



(事務局資料)

資料 1-13-3 本学ホームページにおける教員情報の公表について



本学ホームページの教員情報は、「福井大学総合データベースシステム」のデータを活用している。システムにアクセスすることで、各教員・事務職員のパソコンから登録・編集することができ、データは毎日更新される。公表する活動項目は、履歴・教育・研究・診療活動など多岐にわたっており、私立大学を含めた全大学の中でも、トップクラスの情報量を誇っている。

教員情報公開項目一覧

項目	細分類
基本項目	氏名， 氏名英文表記（ローマ字）， 生年月， 写真， 所属， 職名， 専門分野（科研費）， 電話番号， ファックス， 電子メール， ホームページ， エフォート（活動状況）
履歴	学歴， 職歴， 学位
教育・研究活動等	研究テーマ， 共同・受託研究希望テーマ， 受賞， 主な著書， 主な論文， 主な芸術作品・技術製品， 発表会， 共同研究， 受託研究， 科学研究費補助金， 厚生科研， ベンチャー企業， 主な知的財産， 所属学会， 担当授業
診療活動	診療科， 専門医等の資格

（事務局資料）

資料 1-13-4 各学部・研究科研究活動一覧による情報提供について



平成 19 年度に「福井大学総合データベースシステム」内のデータを利用して、各学部・研究科の研究活動一覧を WEB 上で提供できる体制を整備した。

これにより、学科、講座毎の論文・著書・学会発表・受賞・共同研究・科研等の詳細な情報を年度ごとに広く社会へ公表可能となった。

（福井大学ホームページ「研究活動一覧」）

社会連携

社会との連携、国際交流等「計画 1-13」

資料 1-13-5 研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) へのデータ提供について

研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) は、科学技術振興機構 (JST) が提供するデータベースであり、国内の大学・公的研究機関等に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を網羅的に提供するサイトである。

本学では、福井大学総合データベースシステムを活用し、容易に JST へデータ提供できるシステムを構築している。



研究開発支援総合ディレクトリ登録件数

部局等	登録データ数
幹部 (学長, 理事) 等	10
教育地域科学部	88
医学部	211
工学部	133
教育学研究科	2
医学系研究科	60
工学研究科	135
産学官連携本部	4
総合実験研究支援センター	2
高エネルギー医学研究センター	7
遠赤外線領域開発研究センター	6
総合情報処理センター	1
アドミッションセンター	2
留学生センター	4
保健管理センター	2
計	667

(事務局資料)

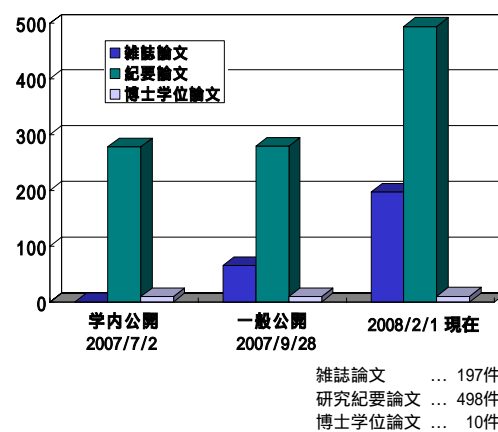
資料 1-13-6 「福井大学学術機関リポジトリ」の構築

本学の様々な学術成果物 (学術論文等) を全世界に向けて発信するシステム「福井大学学術機関リポジトリ」の一般公開を平成 19 年 9 月から開始した。

当システムは検索機能も有しており、従来は学術雑誌や学会誌等でしか閲覧できなかった論文の全文が、無料で手軽に閲覧できるようになった。



コンテンツ登録の推移



(事務局資料)

資料 1-13-7 研究シーズ情報の発信

研究シーズ情報検索画面



企業からの分かりやすい研究者情報の提供を求め、平成 16 年度から「研究シーズ情報紹介」のデータベースを構築し、ホームページで公表している。

当システムは、どの研究分野か企業側が分からなくても漠然としたキーワードで検索できる機能を有し、また、現在のシーズ（技術の種）がどのように社会還元されるか、フローチャートで一般向けに分かりやすく提示されている。

研究詳細画面

名前・学部・学科等	地域共同研究センター 川井昌之
研究情報の分類	<input checked="" type="checkbox"/> シーズ <input type="checkbox"/> 特許 <input type="checkbox"/> 新製品 <input type="checkbox"/> 分析/解析 <input type="checkbox"/> 調査
研究分野の分類	8 近未来社会における最先端技術の創出と社会実装の推進
重点研究分野への該当	<input checked="" type="checkbox"/> IT <input type="checkbox"/> ナノ <input type="checkbox"/> バイオ <input type="checkbox"/> 環境・エネルギー <input type="checkbox"/> その他
キーワード (5個以内)	人工現実感 パーチャルリアリティ 情報表示装置の開発
研究情報の名称	パーチャルリアリティのための力覚表示装置の開発
概要	近年、コンピュータグラフィックス (CG) を中心に人工現実感 (仮想現実感、パーチャルリアリティ) の技術が進展してきている。今までは、人間の視覚に仮想世界を提示するディスプレイの研究や製品の開発が主に行われてきたが、これからの人工現実感では、これらの仮想世界を触覚・力覚に感じることが必要とされている。  本研究では写真のような、実際には存在しない物体を操作者が見ることができ、また手に取り付けたロボットで、その仮想の物体を持った時の重さや表面の摩擦を感じることができるシステムを開発している。このような装置は、設計段階での操作感の確認や医療、スポーツ用の訓練、アミューズメントなど様々な分野への応用が期待される。
調査・研究から実用化までのプロセス	
関連している企業・大学・団体等	
関連する特許件数	
関連する論文1編	

研究シーズ情報 D B 登録件数

年度	登録件数
平成 16 年度	140 件
平成 17 年度	178 件
平成 18 年度	169 件
平成 19 年度	調査中

グラフ、フローチャート等による分かりやすい提示



(産学官連携本部資料より)

資料 1-13-8 大学案内 (デジタルパンフレット) による広報

平成 18 年度から大学案内を電子化し、デジタルパンフレットとしてホームページに掲載し、地域社会への大学の取組の PR に努めた。

また、「大学案内 2007」からは、各学部案内を統合し、更なる内容の充実を図った。



福井大学デジタルパンフレット / 冊子感覚でページをめくっていくことができる

(福井大学ホームページより)

資料 1-13-9 福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS」による研究紹介



File 02

目次紹介

ナノめっき技術が創出する安全・安心エネルギーデバイス

【担当】 藤田 孝典 教授

ナノめっき技術を用いた安全・安心エネルギーデバイスの開発について、その技術的特徴や応用範囲、今後の展望などを詳しく紹介しています。



File 01

目次紹介

赤外分光画像診断法の実証化と専用診断装置の開発調査研究

【担当】 藤田 孝典 教授

赤外分光画像診断法の実証化と専用診断装置の開発調査研究について、その技術的特徴や応用範囲、今後の展望などを詳しく紹介しています。



File 01

目次紹介

窒化物半導体が創出する21世紀の省エネ社会

【担当】 藤田 孝典 教授

窒化物半導体が創出する21世紀の省エネ社会について、その技術的特徴や応用範囲、今後の展望などを詳しく紹介しています。



(福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS」より)

資料 1-13-10 ふくい医療最前線の放映・DVDの作成

本学医学部附属病院の取組を広く社会にPRするため、民間放送局の協力を得て、福井大学病院紹介番組「大学病院の挑戦！」を放映した。当番組は、附属病院が有するPET-CT・MD-CT・3T-MRなどの最先端医療画像装置や、がん治療、新しい専門外来、救急システムなどの最先端医療について、医師・看護師のインタビュー等を交えながら一般に向けて分かりやすく紹介するもので、多くの視聴者から番組についての反響があった。

また、好評を博した本学附属病院PR番組「ふくい医療最前線」をDVDに編集し、関係機関等へ配付した。

福井大学病院紹介番組(再編集版)の放映について

大学病院の挑戦!

～福井大学医学部附属病院～

昨年12月から10回シリーズで放送した福井大学病院紹介番組「ふくい医療最前線」を再編集し、下記のとおり放映することになりましたので、ご案内します。

放映局 福井テレビ
放映日 平成18年10月28日(土) 15:25-16:20
タイトル 大学病院の挑戦!～福井大学医学部附属病院～

番組内容

・プロローグ	「改革が進む大学病院」
・心臓疾患	「カテーテル治療、心臓手術」
・看護師	「カンファレンスなど」
・がん	「胸腔鏡下手術、PET-CT」
・大腸がん	「手術前検査」
・前立腺がん	「密着小腸透析療法」
・糖尿病	「メタボリックシンドローム」
・白血病	「腎移植」
・脳疾患	「脳外科手術」
・整形外科	「変形性股関節症」
・消化器がん	「高次脳機能障害等」
・ストレス	「睡眠障害、肌疾患」
・認知症	「認知症診療センター」
・救急部	「救命救急センター」
・SIT	「災害時対応」
・産科口腔外科	「インプラント治療」
・眼科	「加齢黄斑変性」

大学病院PR番組広報パンフレット



平成18年10月、福井大学と協同、平成16年に日本放送協会としてスタートを切った福井大学医学部附属病院。最先端の巨大病院では、どのような診療や取組が行われているのか、医療現場の最前線に迫る。

収録内容

- ・01 前編
- ・02 後編
- ・03 救急システム
- ・04 がん治療
- ・05 心臓疾患
- ・06 糖尿病
- ・07 認知症
- ・08 産科口腔外科
- ・09 眼科

DVD版「ふくい医療最前線」

(事務局資料)

計画 1-14「地方公共団体,公益法人等の審議会や諮問委員会等に積極的に参画する。」に係る状況

国・県等の審議会等への参画

本学教員が国・県等の審議会等に参画している件数は年々増加しており,市街地活性化問題,福井豪雨に関する調査等,様々な分野の委員として積極的に参画している【資料 1-14-1】。

資料 1-14-1 本学教員による行政企画参画件数

[平成 16 年度]

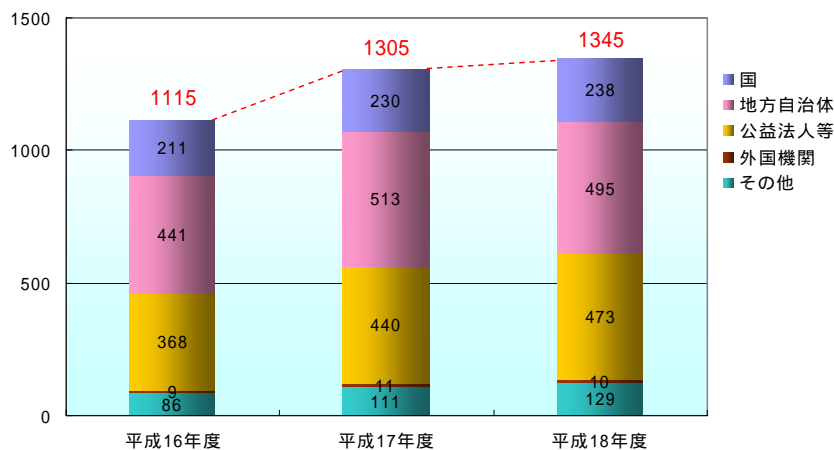
機関区分	国	地方自治体	公益法人等	外国機関	その他	総計
役員	5	7	11		2	25
教育地域科学部	23	135	14		13	185
医学部	65	167	105	3	37	377
工学部・工学研究科	97	118	216	3	30	464
各センター	21	14	22	3	4	64
総計	211	441	368	9	86	1115

[平成 17 年度]

機関区分	国	地方自治体	公益法人等	外国機関	その他	総計
役員	3	4	16		3	26
教育地域科学部	22	165	21		20	228
医学部	69	168	116	3	41	397
工学部・工学研究科	111	160	258	5	41	575
各センター	25	16	29	3	6	79
総計	230	513	440	11	111	1305

[平成 18 年度]

機関区分	国	地方自治体	公益法人等	外国機関	その他	総計
役員	6	7	15		5	33
教育地域科学部	26	165	18		22	231
医学部	69	163	122	3	47	404
工学部・工学研究科	113	146	287	4	49	599
各センター	24	14	31	3	6	78
総計	238	495	473	10	129	1345



(「福井大学総合データベース」より)

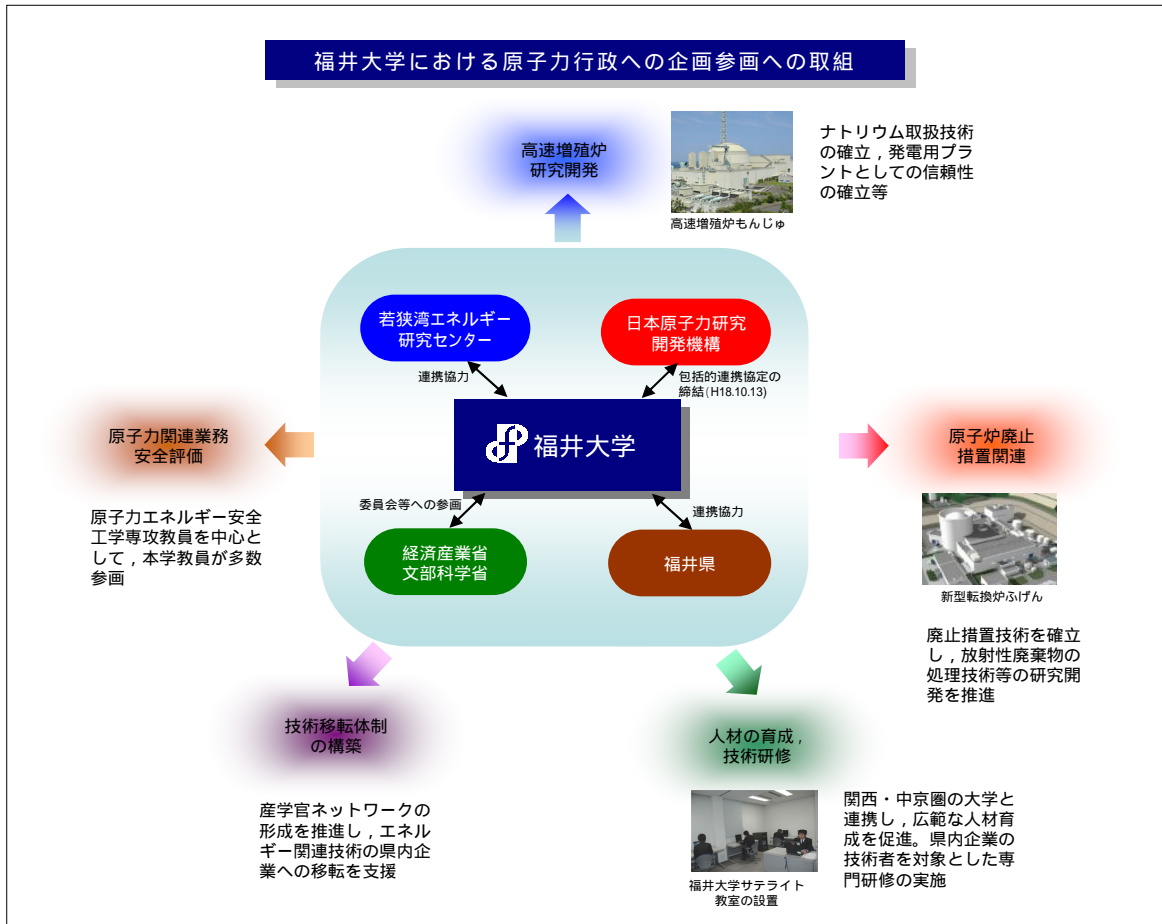


福井空港活用策検討委員会
に出席する本学教員

原子力行政への企画参画

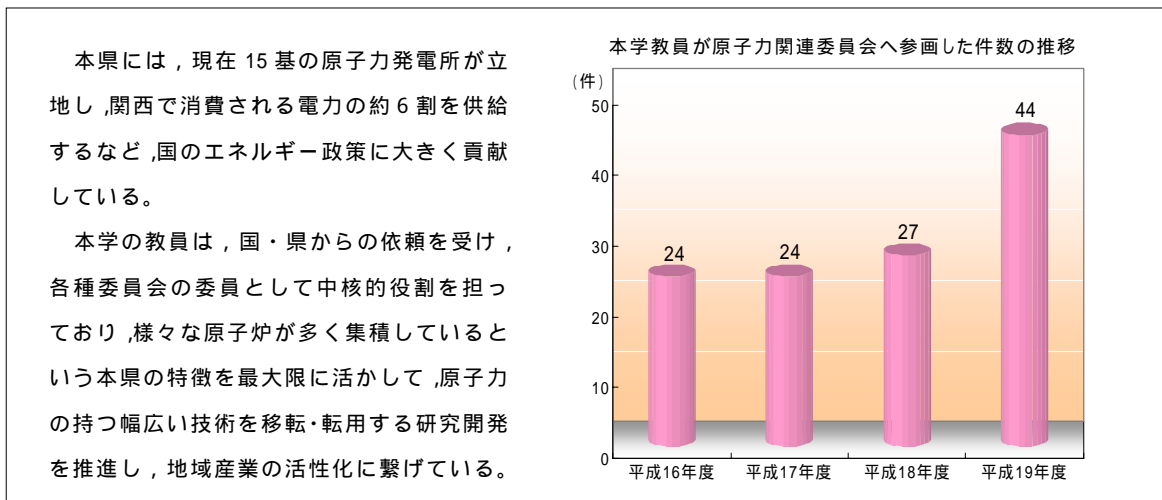
国内最多の原子力発電所を持つ本県の重要施策である原子力行政に関しては、国・県との連携に基づき積極的に参画しており、国のエネルギー政策に大きく貢献している【資料 1-14-2~4】。特に平成 17 年 3 月に策定された県エネルギー研究開発拠点化計画【P83~84 資料 1-15-8~10】においては、本学が中核的役割を果たしており、県民の信頼に繋がる様々な施策を長期的な視野に立ち展開している【資料 1-14-5】。

資料 1-14-2 福井大学における原子力行政への企画参画への取組



(事務局資料)

資料 1-14-3 原子力関連委員会等への参画状況



(事務局資料)

資料 1-14-4 平成 19 年度における主な原子力エネルギー関連への行政企画参画状況

機 関 名	役 職	所属部局名	氏 名
日本原子力研究開発機構	原子力機構福井懇話会委員	学長	福田 優
日本原子力産業会議 北陸原子力懇談会	顧問	学長	福田 優
独立行政法人 日本原子力研究開発機構	福井懇話会委員	学長	福田 優
経済産業省資源エネルギー庁	総合資源エネルギー調査会原子力部会委員	理事	中川 英之
経済産業省原子力安全・保安院	総合資源エネルギー調査会臨時委員	工学研究科	岩井 善郎
(社)日本原子力産業会議	原子力構造物の高経年化に関わる維持技術の高度化に関する調査委員会委員	工学研究科	服部 修次
経済産業省原子力安全・保安院	高経年化対策基盤整備事業高経年化対策強化基盤整備減肉配管検討会委員	工学研究科	服部 修次
(独)日本原子力研究開発機構	連携大学院ネットワーク推進委員会分科会委員	工学研究科	玉川 洋一
福井県	原子力・エネルギー教育推進支援事業推進委員会アドバイザー	工学研究科	玉川 洋一
(独)日本原子力研究開発機構	連携大学院ネットワーク推進委員会分科会委員	工学研究科	小高 知宏
(独)日本原子力研究開発機構	敦賀国際エネルギーフォーラム運営委員会運営委員	工学研究科	小高 知宏
(財)原子力安全技術センター	試験研究炉等廃止措置安全性実証等委員会委員	工学研究科	仁木 秀明
(独)日本原子力研究開発機構	ふげん廃止措置技術専門委員会委員	工学研究科	仁木 秀明
日本原子力産業協会	北陸原子力懇談会 技術委員会委員	工学研究科	仁木 秀明
(社)日本機械学会	発電用設備規格委員会原子力専門委員会維持規格分科会委員	工学研究科	飯井 俊行
(社)日本原子力学会	教育委員会「原子力コアカリキュラム検討ワーキンググループ」委員	工学研究科	飯井 俊行
(社)日本原子力学会	「高速炉熱流動・安全評価」特別専門委員会委員	工学研究科	飯井 俊行
(社)日本原子力学会	教育委員会委員	工学研究科	飯井 俊行
(社)日本原子力産業協会	原子力人材育成関係者協議会委員	工学研究科	飯井 俊行
(社)日本原子力産業協会関西原子力懇談会	原子力関係科学技術の基礎的研究の動向調査委員会委員	工学研究科	飯井 俊行
(独)原子力安全基盤機構	安全研究ワーキンググループ委員	工学研究科	飯井 俊行
(独)日本原子力研究開発機構	連携大学院ネットワーク推進委員会分科会委員	工学研究科	飯井 俊行
(株)原子力安全システム研究所	福井地域を基盤とした近畿圏連携による高経年化対策の安全研究検討委員会委員	工学研究科	飯井 俊行
経済産業省原子力安全・保安院	総合資源エネルギー調査会臨時委員	工学研究科	飯井 俊行
日本保全学会	原子力発電所の保全プログラムに基づく保全活動の検査手法に係る調査・検討分科会委員	工学研究科	飯井 俊行
(独)日本原子力研究開発機構	連携大学院ネットワーク推進委員会分科会委員	工学研究科	福井 卓雄
(独)日本原子力研究開発機構敦賀本部	もんじゅ安全委員会委員	工学研究科	福井 卓雄
福井県教育委員会	原子力・エネルギー教育推進支援事業推進委員会委員	工学研究科	福井 卓雄
(社)日本原子力学会	原子炉熱流動国際会議 NURETH13 現地組織委員会委員	工学研究科	望月 弘保

機 関 名	役 職	所属部局名	氏 名
(独) 日本原子力研究開発機構	成果展開事業委員会委員	地域共同研究センター	高島 正之
(独) 日本原子力研究開発機構	水素等の高速増殖炉多様化利用研究会	地域共同研究センター	高島 正之
(独) 日本原子力研究開発機構	敦賀本部研究開発強化検討委員会委員	地域共同研究センター	高島 正之
(財) 原子力環境整備促進・資金管理センター	ウラン廃棄物除染検討委員会委員	地域共同研究センター	高島 正之
(独) 日本原子力研究開発機構	敦賀国際エネルギーフォーラム運営委員会運営委員	教育地域科学部	伊佐 公男
美浜町	エネルギー環境教育推進委員会委員	教育地域科学部	伊佐 公男

(事務局資料)

資料 1-14-5 福井大学広域連携大学拠点検討委員会について

福井大学広域連携大学拠点検討委員会 委員名簿			
【特別顧問】有馬 朗人 元文部大臣			
【委員長】 福田 優 福井大学長			
【委員】 (五十音順, 敬称略)			
機 関 名	職 名	氏 名	
福井県	副知事	旭	信昭
福井大学	理事(研究・評価担当)・副学長	伊藤	春海
福井県立大学	教授	大竹	臣哉
福井大学	教授	小高	知宏
京都大学	原子炉実験所長	代谷	誠治
福井大学	工学研究科長	鈴木	敏男
福井大学	理事(経営・大学改革担当)・事務局長	高梨	桂治
大阪大学	教授	竹田	敏一
敦賀市	副市長	塚本	勝典
福井大学	理事(教育・学生担当)・副学長	中川	英之
福井工業大学	教授	中安	文男
日本原子力研究開発機構	副理事長	早瀬	佑一
文部科学省	大臣官房審議官(研究開発局担当)	古谷	毅
京都大学	教授	森山	裕丈
大阪大学	教授	山口	彰
名古屋大学	教授	山本	一良
【オブザーバー】 (五十音順, 敬称略)			
機 関 名	職 名	氏 名	
株式会社 原子力安全システム研究所	技術システム研究所長	木村	逸郎
財団法人若狭湾エネルギー研究センター	エネルギー研究開発拠点化推進組織所長	来馬	克美
日本原子力発電株式会社	取締役副社長	鈴木	英昭
資源エネルギー庁	原子力立地・核燃料サイクル産業課長	中西	宏典
関西電力株式会社	取締役副社長	森本	浩志
三菱重工業株式会社	原子力事業本部 原子力技術センター長	山内	澄

(事務局資料)

行政企画参画に関する教員個人評価の実施

全学の教員個人評価基準の大項目として「社会貢献活動」を定め、各学部の特성에応じた行政企画等への参画状況等を評価する体制を構築している【資料 1-14-6～9】。

資料 1-14-6 「福井大学総合データベースシステム」を活用した評価体制の構築

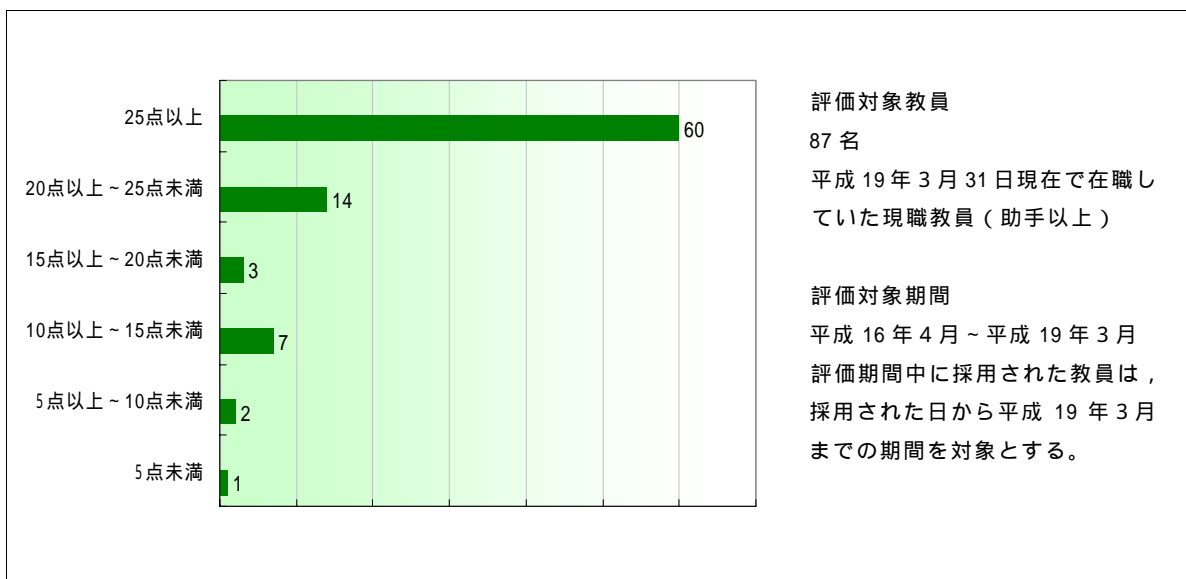
本学では、教員個人評価において教育・研究活動はもとより社会貢献活動についても重視しており、「福井大学総合データベースシステム」では、教員が活動状況を入力し、事務局が把握する行政企画参画データと合わせて、評価基礎資料として出力し、各学部の特性に於いた教員評価を実施している。

種別	機関名	委員会等の名称	役職・役職	全担当名	期間
委員	福井県産産業支援センター		委員	松本 哲典	2003.11～2004.03
委員	PC活用・itシステムLSI開発社	北陸テクノピア、077		深沢 昌、西 仁司、鶴岡 俊典、松井 哲典	2001.10～
委員	北陸産業共生協会の分離する課	北陸テクノピア、079		深沢 昌、西 仁司、鶴岡 俊典、松井 哲典	2001.10～
委員	いっしょくち推進指針策定委員会	福井県第2次係科化推進指針策定	福井県	松井 哲典	2005～
委員	『廃止措置・保守技術開発分科会』委員	電子力・エネルギー・関連技術活用研究会	(財)岩手県エネルギー研究センター	松井 哲典	2005～
委員	『廃止措置・保守技術開発分科会』委員	電子力・エネルギー・関連技術活用研究会	(財)岩手県エネルギー研究センター	松井 哲典	2005～
委員	おおい町	おおい町	総合計画一総務等入札審査委員会委員	松本 哲典	2006.08～2007.03
委員	北陸IT研究開発支援センター-特別委員会	2002.4～2002.12		松井 哲典	2002.04～

福井大学総合データベースシステム「行政企画等参画」画面

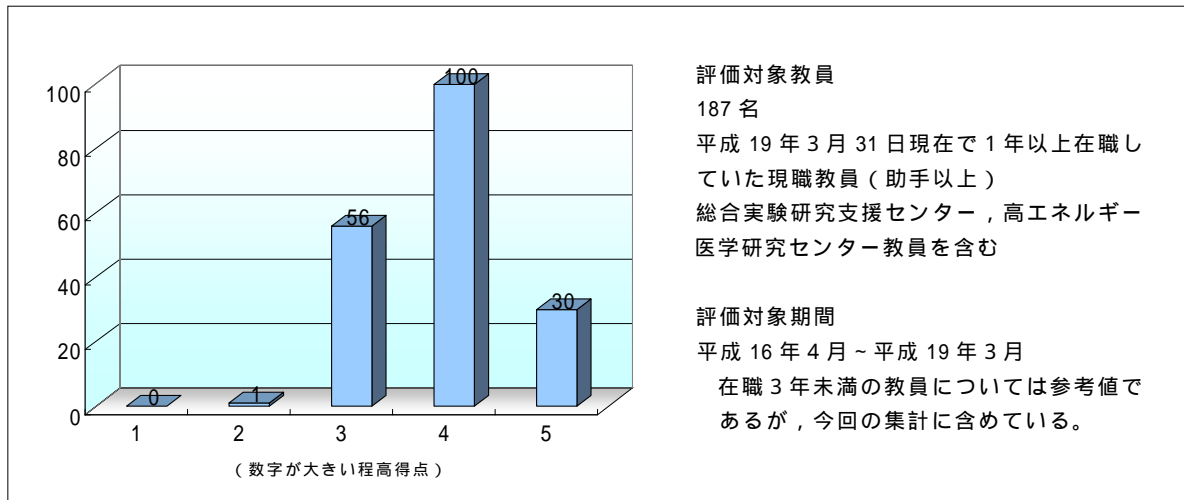
(「福井大学総合データベース」より)

資料 1-14-7 教育地域科学部社会貢献活動個人評価結果(平成 19 年度実施)



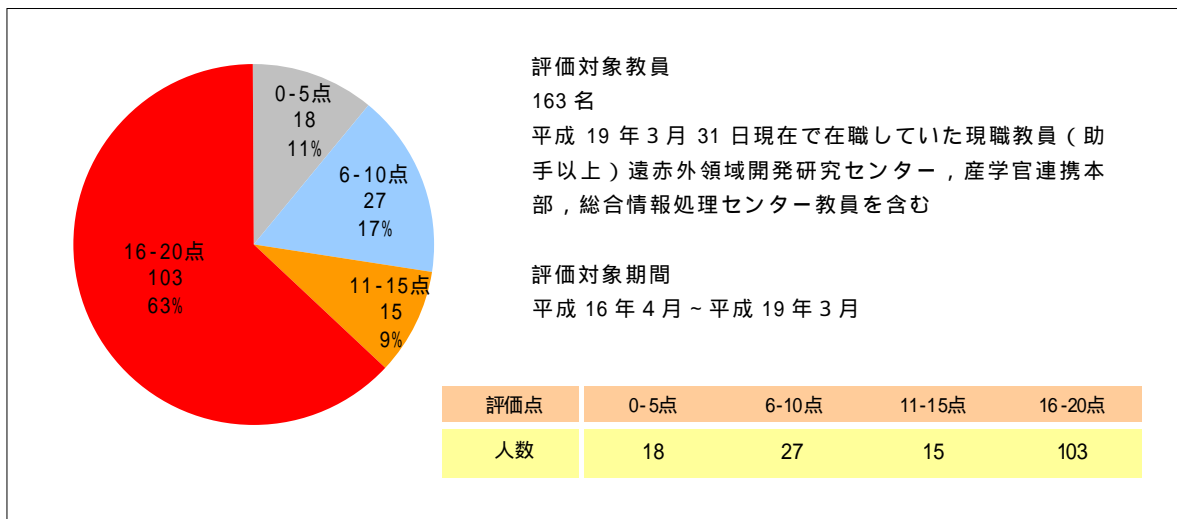
(評価課資料)

資料 1-14-8 医学部社会貢献活動個人評価結果（平成 19 年度実施）



（松岡キャンパス総務室資料）

資料 1-14-9 工学研究科社会貢献活動個人評価結果（平成 19 年度実施）



（評価課資料）

計画 1-15 **ウエイト** 「福井県内の高等教育機関及び医療機関との教育・研究・診療及び地域社会貢献に関する連携・協力関係を強化する。」に係る状況

大学連携リーグの形成による県内大学等との協力体制の確立
 福井県と県内 8 大学等で構成する「大学連携リーグ」において、各大学等と連携し、巡回講義・研究推進事業等を実施している【資料 1-15-1～3】。

資料 1-15-1 「大学連携リーグ」の発足による福井県内の高等教育機関との連携

本学をはじめとする県内 8 大学等が連携協力する「大学連携リーグ」を平成 19 年度に形成し、小・中・高等学校などの地域社会への教育研究推進に貢献している。

各大学が連携することにより、従来カバーできなかった分野の課外授業や各大学のシーズを集めた公開講座を開催することが可能となった。

大学連携リーグに参加する高等教育機関

「大学連携リーグ」が発足

8 大学・高専 小中高に課外授業

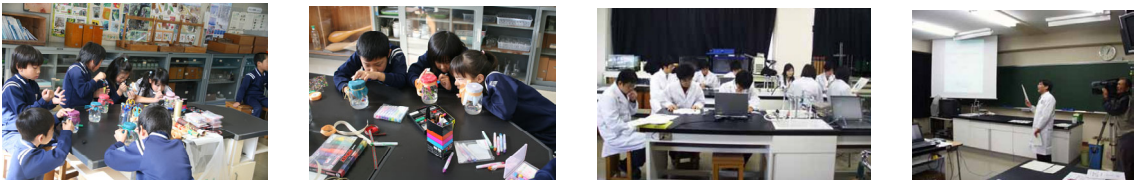
県立大学など県内の 8 大学・高等専門学校が交流して全体的な研究レベルを向上させようと「大学連携リーグ」を「一層高め、県民生活の質の向上を目指す」として、25 日、県庁で初年度の発足を宣言した。福井県庁で初年度の発足を宣言した。福井県庁で初年度の発足を宣言した。福井県庁で初年度の発足を宣言した。

（朝日新聞 H19.7.26）

（総務企画課資料）

資料 1-15-2 「大学連携リーグ」における連携授業（本学教員分抜粋）

学校名	テーマ	所属	氏名
小浜市西津小学校 6 年	酸性とアルカリ性を調べる ～マイクロスケール実験～	福井大学教育地域科学部	浅原 雅浩
勝山市北郷小学校 3, 4 年	ビックリフラワーをつくろう	福井大学教育地域科学部	前田 柁夫
勝山市北郷小学校 5, 6 年	ビックリフラワーをつくろう ～植物の一生をピンの中で観察する～	福井大学教育地域科学部	前田 柁夫
勝山市北郷小学校 1, 2 年	ビックリフラワーをつくろう	福井大学教育地域科学部	前田 柁夫
小浜市田島小学校 1, 2 年	ビックリフラワーをつくろう	福井大学教育地域科学部	前田 柁夫
高志高等学校 2 年	哺乳動物の 2 糖類消化酵素 mRNA の塩基配列決定と公共データベース (DDBJ) への登録	福井大学総合実験研究支援センター	松川 茂



(事務局資料)

資料 1-15-3 「大学連携リーグ」における連携研究推進事業

分野	研究課題	所属	氏名
地域産業	エコフレンドリーな繊維加工技術を目指した遺伝子改変による高機能酵素の創成	福井大学工学研究科 福井工業高等専門学校	末 信一郎 高山 勝巳
地域産業	地域資産を生かした観光政策の総合研究 ～福井県の観光と地域の持続可能な発展を目指して～	福井大学教育地域科学部 福井県立大学 福井県立大学 関西学院大学	木村 亮 山崎 茂雄 井上 武史 橋本 信之
地域産業	福井県企業のモノづくり(製造業)の特質の 解明と産業活性化策 ～技術経営視点から の産業分析と提言～	福井大学教育地域科学部 福井県立大学 福井県立大学 福井県立大学 福井県立大学 関西大学 名古屋工業大学	井上 博行 西崎 雅仁 竹内 貞雄 徳前 元信 木野龍太郎 榊原雄一郎 川村 大伸
医療・福祉	高齢者の認知機能に関する多面的研究 ～認知症及びうつ病の早期介入に向けての 医学・心理・社会学的アプローチ～	福井大学医学部 福井大学医学部 福井大学医学部 福井県立大学 仁愛大学	高橋 哲也 和田 有司 小坂 浩隆 大森 晶夫 水上喜美子
医療・福祉	脳・脊髄疾患後の痙性麻痺を有する患者に おける筋弛緩剤の効果に関する検討及び 歩行者補助器具の充実	福井大学医学部 福井大学医学部 福井大学医学部 福井大学教育地域科学部 福井医療短期大学 公立小浜病院 公立丹南病院	細田 哲也 久保田紀彦 有馬 英孝 吉澤 正尹 小林 康孝 廣瀬 敏士 吉田 一彦
医療・福祉	在宅高齢者の住環境とQOL, ADLに関する調査 ～福井在住の介護保険未認定者を中心として～	福井大学工学研究科 福井医療短期大学 福井医療短期大学	櫻井 康宏 堀 敦志 齊藤 等
安全・安心	鯖江活断層活動史の解明と地震防災	福井大学教育地域科学部 福井大学工学研究科 福井工業高等専門学校	山本 博文 小嶋 啓介 岡本 拓夫

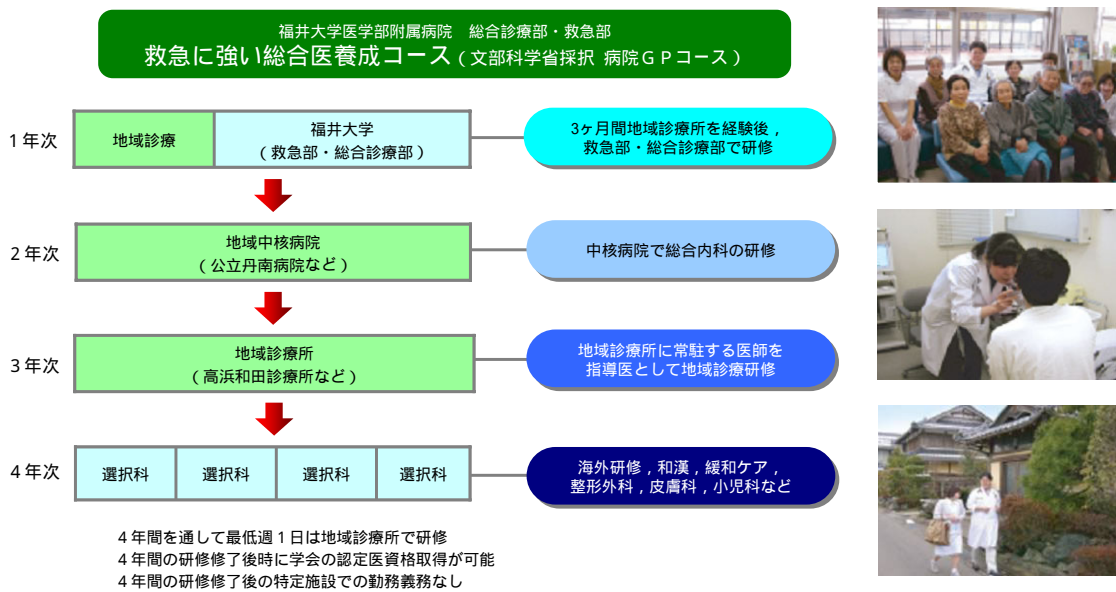
(事務局資料)

医療面での連携体制の構築

平成 17 年度病院 G P に採択された「救急に強い総合医，看護師養成コース」プログラムによる僻地診療専門医の養成，遠隔画像情報交換システムを用いた県内外の医療機関との連携【資料 1-15-4】，平成 19 年度に採択された北陸 5 大学の連携による「がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施【資料 1-15-5】等，県内医療界との連携強化に努めている。

資料 1-15-4 医療機関との連携による僻地医療支援について

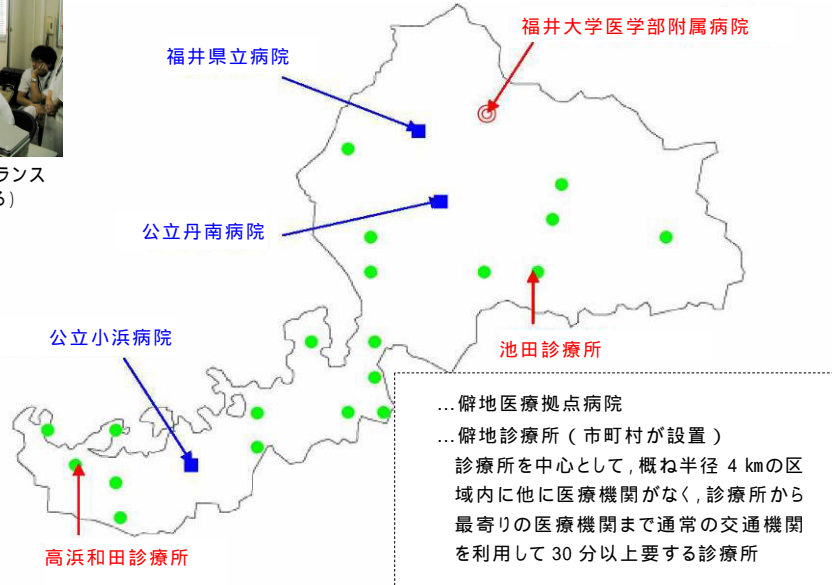
附属病院総合診療部内に地域診療教育支援センターを設置して IT 設備の充実を図り，地域診療所とのテレビ会議や人材派遣など研修の支援体制を確立した。高浜和田診療所・池田町診療所等とのテレビカンファランスを実施するなど，僻地等の地域医療を担う医療人の養成に努めている。これらの取組は，平成 17 年度の病院 G P に採択されるなど，高い評価を得ている。



高浜和田診療所とのカンファランス
(テレビ会議システムによる)



僻地診療所現況図



（本学 H P 「特色ある教育研究活動等」及び基礎資料より）

資料 1-15-5 北陸5大学の連携による「がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施

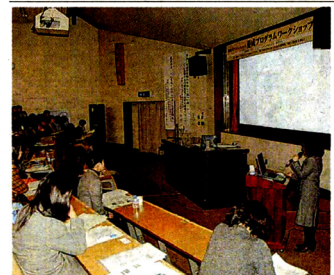
質の高いがん専門医等を養成する優れたプログラムに対し、文部科学省が財政支援を行う「がんプロフェッショナル養成プラン」において、平成19年度、北陸地区5大学（福井大、金沢大、富山大、金沢医科大学、石川県立看護大）が共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム-ICTによる融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築-」が採択された。

5年計画で各大学院に共通プログラムを設け、人材育成や附属病院・関係病院の診療の質の向上を目指すものであり、本学では「がん看護専門看護師（OCNS）」の教育課程を設定している。

平成20年2月には、次年度からの本格導入を前に同プランの内容や意義、がん看護専門看護師への理解を深めるためにワークショップを開催し、県内外から約100名の看護師の参加を得た。

- 構成大学名
- 福井大学医学部附属病院がん診療推進センター
 - 金沢大学医学部附属病院がん高度先進治療センター
 - 富山大学附属病院がん治療部
 - 金沢医科大学病院集中的がん治療センター
 - 石川県立看護大学看護学研究科

福井大と北陸の五大NSの体験などに関き「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」に基き、県内の看護師にがん看護専門看護師（OCNS）に対する必要理解を深めてもらい、永平寺町の福井大松岡キャンパスで開かれた。キャリアアップを目指す看護師約100人が参加し、すでに活躍するOC



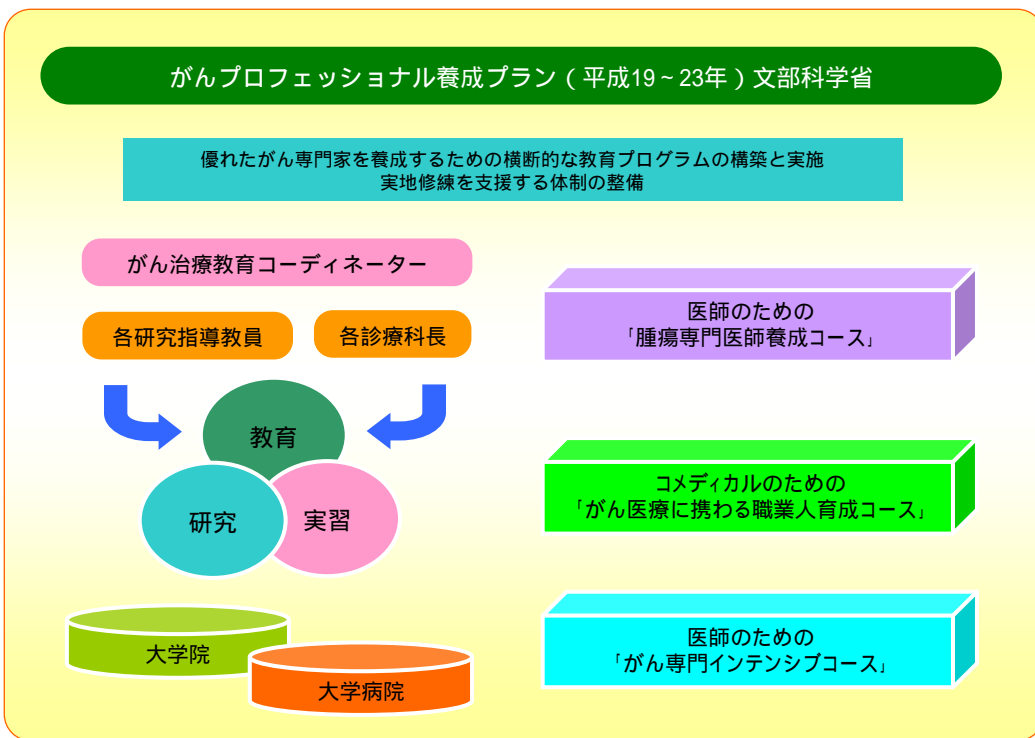
がん看護専門看護師について約100人が理解を深めたワークショップ=16日、永平寺町の福井大松岡キャンパス

同大の岩田浩子看護学部長が、同養成プログラムの概要を説明。大阪大附属病院でOCNSとして活躍する田墨恵子さんが、大学院での学習内容や現在の活動を報告した。田墨さんは「高度な知識を持つことで、一般の看護師では難しい病棟の枠を超えた医療体制の調整や後輩の指導ができるようになった」と、資格取得の意義を伝えた。県内の看護部長らが専門看護師への期待を発表。質疑応答も行われ、より質の高い看護を目指す意見が交わされた。

がん専門看護師育て 北陸5大学連携し講座 永平寺町

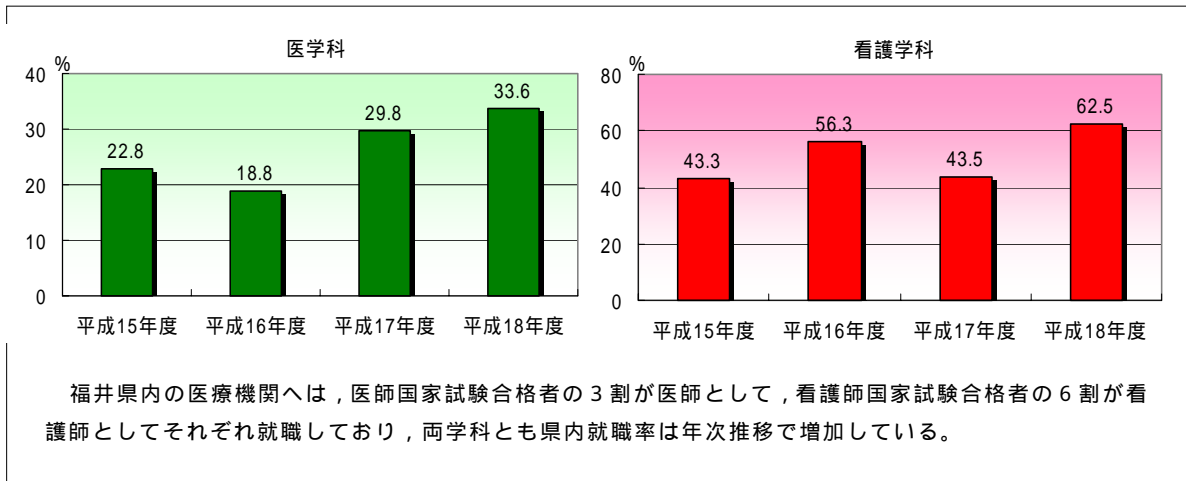
OCNSの教育課程（二年間）を今春開設する福井大が、OCNSを目指すきっかけにしようと同大における同養成プログラムの第一弾として開いた。

（福井新聞 H20.2.17）



（評価課資料）

資料 1-15-6 医学部卒業生の福井県内就職率の推移



(事務局資料)

県内大学との単位互換の推進

平成18年度に福井県立大学との単位互換協定を締結するなど，単位互換を積極的に推進し，利用者の拡大を図っている【資料1-15-7】。

資料 1-15-7 他大学等との単位互換の推進について

福井県立大学との大学院単位互換に関する協定を締結しました

本学と福井県立大学とは，大学院間における相互の教育内容の充実を図ることを目的として，単位互換に関する協定を締結し，平成18年9月27日（水）に福井県庁にて締結式を行いました。

県内で初となる今回の協定は，本学が今年度から取り組んでいる「創業型実践大学院工学教育による人材育成事業」が発端となっていて，双方の大学院が取り組むMOT（技術経営）教育を進める上で必要な科目の一部を，相互に補完します。これらの科目の履修は，福井情報スーパーハイウェイを介した双方向遠隔授業システムにより行われます。

協定書に署名する児嶋学長と
祖田福井県立大学学長

(本学HP「ニュース&トピックス」より)

他大学との単位互換による単位修得者数の推移

年度	単位修得者数 (人)
H16	12
H17	24
H18	103
H19	193

(「大学情報データベース」より)

県内外の大学等との単位互換に関する連携を深め，福井県立大学との協定締結・放送大学との連携強化など，単位互換を積極的に推進した結果，当制度を活動した単位取得者数は年々増加の一途を辿っている。

(事務局資料)

本学を中核とする原子力連携研究の推進
 福井県エネルギー研究開発拠点化計画に基づき、関西・中京圏の大学との連携拠点の設置を検討しており、本学を中核とした原子力研究の推進に努めている【資料 1-15-8～10, P73～75 資料 1-14-2～5】。

資料 1-15-8 エネルギー拠点化計画における県内外大学との連携推進について

「福井県エネルギー研究開発拠点化計画」の実現に向け、本学が中核となり京都大・大阪大・名古屋大・福井工業大・福井県立大等が連携する「広域連携大学拠点設置構想」を提案し、連携大学院や学部共同設置に関する拠点の在り方・規模・研究テーマ等について、具体化に向けた検討を進めた。

敦賀市の高速増殖炉「もんじゅ」や新型転換炉「ふげん」等の施設・人材を活用し、原子力だけでなく新エネルギー分野も含めた教育・研究分野の強化を目指している。

大学連携 敦賀に拠点

エネ推進会議

研究機関集積へ来年度構想

福井大と関西・中京圏



産学官トップが拠点化計画の進め方を話し合った推進会議。11日、敦賀市の若狭湾エネルギー研究センター

県のエネルギー研究開発拠点化計画を実現するため、産学官のトップが進め方を議論する第二回拠点化推進会議が11日、敦賀市の若狭湾エネルギー研究センターで開かれた。福井大を中核に関西・中京圏の大学との広域連携拠点を同市に設置する構想など、研究機関の集積を柱とした二〇〇八年度の推進方針を決めた。

県・同市・県内経済界、ルギー庁長官、勝野龍平、大塚、電力事業者の代表、地域経済産業審議官、文部省のほか、国から経済産業省の望月晴文資源エネルギー開発局長が出席。県経済

団体連合会の江守幹男会長が議長を務めた。連携大学拠点構想は、京都大、大阪大、名古屋大、福井工大、県立大などの参加を念頭に福井大が提案した。各大学と関係機関で検討委員会を発足。連携大学院や学部共同設置など拠点のあり方、規模、研究テーマといった具体化に向けた課題の検討を進める。

このほか、〇八年度の重点施策として、日本原電が、国内外の現場技術者を受け入れる原子力安全研修施設の整備に着手する方針を表明。日本原子力研究開発機構は、関西電力の原子力研究所のレーザ利用技術推進室(仮称)を敦賀本部内に開設することを決めた。

関西電力も、既に打ち出している電子線照射施設や高経年化研究施設に

加え、燃料電池を中心とする新エネルギー研究センター(仮称)の設置を新たに盛り込んだ。若狭湾エネルギー高速増殖炉「もんじゅ」、新型転換炉「ふげん」など既存施設を含め、研究機関の集積による人材育成、産業貢献の具体化を図る。

また、県や企業、大学などで「次世代エネルギー研究開発プロジェクト」を立ち上げ、燃料電池などの研究を推進。関連産業の県内集積を目指す。

これらの取り組みに対して、文科省の藤田局長は「連携大学拠点構想に積極的に参画するなど国としてできる限り支援したい」と強調。西川知事は「計画策定から三年目は、迎える、スケールアップを上げるための大事な時期、それぞれの立場で新たな手法を取り入れ、目標を達成しなければ、県民の気持ちに添えない」と各機関による着実な実行を要請した。

(福井新聞 H19.11.13)

資料 1-15-9 原子力研究に関する技術者育成拠点(サテライト教室)の設置

平成 20 年 1 月、県のエネルギー拠点化計画に盛り込まれた人材育成事業の一環として、敦賀市の高速増殖炉「もんじゅ」や新型転換炉「ふげん」において放射能の測定法等を学ぶためのサテライト研究室を敦賀市に設置した。

実習では「もんじゅ」や「ふげん」の資機材を活用することにより、より現場に即した研究を行うことができ、当サテライト研究室を原子力研究分野に関する高度技術者育成拠点として積極的に活用している。



福井大学サテライト研究室の設置(20.1.24)

(事務局資料)

資料 1-15-10 原子力教育研究に係る広域連携大学拠点設置構想について

背景

福井県：15 基 / 55 基の原子力発電所立地県 [関西電力，日本原子力発電，日本原子力研究開発機構]

日本の人材育成が喫緊の課題！ アジアにおける人材育成が急務！

経緯

平成 17 年 03 月 福井県が「エネルギー研究開発拠点化計画」を策定

平成 19 年 11 月 エネルギー研究開発拠点化推進会議開催 「平成 20 年度推進方針」を決定

エネルギー研究開発拠点化推進会議 平成 20 年度推進方針 重点施策

広域の連携大学拠点の形成

「もんじゅ」,「ふげん」等の研究施設と人材を活用し，特色のある原子力分野等の教育・研究機能を充実するため，**福井大学を中核に関西・中京圏等の大学との広域の連携大学拠点を敦賀市に形成する。**

県内の大学	広域の連携大学拠点を形成するため，関西・中京圏の大学等と具体化に向けた委員会を開催（福井大学）
国	上記拠点の形成に向けた協力・支援 ア）連携大学拠点の具体化に向けた委員会への参画 イ）連携大学拠点の基盤整備への貢献 など
敦賀市	上記拠点の形成等，人材育成や研究機能の集積に必要な用地についての協力

福井大学の基本方針

福井県敦賀市における原子力教育研究に関する広域連携大学拠点設置構想については，以下の Phase 1 ~ Phase 3 に分けて段階的に進めることとする。

Phase 1（H21.4）

福井大学附属国際原子力工学研究所（仮称）を設置する。

「もんじゅ」,「ふげん」の魅力为核心として，優れた人材を集める。

主に北陸・中京・関西圏の大学が共同運営・利用する。同時に共同利用する大学院学生の教育機能を備える。

並行して，連携・連合融合型研究科等の設置を目指し，入口・出口及び海外の市場調査や在り方の研究を行なう。

Phase 2（H23.4 予定）

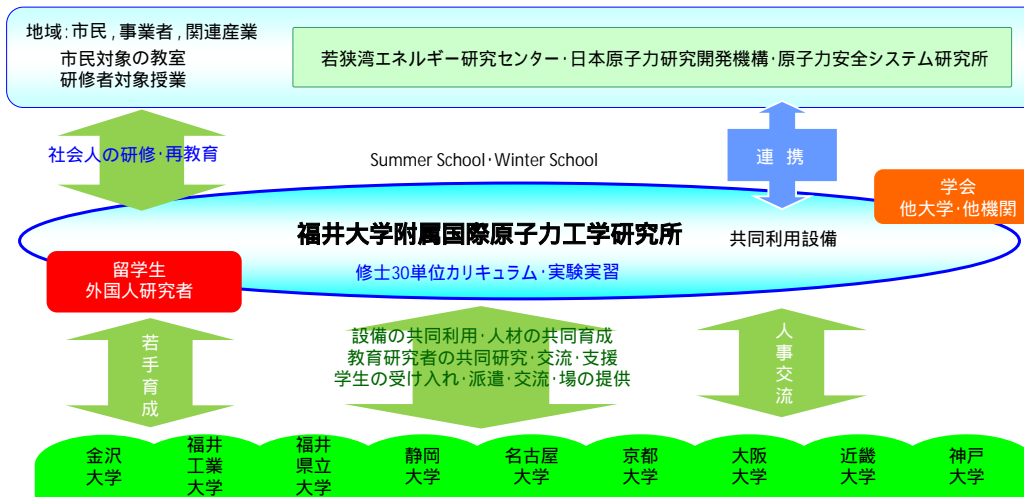
人材育成に関するフィージビリティ調査・研究に基づき，適切と判断される場合には，連携・連合融合型工学研究科等を設ける。

Phase 3

福井県に点在している，或いは設置が予定されている研究機関のヘッドクォーターとしての役割を果たす。

広い意味での原子力人材の育成：研究科・学科・大学院・学部等を構想する。

【 広域（北陸・中京・関西）連携拠点について 】



（「原子力教育研究に関する広域連携大学拠点設置構想に係る基本方針について」より）

b) 「小項目1」の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. ライフパートナー・探求ネットワーク事業，地元商店街との連携による地域教育活動，潜在・就業看護師の再教育等，地域の子ども達・住民・医療従事者等と深く結びついた活動は，優れた教育プログラムとして各方面から高く評価されている。また，全国に先駆けて実施した市民開放プログラム，種々のイベントによる大学開放事業，地域ニーズに応じた公開講座等，本学の理念である「地域に貢献しうる大学」としての取組を積極的に実行している。
2. 本学と地域社会との知的創造サイクルの形成を目指す「産学官連携ポリシー」の理念に基づき，産学官連携本部への改編による組織強化，研究成果等の情報発信体制の整備，県内企業等と深く結びついた「福井方式」による共同研究の推進，地方公共団体との友好協力協定に基づく連携事業の促進等，地域社会に根ざした産学官連携の推進に努めている。これらの取組の成果は，外部資金受入金額・特許出願件数・地域共同研究センター協力会会員数等の大幅増，大学発ベンチャー企業の設立等という形で具現化されている。
3. 大学等との連携については，8高等教育機関による「大学連携リーグ」の推進，県内大学との単位互換協定，福井県エネルギー研究開発拠点化計画に基づく関西・中京圏の大学との連携拠点の設置など，地域のニーズに直結した教育研究を推進している。また，僻地診療専門医の養成，遠隔画像情報交換システムを用いた県内外医療機関との連携など，地域医療の充実に向けた取組も積極的に行っている。これら連携体制の構築に関しては，地域密着型教育・原子力研究・画像診断医学等，本学が持つ特性を活かして主導的な役割を果たしており，各種成果も上がっている。

小項目2「国際交流と協力事業を推進し、国際的に活躍できる人材の育成を図るとともに、共同研究等を通じて、国際貢献を目指す」の分析

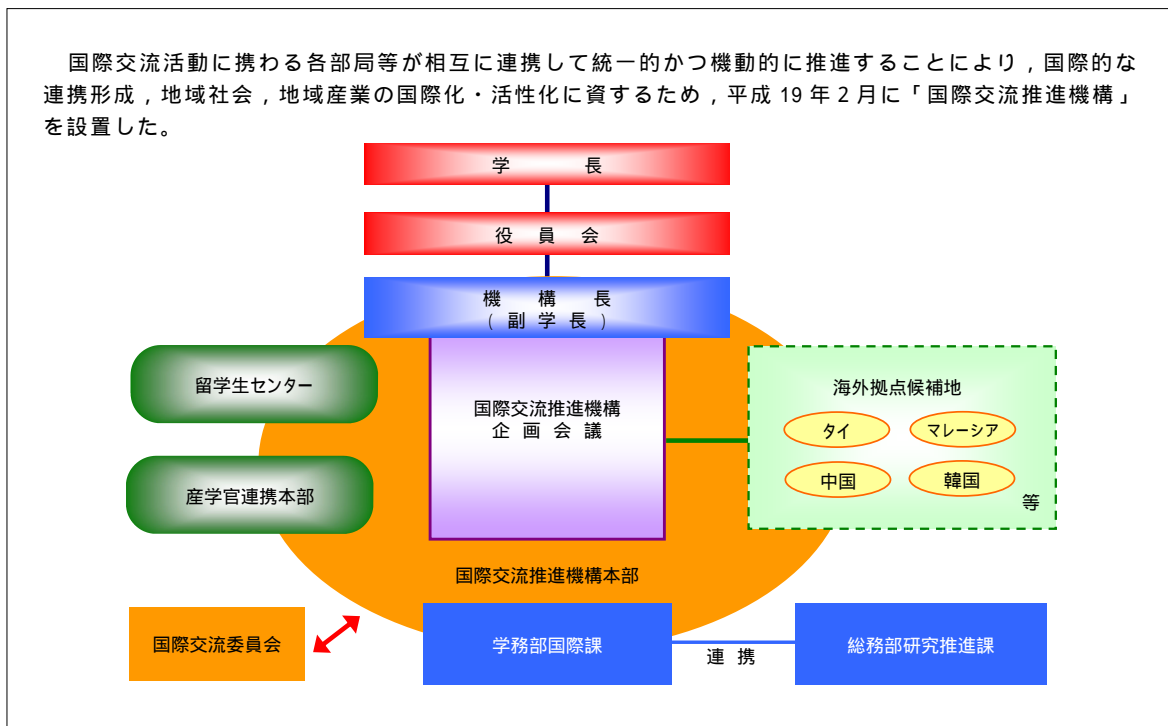
a) 関連する中期計画の分析

計画 2-1 **ウエイト** 「留学生センターに国際交流機能を持たせ、国際交流の一層の推進を図る。」に係る状況

国際交流推進機構の設置

大学間競争が激しさを増しつつある中で、本学の特色を最大限に生かした国際的水準での教育研究機能を更に強化するため、平成18年度に「国際交流推進機構」を設置し、国際交流を全学的に推進することとした【資料2-1-1】。また、当機構の下に企業も利用可能な海外拠点を構築し、地域諸国家との交流・次世代を担うべき若き人材の育成・共同研究などを積極的に進めることとした【資料2-1-2】。

資料 2-1-1 福井大学国際交流推進機構の設置について



(「福井大学国際交流推進機構組織図」より)

資料2-1-2 海外研究拠点の設置

中国の化学繊維は世界生産の5割を突破し、経済成長が進む一方で環境への規制が強まっている。このような状況の中、染色など繊維を加工する際に出る廃液を減らす技術を普及させることを目的とし、平成19年度に本学との協定校である浙江理工大学内に、化学繊維に関する研究拠点を開設した。

当研究拠点を中心とし、本学から教員を派遣して現地の大学・企業・中国に進出している福井県内企業との産学連携を進め、本学の得意分野である繊維分野の技術を現地に売り込み、ロイヤルティ収入を得ることを見込んでいる。



開所式の様子



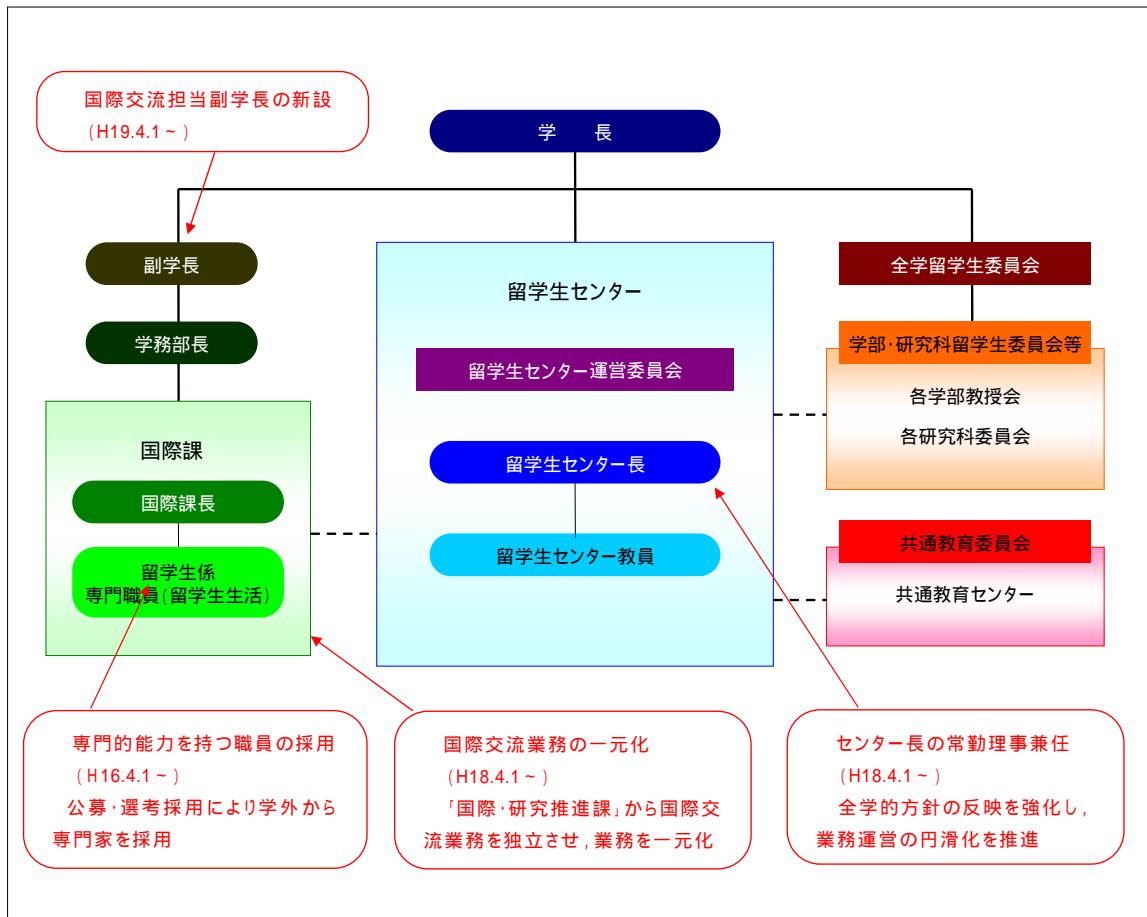
海外拠点の設置(中国浙江理工大学内)

(事務局資料)

留学生センターの機能強化

留学生センターの機能を強化するため、常勤理事のセンター長兼任による全学的な方針の反映，国際交流担当職員の採用，業務の一元化等を実施し【資料 2-1-3】，留学生相談窓口の強化，施設・設備の整備，交流活動の充実等を図った【資料 2-1-4～7】。

資料 2-1-3 国際交流運営体制の強化について



(「福井大学留学生センター組織図」より)

資料 2-1-4 留学生センターにおける学内交流活動について

留学生センターでは、人間関係のネットワークを通して、留学生の精神的な安定を図ること，相互扶助関係を構築すること，留学生及び日本人学生の国際性の涵養を図ることを目的とし，留学生相互の交流・日本人学生との交流を推進している。

また，学内交流活動は福井大学留学生会が中心となり，生協 SOSEN 部などと協力しながら，国際交流ラウンジの設置や，ビデオショー，歓送迎会，交際交流キャンプ，スキー旅行，各種スポーツ大会などを開催している。



国際交流ラウンジ



スキーツアーの様子

(留学生センターHP「学内交流活動」より)

資料 2-1-5 留学生相談の実施について

相談内容

進学、就職、研究・学習を中心に事件・事故、生活一般、異文化適応、精神衛生等を含む相談を年間200件以上受け、必要に応じ関係教職員を交えて問題を解決しています。最近の傾向として、卒業後日本以外の国に留学したいという相談や、求職の相談、更には就職のための英語学習相談などが増えています。

また、地域交流活動、就職支援の活発化に伴い、関係機関や企業からの来訪相談も多いです。(年間約50件)。

在学中の留学生だけでなく、卒業留学生、日本人学生、国際交流の手がかりを！という市民の皆さん、どなたでも来訪相談を歓迎いたします。

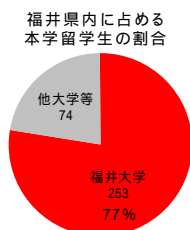
相談実績

年度	教育地域科学部	医学部	工学部	合計
H16	64	-	187	251
H17	48	2	153	203
H18	37	0	167	204
H19	58	1	136	195

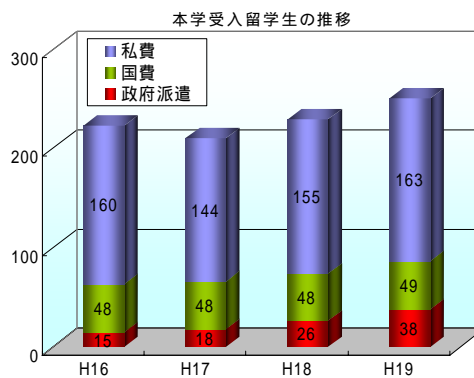
(留学生センターHP「福井大学で学ぶ留学生への情報」より)

資料 2-1-6 受入留学生数の推移

福井県内の高等教育機関全体のうち、本学では約8割の留学生を受け入れており、留学生センターの整備による受入体制の整備、きめ細やかな日本語学習プログラム、地域交流活動の充実、留学生同窓会の活動支援等の努力により、留学生数も年々増加している。



(H19.11現在)



(事務局資料)

資料 2-1-7 外国人留学生の声



私は、先輩に勧められて福井大学を受験しました。今年の4月に福井に来て大学生の生活を始めました。うれしかったです。最初の時間は友達が少ないけど、今私のまわりに日本人の友達、海外の友達一杯います。先生達はとてもやさしいです。いつも留学生を応援してくれます。大学の交流活動、福井県の交流活動はとても強いです。留学生の私たちは毎日楽しみにしています。いつも Fukui-a nice place, 福井一幸せな町と感じています。福井大学に来てとてもよかったと思います。

ベトナム TRAN THI UYEN SA

(「福井大学で学ぶ外国人留学生からのメッセージ」より)

留学生と地域社会との交流促進

次世代を担い国際化に対応できる人材育成等の要請を受け、地域の小・中学校等へ多数の留学生を派遣し、彼らの母国の文化紹介等を通じて、地域社会における国際理解教育及び国際交流を促進した【資料 2-1-8～9】。

資料 2-1-8 地域社会への留学生の派遣について

地域社会の国際化を支援するために、小中高校での総合学習・国際理解教育、市民交流活動等に対して留学生を一日講師として毎年約 50 件程度派遣している。

また、地域経済界等の要望に応じて、経済ミッション来訪時の通訳団の編成、各種通訳、語学講師の派遣なども行っている。

(派遣実績)

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
派遣件数 (件)	68	45	45	59

(派遣内容)

主な派遣先

県内小・中・高等学校、企業、商工会議所、福井県、民間団体、国際交流関係イベント等

主な活動内容

語学指導、通訳、各国紹介、日本文化体験、地域との交流活動、調査協力、観光モニター等



小・中・高等学校への派遣



公民館への派遣

(派遣先関係者の感想)

本校の生徒は外国の人や文化に触れる機会が少ないため、よい経験になったと思う。子ども達の英語によるコミュニケーション能力や英語学習への意欲が高まりました。また、英語を通して外国の文化に触れることができました。特に「一口会話」で直接英語のお話ができ、子ども達はとてもうれしかったと思います。

留学生の方が平易に分かりやすく話しかけ、アトラクションにも応じてくれたため、子ども達はすぐに打ち解け、仲良しになれました。

たまに外人の方を見かけるものの、直接話す機会がなく、このような機会に恵まれ非常に良かった。昼食を一緒にしていただいたので、親近感がさらに増した。

外国の方と英語や日本語でコミュニケーションをとりながら楽しく触れ合うことができた。いろいろな国のことを知ることができた。

本町独自の「Hello English Project」をますます充実・発展させるために、貴大学留学生の支援が大いに必要です。今後ともよろしく願いいたします。

(事務局資料)

資料 2-1-9 平成 18 年度 留学生地域交流活動一覧

月 日	活動内容	参加者数
4 月 9 日	福井春祭り時代行列(武者行列)	21
4 月 21 日	福井中央郵便局一日外務員	1
5 月 27 日	福井市シルバー人材センター, 小さな国際交流	1
5~8 月	福井市中藤小学校 国際理解教育(英語活動)	1
5~6 月	外国語による外国文化紹介講座(FIA 嶺南センター)	1
5 月 12 日	県内企業と留学生の交流会	53
6 月 14 日	附属小 1 年生 ゲームや歌での交流	2
6 月 15 日	附属小 4 年生野球をする中で野球用語を英語で	1
6 月 16 日	附属小 4 年生一緒に体育で遊びながら	1
6 月 19 日	附属小 2 年生国の紹介, 国のゲームや歌	2
6 月 20 日	附属小 5 年生国の気候や産業を紹介してもらう	4
6 月 22 日	附属小 3 年生英語の歌, ゲーム, 踊り, 暮らし, 算数	1
6 月 22 日	附属小 6 年生国の紹介, ゲームや歌	1
6 月 24 日	「チャレンジ! ザ・国際交流 ~座禅・そば打ち体験~」福井市主催	15
6 月 24 日	外国人留学生と県民の日帰りバスツアー	10
6 月 24 日	ジャワ島中部地震被災者支援募金	16
7 月 2 日	「ゆかたの無料講習会」社会保険センター	20
5~8 月	福井市中藤小学校 国際理解教育(英語活動)	1
7 月 20 日	県立盲学校 少年育成国民会議のタイ研修旅行参加学生指導	1
8 月 6 日	田原町商店街夏祭	3
8 月 26 日	International Exchange Plaza(International Sakai)	7
8 月 29 日	県立盲学校 少年育成国民会議のタイ研修旅行報告会	1
8 月 31 日	高志高校文化祭アンケート(学校制度, 徴兵制度他)	5
9 月 1 日	春江中央公民館夕食懇親会とミーティング	3
9 月 29 日	福井市河合公民館国際交流事業「自国料理紹介」	1
10 月 3 日	科学技術高校学校祭での国際交流活動行事	2
10 月 6 日	アジア原子力講演会パネラー(社)日本原子力産業協会	2
10 月 7 日	丸岡古城祭り	15
10 月 7 日	福井市世界文化紹介講座	3
10 月 27 日	JASSO 産業施設の見学ツアー	25
10 月 30 日	西藤島小学校 自国紹介	2
11 月 4, 5 日	公文 English Immersion Camp	6
11 月 15 日	西藤島小学校 自国ゲーム紹介	2
11 月 16 日	福井青年館「フィリピン文化講座」	1
11 月 18 日	湊小学校 Minato International Day	10
11 月 22 日	福井市麺類業組合青年会「蕎麦打ち体験 & 試食」	14
11 月 23 日	福井市「世界の文化紹介講座」講師	3
12 月 9 日	インターナショナルさかい「世界文化紹介講座」	1
12 月 10 日	九頭竜ライオンズクラブ「わくわく体験 食フェア」	15
12 月 12 日	松岡小学校 6 年生 3 クラス「国際理解教育」	3
12 月 16 日	福井市国際交流協会「クリスマスふれあい交流会」	3
12 月 29 日	インターナショナルクラブ餅つき大会	12
1 月 8 日	商工会議所 / 福井珠算協会 そろばん英語読み上げ算	1
1 月 30 日	啓蒙小学校 5 年生 81 名母国の挨拶, 子供の伝統的な遊び, 食べ物, 暮らし	2
2 月 25 日	インターナショナルさかい「第 2 回世界文化紹介講座」	2
3 月 10 日	福井市旭公民館(自国の文化, 言葉, 遊び紹介)子供 40 名	1
3 月 11 日	福井市国際交流協会ボランティア養成講座	2

(留学生センターHP「地域交流活動一覧」より)

計画 2-2 「海外の学術交流協定校等への学生派遣，単位互換制度を整備する。」に係る状況

海外留学支援体制の強化

学術交流協定締結による授業料の免除【資料 2-2-1~2】，留学希望者を対象とした留学説明会の開催【資料 2-2-3】，メーリングリストの立ち上げ【資料 2-2-4】，ニーズ調査の実施等により，海外留学支援体制を強化するとともに，学術交流協定校が実施するサマープログラム等についても広く周知し【資料 2-2-5~6】，多様な留学の機会を提供した【資料 2-2-7】。また，単位互換制度については，平成 18 年度に休学期間中の留学で取得した単位についても認定できるよう整備し，海外留学の充実を図った【資料 2-2-8】。

資料 2-2-1 大学間交流協定校一覧

機関名	国名	締結年月日	学生交流
ラトガーズ大学	アメリカ合衆国	昭和 56 年 10 月 07 日	
西安外国語大学	中国	昭和 60 年 09 月 09 日	学生の交流の覚書有
西安理工大学	中国	昭和 60 年 09 月 21 日	学生の交流の覚書有
浙江大学	中国	平成 3 年 09 月 25 日	学生の交流の覚書有
ロシア科学アカデミー応用物理学研究所	ロシア	平成 11 年 08 月 01 日	
モントクレア州立大学	アメリカ合衆国	平成 12 年 05 月 17 日	学生の交流の覚書有
北京機械工業学院	中国	平成 12 年 08 月 25 日	学生の交流の覚書有
モスクワ工科大学	ロシア	平成 12 年 10 月 10 日	
浙江理工大学	中国	平成 12 年 12 月 11 日	学生の交流の覚書有
南昌航空大学	中国	平成 13 年 05 月 15 日	学生の交流の覚書有
国立雲林科技大學	台湾	平成 14 年 04 月 25 日	学生の交流の覚書有
江南大学	中国	平成 14 年 08 月 26 日	学生の交流の覚書有
インドネシア大学	インドネシア	平成 14 年 9 月 30 日	学生の交流の覚書有
リヨン繊維・化学技術院	フランス	平成 14 年 10 月 23 日	学生の交流の覚書有
北京化工大学	中国	平成 14 年 11 月 01 日	学生の交流の覚書有
蘇州大学	中国	平成 14 年 11 月 27 日	学生の交流の覚書有
クレムソン大学	アメリカ合衆国	平成 15 年 02 月 11 日	学生の交流の覚書有
東義大学校	韓国	平成 15 年 03 月 21 日	学生の交流の覚書有
メーン大学	フランス	平成 15 年 05 月 28 日	学生の交流の覚書有
中国医科大学	中国	平成 15 年 09 月 16 日	
東華大学	中国	平成 16 年 05 月 25 日	学生の交流の覚書有
テキサス大学 M.D.Anderson がんセンター	アメリカ合衆国	平成 16 年 08 月 12 日	
イティハッド大学	アラブ首長国連邦	平成 14 年 11 月 10 日	学生の交流の覚書有
瀋陽師範大学	中国	平成 17 年 07 月 19 日	学生の交流の覚書有
シャクアラ大学	インドネシア	平成 17 年 08 月 08 日	学生の交流の覚書有
天津科技大学	中国	平成 17 年 12 月 20 日	学生の交流の覚書有
イーストウエスト大学	バングラデシュ	平成 18 年 01 月 26 日	学生の交流の覚書有
ウプサラ大学	スウェーデン	平成 14 年 03 月 18 日	
マルチメディア大学	マレーシア	平成 18 年 04 月 05 日	学生の交流の覚書有
フィンドレー大学	アメリカ合衆国	平成 18 年 05 月 31 日	学生の交流の覚書有
インド工科大学カラプール校	インド	平成 18 年 08 月 10 日	
武漢科技大学	中国	平成 14 年 06 月 17 日	学生の交流の覚書有
ジョセフフーリエ大学	フランス	平成 19 年 10 月 30 日	学生の交流の覚書有

(国際課資料「大学間交流協定校一覧」より)

資料 2-2-2 部局間交流協定校一覧

機 関 名	国 名	締結年月日	学生交流
シドニー大学 School of Physics	オーストラリア	平成 06 年 02 月 15 日	
ハンブルク大学人文科学部アジア・アフリカ研究所	ドイツ	平成 07 年 04 月 01 日	学生の交流の覚書有
シドニー大学 School of Physics	オーストラリア	平成 11 年 06 月 01 日	
ワシントン大学医学部マリノット放射線医学研究所	アメリカ合衆国	平成 11 年 06 月 29 日	
延世大学工科大学	韓国	平成 12 年 03 月 01 日	学生の交流の覚書有
東亜大学校工科大学	韓国	平成 12 年 05 月 02 日	学生の交流の覚書有
クルナ科学技術大学	バングラデシュ	平成 12 年 07 月 01 日	学生の交流の覚書有
キングモンクト工科大学	タイ	平成 12 年 08 月 01 日	学生の交流の覚書有
D.Y.Efremov 電気物理研究所精密理工学センター	ロシア	平成 12 年 12 月 01 日	
天津工業大学	中国	平成 12 年 12 月 13 日	学生の交流の覚書有
ワルシャワ工科大学化学プロセス工学部	ポーランド	平成 13 年 03 月 01 日	学生の交流協定含む
アンナマライ大学工学部	インド	平成 13 年 03 月 01 日	学生の交流の覚書有
カールスルーエ研究センター パルス出力・マイクロ波研究所	ドイツ	平成 13 年 03 月 05 日	
釜慶大学校工科大学	韓国	平成 13 年 03 月 24 日	学生の交流の覚書有
内蒙古工業大学	中国	平成 13 年 03 月 26 日	学生の交流の覚書有
嶺南大学校工科大学	韓国	平成 13 年 06 月 25 日	学生の交流の覚書有
モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成 13 年 08 月 03 日	学生の交流の覚書有
中国電子科技大学プラズマ研究所	中国	平成 13 年 12 月 01 日	
ブルガリア科学アカデミー電子工学研究所	ブルガリア	平成 14 年 03 月 01 日	
シュトゥットガルト大学プラズマ研究所	ドイツ	平成 14 年 03 月 01 日	
釜山大学校師範大学	韓国	平成 14 年 11 月 11 日	学生の交流の覚書有
東南大学動力工程系	中国	平成 14 年 12 月 27 日	学生の交流の覚書有
中国科学院南京土壤研究所	中国	平成 16 年 07 月 19 日	学生の交流の覚書有
ロシア科学アカデミーシベリア地区物理学研究所	ロシア	平成 17 年 01 月 17 日	学生の交流の覚書有
上海理工大学動力工程学院	中国	平成 17 年 01 月 31 日	学生の交流の覚書有
オタワ大学医学部	カナダ	平成 12 年 03 月 18 日	学生の交流の覚書有
上海師範大学	中国	平成 17 年 07 月 12 日	学生の交流の覚書有
テキサス大学ヒューストン健康科学センター	アメリカ合衆国	平成 17 年 09 月 08 日	
マケレレ大学医学部	ウガンダ共和国	平成 18 年 04 月 04 日	学生の交流の覚書有
蘭州交通大学機械電子工学院	中国	平成 19 年 12 月 13 日	学生の交流の覚書有
台湾科技大学	台湾	平成 20 年 02 月 05 日	学生の交流の覚書有
華東理工大学機械・動力工学院	中国	平成 20 年 02 月 29 日	

(国際課資料「部局間交流協定校一覧」より)



フィンドレー大学との協定締結 (H18.5.31)



オタワ大学教授の表敬訪問 (H17.6.1)

資料 2-2-3 留学説明会の開催について

平成 18 年度から、福井大学生協同組合と協力し、これまで別々に行われていた生協の語学研修説明会と合同で開催することにより、参加者数の増加に努めた。平成 19 年度からは、それまで年 1 回の開催であった海外留学説明会の回数を増やし、周知を徹底したことにより、説明会に参加する学生数は大幅に増加した。

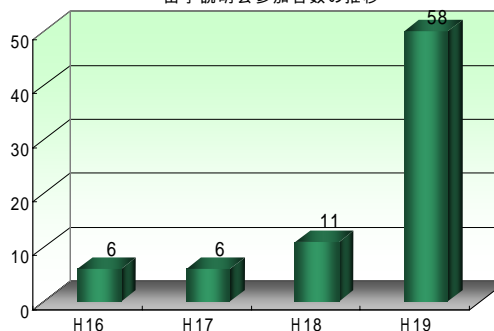
留学説明会の開催状況

年度	開催日	説明会名	参加者数(人)
平成 16 年	8 月 6 日	海外留学説明会	6
平成 17 年	7 月 22 日	海外留学説明会	6
平成 18 年	7 月 7 日	海外留学・語学研修説明会	11
平成 19 年	5 月 18 日	韓国東亜大学校サマーセッション説明会	10
	6 月 29 日	海外留学・語学研修説明会(第 1 回)	25
	11 月 26 日	海外留学・語学研修説明会(第 2 回)	19
	2 月 7 日	インドアンナマライ大学交換留学報告会	4



留学説明会の様子

留学説明会参加者数の推移



(参加者の感想)

身近に留学したことがある人がいないので、実際に体験談を聞いて良かった。
 実際に留学した先輩の話聞いて、留学への意欲が湧いた。
 留学に関する知識がほとんどなかったなので、この機会に様々なことを学べて良かった。
 留学経験者の人たちの目の輝きに、大変刺激された。

(事務局資料)

資料 2-2-4 海外留学情報メーリングリストについて

平成 19 年度に海外留学情報メーリングリストを立ち上げ、プログラム参加者募集、説明会開催、奨学金応募者募集等の情報を月 1 ~ 2 回のペースで希望者に配信している。

海外留学情報メーリングリスト登録者数 (平成 20 年 3 月現在)

所属	教育地域科学部	工学部	工学研究科	計
登録者数	22	16	3	41

(事務局資料)

資料 2-2-5 学生に提供する海外派遣プログラム一覧

プログラム名	派遣先	内容	期間	実施主体
交換留学	学术交流協定校 世界 17 カ国 47 校	現地の学生と 同じ	3ヶ月～ 1年	福井大学及び 派遣先協定校
オカナガン大学語学研修	オカナガン大学(カ ナダ)	英語語学研 修	6週間	福井大学教育地 域科学部
ハンブルク大学サマースクール	ハンブルク大学(ドイ ツ)	ドイツ語語学 研修	1ヶ月	福井大学教育地 域科学部
Korean Summer Session	東亜大学校(大韓 民国)	韓国語及び 韓国文化	2週間	東亜大学校
International Summer School in France In Science and Engineering	リヨン繊維・化学技 術学院(フランス)	フランス語及 び工学	1ヶ月	リヨン繊維・化学技 術学院
Zhejiang Sci-Tech University Academic Exchange Program	浙江理工大学(中 国)	中国語	半年	浙江理工大学

(「平成 19 年度海外派遣プログラム一覧」)

資料 2-2-6 海外留学支援に関する広報について

海外留学支援

留学生センターでは海外留学の相談・案内も取り扱っています。センター入口に設置されたリフレッシュコーナーは海外留学支援資料室も兼ね、各種資料が置かれ、リフレッシュコーナーの隣には海外留学支援相談担当の教員がいます。留学説明会や海外留学のための奨学金情報は、その都度国際課の掲示板に掲示します。

また、奨学金情報は日本学生支援機構(JASSO)のホームページにも多数掲載されていますので、詳しくはこちらをご覧ください。

[日本学生支援機構のHP http://www.jasso.go.jp/index.html](http://www.jasso.go.jp/index.html)

本学には世界各国に学术交流協定校があり、経費や利便性の点などから、協定校への留学を勧めています。



韓国東亜大学校 Korean Summer Sessionの様子



アメリカクレムソン大学 交換留学の様子

(留学生センターHP等より)

資料 2-2-7 学生派遣実績

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
交換留学	3	2	6	2
長期休暇等を利用した留学	23	18	18	19
計	26	20	24	21

(事務局資料)

資料 2-2-8 単位互換制度の拡充

平成 18 年 7 月に福井大学学則を改正し、学生が休学期間中に外国の大学等において授業科目を履修した場合、教育研究上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすこととし、更なる留学機会の拡充を推進した。

福井大学学則（抄）

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第 49 条 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位（医学部医学科にあってはこれに相当する授業時間とする。以下第 50 条第 2 項及び第 51 条第 3 項において同じ。）を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、第 58 条の規定により留学する場合、休学期間中に外国の大学又は短期大学において授業科目を履修する場合及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(福井大学規則集より)

資料 2-2-9 派遣留学制度を利用した学生の声

語り尽くせない程に多くの思い出の詰まった 4 ヶ月で得たものは、英語や学術的なこと、大好きなルームメイト、世界中から集まってきた友達だけではありません。「学ぶことの楽しさ」に感動し、自分何かを見つけそれを深めていく面白さを知り、高いハードルがあったらそれを乗り越えてみせるというやる気、自信を自分自身の中に感じることができました。

驚きだったのは、米国の学生がものすごく勉強すること。すっかり刺激を受けて、勉強漬けの 4 ヶ月を過ごしました。初めのうちは語学力向上を目的にしていたのですが、教育の歴史やコミュニケーション学などを学ぶうちに、改めて“教師”という自分の目標を再確認することに。将来をじっくり考える貴重な体験だったと思います。

大学で学ぶうちに、アジアの伝統建築に強く惹かれるようになりました。そこでインド南部のアンナマライ大学に 1 年間留学し、現地の建築物の調査をしました。本来の専攻よりも社会学的アプローチを必要とする研究でしたが、先生をはじめとする大学の皆様のおかげで、実りの多い日々を送ることができたと思っています。いつかまた渡航して、両国の文化交流に携わることが目標です。



さよならパーティーでのワンシーン

(大学案内より)

計画 2-3 「短期留学生プログラムの充実を図る。」に係る状況

短期留学生プログラムの拡充

短期留学プログラム【資料 2-3-1】の日本語教育として、日本語学習用CALL教材を独自に開発し、ホームページに掲載して渡日前の自習用教材として汎用の便を図り、渡日後効果的に日本語能力を向上できるようにした【資料 2-3-2】。また、専門教育については、特別研究課題の追加など内容の改善を図るとともに、日本人学生にも門戸を広げ交流の機会を提供した【資料 2-3-3~4】。当プログラムに対する参加者の満足度は高く、参加者の本学大学院への進学者数も年々増加している【資料 2-3-5~6】。

資料 2-3-1 福井大学短期留学プログラムについて

プログラム概要

学術交流協定校からの留学生向けに作られたプログラムで、**学部生向けには日本語・日本事情に関する科目と主に英語による専門教育を、また大学院生には英語による研究指導を行っている**。日本語能力を必要としないため、これまで**日本語を習ったことのない学生でも参加が可能**。学部生向けの専門教育では 70 もの科目が用意されており、留学生に幅広い選択肢を提供している。

期間 10月～9月（1年間）

定員 20名

プログラム内容（平成 19 年度）



学部学生： 修了要件：30 単位

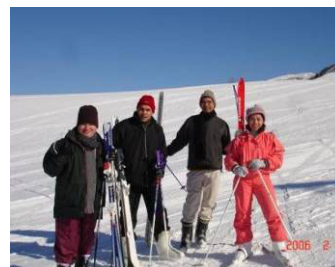
日本語・日本事情系科目（10 単位必修）

伝統産業計科目 2 科目（2 単位必修）

専攻科目 4 分野（社会・文化系、環境系、情報系、物質系）計 71 科目（18 単位必修）

8 単位の特別課題研究が含まれ、研究をしたいという学生に研究室に所属して研究を行う機会を与えている。

修士学生： 英語による研究指導及び日本語教育



（平成 19 年度「福井大学短期留学プログラム募集要項」等より）

資料 2-3-2 ウェブを利用した日本語の文字・語彙学習用ソフト（CALL）について

教材 1 : Katakana Dictation 書いてみよう

【使用者対象】初級～上級日本語学習者

【練習形式】

画面上の「voice」をクリックすると、カタカナ語の音声を聞くことができる。学習者はそれを画面上の四角の中に正しく筆記する。筆記はタイプ入力ではなく、画面上のカタカナチャートから適切なカナを選ぶ方法である。このような入力方法をとることによって、学習者の負担が軽減すると同時に、海外で

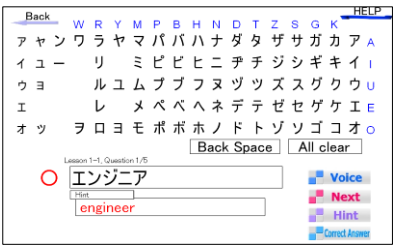


図 1 「Katakana Dictation 書いてみよう」画面例

教材 2 : カタカナ語チャレンジ（中級用）

【使用者対象】中級～上級日本語学習者

【練習形式】

文中の空欄に当てはまるカタカナ語を、3つの選択肢の中から選ぶ。（図 2 参照）

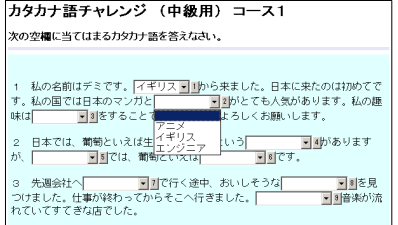


図 2 カタカナ語チャレンジ（中級用）画面例

教材 3 : 日本語聞き取り教材「何とっていますか」

【使用者対象】初級～日本語学習者（中国語母語話者向け）

【練習形式】

画面の「voice」をクリックすると、単語の音声を聞くことができる。画面上の2つの単語（ミニマルペア）から、その音声に一致するほうを選択する。（図 3 参照）

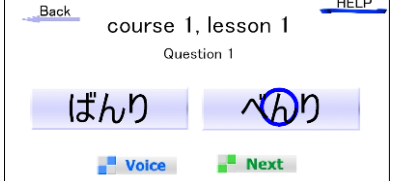


図 3 聞き取り教材「何とっていますか」画面例

（留学生センター資料）

資料 2-3-3 短期留学プログラム開講科目

科目名	単位	開講時期	備考	
日本語・日本事情系科目	日本語初級	8単位	秋	
	日本語初中級	8単位	春・秋	
	日本語中級	8単位	春・秋	
	はじめての漢字	2単位	春	初級・初中級クラス向き
	はじめての作文	2単位	春	初級・初中級クラス向き
	はじめての会話	2単位	春	初級・初中級クラス向き
	日本事情1	2単位	秋	中級クラス向き
日本事情2	2単位	春	中級クラス向き	
伝統産業系科目	伝統産業1	2単位	秋	
	伝統産業2	2単位	春	

（平成 19 年度「福井大学短期留学プログラム開講科目一覧」より）

資料 2-3-4 短期留学プログラム用シラバスの例

コース	短期 留学 プログラム (UFSEP) A コース		
授業 科目名	日本語 初級		
対象 学生	短期 留学 プログラム A コースの 学生	単位数	8 単位
授業の 概要	日本語 の 文字 (ひらがな・カタカナ) と , 基本的 な文法 , 語彙 を 学 びます。		
到達 目標	日本語 で 簡単 なコミュニケーションができるようになります。		
授業 計画	【 教科書・教材 】		【 主な学習項目 】
	第 1 週	第 1, 2 課	N は N です
	第 2 週	第 3, 4 課	こそあ 時間
	第 3 週	第 5, 6 課	基本動詞
	第 4 週	第 7, 8 課	基本動詞 と 形容詞
	第 5 週	第 9, 10 課	~が 好 きます / ~が じょうず です
			存在 文 (います・あります)
	第 6 週	第 11, 12 課	数詞 形容詞過去 比較
	第 7 週	第 13, 14 課	ほしい / ~たい 動詞のて形
	第 8 週	第 15, 16 課	動詞の「て形」 複文
	第 9 週	第 17, 18 課	動詞の「ない形」 辞書形
	第 10 週	第 19, 20 課	動詞の「た形」 普通体 (形)
	第 11 週	第 21, 22 課	~と 思います・言いました 名詞修飾
	第 12 週	第 23, 24 課	~とき, ~と, あげる・もらう・くれる
	第 13 週	第 25 課	~たら, ~ても
第 14 週	復習		
第 15 週	期末テスト		
評価 方法	出席 , 小テスト (4 回) , 期末テスト		
教科書	みんなの日本語初級 (スリーエーネットワーク)		
その他	原則として日本語で授業を行いますが, 必要に応じて英語で補足します。		

(平成 19 年度「福井大学短期留学プログラム授業科目要領」より)

資料 2-3-5 短期留学プログラム参加者の感想

If I have anything I want to ask, my supervisor always welcomed me. My tutor helped me much. During my research, free talking, and any bothering situation, he was always there to help. I didn't find any difficult things during the program.

何か質問したいことがある時、指導教員の先生はいつでも歓迎してくれました。またチューターは、課題研究や日常の会話の中で、また何か問題が起こった時など、いつも私を助けてくれました。おかげで、滞在中何も困ったことはありませんでした。

I think this program is meaningful and useful. Not only did I deepen my knowledge in the field of my major, but also I'm allowed to have a touch with the Japanese culture and society.

このプログラムは大変有益なものであると思います。専門分野に関する知識を深めるに留まらず、日本文化・社会に触れる機会が得られました。

Here in the University of Fukui, there is the International Student Center. When we are in difficulties, I can get a lot of guidance from teachers and service desk.

福井大学には留学生センターがあり、何か問題が起こった時など、先生やスタッフが様々な相談に乗ってくれました。

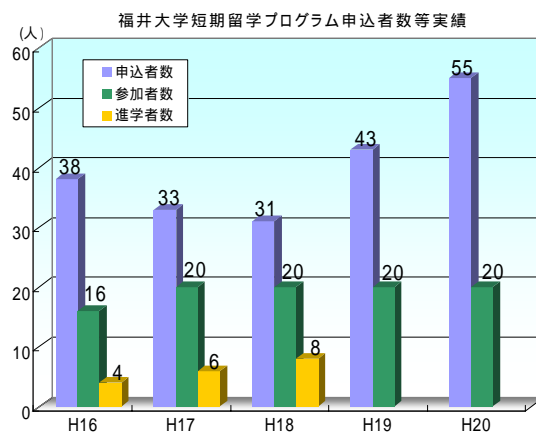
Although it is strange for me to do special research, I found it is interesting and what's more, it is worth taking time.

課題研究は私にとってなじみの薄いものでしたが、実際に経験したところ興味深く、時間をかけて取り組む意味のあるものだと思います。

(事務局資料)

資料 2-3-6 短期留学プログラム申込者数・参加者数・大学院進学者数推移

当プログラムは日本語能力を必要としないため、日本語を習ったことのない学生でも参加が可能で参加を希望する学生は年々増加している。学部生向けの専門教育では文科系、環境系、情報系、物質系の4分野において60科目以上の多彩な授業を提供しており、他大学に類を見ない充実した教育内容を誇っている。(他大学の日本語科目を除く短期プログラムの科目数：A大学31科目、B大学43科目、C大学19科目)



年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
申込者数	38名	33名	31名	43名
参加者数	16名	20名	20名	20名
本学大学院進学者数	(H18年度大学院入学) 4名	(H19年度大学院入学) 6名	(H20年度大学院入学) 8名	-

(事務局資料)

計画 2-4「帰国留学生同窓会の支部を帰国先に設置し、連携して各種交流を推進する。」に係る状況

帰国留学生同窓会の拡充、交流の推進

帰国留学生と本学・在学留学生・地域社会等とのネットワークを構築するため、平成 15 年度に福井大学留学生同窓会を設立した【資料 2-4-1】。その後、アジアを中心に 10 支部を設置し、交流の拡大を図ってきた【資料 2-4-2～3】。また、平成 19 年度には、上海支部使節団が福井大学を訪れ、本学及び関係団体の支援のもと、国際シンポジウム、福井県庁での懇談会、県内企業との交流商談会、企業見学等を通して産官学民と交流し、支部活動のプロトタイプを確立した【資料 2-4-4】。

資料 2-4-1 留学生同窓会設立宣言文

福井大学留学生同窓会設立宣言文

本日 2003 年 11 月 30 日、第 1 回福井大学留学生同窓会大会に参加した、福井大学卒業留学生及び在学留学生有志は、国際交流の推進、卒業留学生及び在学留学生の相互支援、地域社会との交流、世界平和への貢献を目指し、ここに福井大学留学生同窓会の設立を高々に宣言する。

Declaration of Setting up of the University of Fukui Alumni Society

We, present and former overseas students of University of Fukui, at the 1st Convention of University of Fukui Alumni Society, today on November 30, 2003, declare proudly that we have established University of Fukui Alumni Society, with such purposes as promotion of international exchange, mutual support among present and former overseas students, development of exchange programs between overseas students and local communities, and contribution to the world peace.

(留学生センターHP「福井大学留学生同窓会について」より)

資料 2-4-2 留学生同窓会支部設置状況

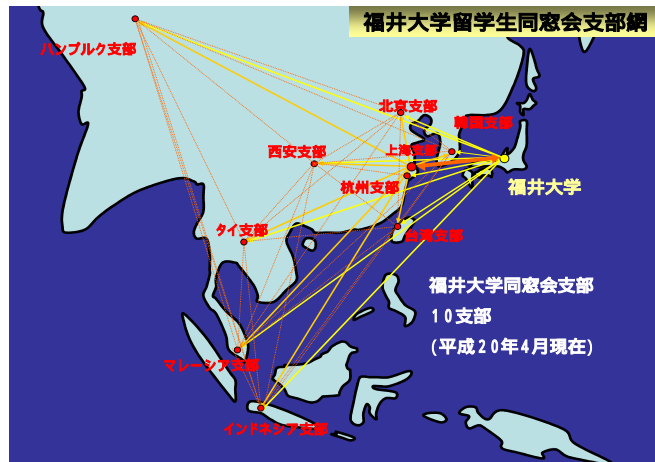
支部名	代表者	事務局
マレーシア支部(Malaysia Branch 2004 年 12 月 11 日設立)	Shaw Shuh Jiunn(Mr)	Norasnah Matnor(Ms)
タイ支部 (Thai Branch 2004 年 12 月 15 日設立)	Surakiat Wongwasin(Mr)	Thamma Thammasak(Mr)
インドネシア支部(Indonesia Branch 2005 年 1 月 26 日設立)	Senno Susanto(Mr)	Nasrullah Idris Arief(Mr)
韓国支部(Korea Branch 2005 年 9 月 2 日設立)	Kim Soonam(Mr.)	Jung Hoyun(Mr.)
西安支部(Xi'an Branch 2005 年 9 月 9 日設立)	Gao Jian Bin(Mr.)	Ma Xuan(Mr.)
上海支部(Shanghai Branch 2005 年 12 月 18 日設立)	Shen Wanzhang(Mr.)	Yu Ping(Mr.)
杭州支部(Hangzhou Branch 2006 年 10 月 29 日設立)	Xie Xueli(Mr.)	Wang Tao(Ms.)
台湾支部(Taiwan Branch 2006 年 12 月 16 日設立)	Keng-Ming Chen(Mr.)	Chang Ping(Ms.)
北京支部(Beijing Branch 2007 年 2 月 3 日設立)	Liu Dali(Mr.)	Xue Min(Ms.)
ハンブルグ支部(Hamburg Branch 2007 年 8 月 3 日設立)	Iris Wieczorek(Ms.)	Sandra Schattschneider(Ms.)

(留学生センターHP「各支部及び連絡先」より)

資料 2-4-3 同窓会支部による活動について

同窓会支部会の活動内容

- 支部会員相互の情報交換，交流や連携活動
- 他国支部との情報交換，交流や連携活動
- 福井大学，福井県，県民との交流や情報交換
- 福井大学留学生会（在学留学生組織）との交流や情報交換
- 経済，文化，友好交流活動の推進等



帰国留学生からのコメント

福井大学を出てもう十余年経ったというとな、まことに月日の経つのは早いものだと思感しております。日本語教師を勤め、もう20年近くになりますが、福井大学で勉強したことはかなり役に立っています。(中国)

福井大学留学中には、多くの先生方、友人、学生達の熱い支援を得ました。心より感謝を表します。中日両国間の友情が永遠に変わらないことを願っています。(中国)

(事務局資料)

資料 2-4-4 上海支部会員の来訪について

上海支部は支部会員16名からなる交流ミッションを編成し、平成19年10月1日から5日まで来訪し、福井県の産官学民と交流した。(独)日本学生支援機構が実施する『(財)中島記念国際交流財団助成留学生地域交流事業』の助成を受け、第3回福井大学留学生国際シンポジウム「福井大学留学生同窓会上海支部と福井県産官学民との交流ネットワーク構築に向けて」(107名参加)、福井県内企業13社との交流商談会、工場見学、上海支部大会等を実施した。ミッションメンバー16名中12名が社長等会社経営者であったため、具体的な商談の成立も多く、上海支部及び福井県産官学双方にとって有意義なミッションであった。

福井大の中国人留学生OB 来県

企業進出のパイプ役に

井県を訪れている、シン... 交流を通じて、県内企業と中国とのパイプ役を年々... 留学していたメンバーのメンバ... 18人が、1日... 4日間の日程で、福... 中国進出する時に力に... ポジウムに県や企業、大...

13社と商談

県内企業の関係者(左)に中国企業を紹介する福井大学の留学生OBら(右)福井県工業会講演。

3日は福井県工業会講演を訪問し、中国進出に関心のある13社と商談した。留学生政策を巡っては、米國が将来国を担う可能性のある即外の学生を積極的に受け入れるなど、外交政策の一環として力を入れている。日本でも近年、日本の文化を熟知している留学生を外国とのパイプ役にするとする試みが始まっている。

同大学でもこれまでに中国に4支部で、台湾、タイ、マレーシア、インドネシア、ドイツに各支部の同窓会を設立し、各国との連携強化を図っている。同大学前学セクターの中島清教授は「OBのフォローアップを進めることで、福井との関係を強化していきたい」と話している。

【松井聡】

(毎日新聞 H19.10.4)



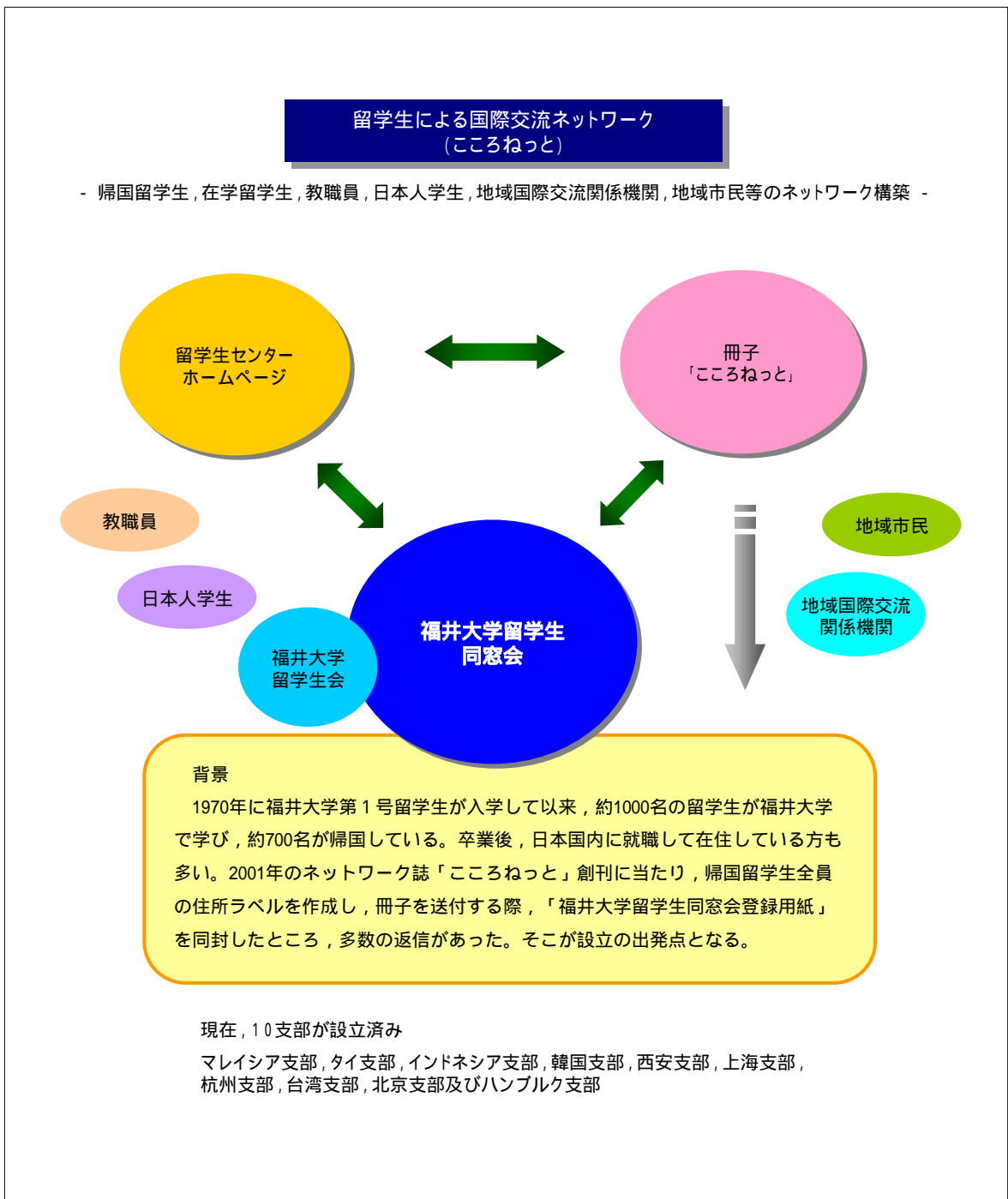
(事務局資料)

計画 2-5 「留学生による国際交流ネットワーク（こころねっと）の活動を拡充する。」に係る状況

留学生・卒業留学生の交流の推進

留学生の国際交流ネットワークの活動を推進・拡充するため、広報ネットワーク誌を刊行し、広く配布した。また、留学生ホームページ「Kokoronet」を改訂・拡充するため留学生センターホームページに結合させ、一元的な運用を図った。これらの活動により、留学生相互の情報交換や卒業留学生との交流を推進することができ、更には留学生同窓会の交流・推進をも図ることとなった【資料 2-5-1～3】。

資料 2-5-1 留学生による国際交流ネットワーク「こころねっと」の概略図



(「こころねっと概念図」より)

資料 2-5-2 冊子版「こころねっと」による情報発信について

創刊	2001年
発行部数	2000部
発行頻度	年1回春発行
配布先	帰国留学生，在学留学生，教職員，学生，地域関係機関，個人，県下全小中高校，各大学等
編集委員	在学留学生及び相談担当教員
内容	センター側記事1/3，留学生投稿2/3が目安。 行事感想文，生活・旅行・映画・読書等体験文，留学生各国の文化社会紹介，各国料理持ち回り紹介，日本人学生から見た留学生，クラブ紹介，帰国留学生からのメッセージ等

(留学生センターHP「こころねっとについて」より)

資料 2-5-3 帰国留学生から寄せられたコメント

“Kokoronet” is a wonderful effort. Nowadays, having it periodically keeps the chains of the University of Fukui tied, and I am pleased to belong to this net. (Brazil)

“Kokoronet”は素晴らしい取り組みです。今日，定期的に刊行されるこの冊子のおかげで，福井大学と世界とのネットワークが繋がっており，このネットワークの一員であることを嬉しく思います。(ブラジル)

For those who know me, please feel free to contact. Hopefully through “Kokoronet”, I can get to know some new friends. (Malaysia)

皆様，どうぞ遠慮なく連絡を下さい。“Kokoronet”を通じて，新しい友人と知り合えることを期待しています。(マレーシア)

20 years have passed since I graduated from Fukui University. ...If anybody who know somebody in eyewear business who would like to venture abroad, please feel free to contact me. (Indonesia)

私が福井大学を卒業して20年が経ちました。もし，海外で眼鏡産業を立ち上げたいという方をご存じでしたら，遠慮なく私に連絡して下さい。(インドネシア)



留学生センターホームページ



冊子版「こころねっと」

(「帰国留学生からの意見等集計結果」より)

計画 2-6 「国際交流を推進するために必要な基金の獲得を目指す。」に係る状況

国際交流事業支援・留学生支援の拡充

大学創立 50 周年記念事業により得られた資金の一部を、国際交流支援金として本学教職員の国際交流事業の助成に充てている。また、外国人留学生の本学における修学・生活上の不測の事態に対応すべく、平成 18 年度に「外国人留学生支援会」を発足させ、本学教職員等から支援金を得て留学生の活動支援に努めている【資料 2-6-1～3】。

資料 2-6-1 外国人留学生支援会について

福井大学外国人留学生支援会は、福井大学の外国人留学生に対し、修学上及び生活上の支援を図り、福井大学の留学生交流の一層の促進を図ることを目的として立ち上げられました。

支援会が行う事業

- (1) 留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援
- (2) 留学生の不測の事故・疾病に対する支援
- (3) その他、支援会の目的を達成するために必要な事業

支援会が行う事業に係る経費は、会員からの会費、寄付金等をもって充てられます。会費は以下の通りです。(年会費)

職員会員	一口	1,000 円
留学生会員	一口	500 円
賛助会員		任意

(留学生センターHPより)

資料 2-6-2 外国人留学生支援会会員の募集について

福井大学外国人留学生支援会の会員加入のお願い

本学では、平成 18 年度に「福井大学外国人留学生支援会」が設立されました。この支援会の設立趣旨は、別添の会則にもありますように、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援や、留学生の不測の事故・疾病に対する支援などを目的として設立されたものです。

例年、総勢 250 有余名の外国人留学生が本学には在籍していますが、その就学環境、とりわけ住宅事情などはまだまだ不十分な状況です。不測の事態の発生により、勉学を中断して帰国を余儀なくされるケースも発生しています。

また、昨年度の設立時には、多くの教職員の方々のご賛同を得て、多額の会費(約 73 万円)をいただきましたが、残念ながらまだ十分とは言えません。

支援会の会則及び運営に関する申し合わせについては別紙のとおりですが、平成 19 年度の会費等については、本年 6 月 1 日本学在籍の教職員にお願いさせていただきます。入会の申し込み及び会費の納入については、下記によりお願いいたします。

つきましては、外国人留学生に係る不慮の事態等に対し、必要に応じて適切な財政支援を図るため、本年度も広く学内教職員の皆さまに、ご賛助をお願いするものです。

何とぞ支援会設立の趣旨にご賛同いただき、本会会員にご加入いただきますようお願い申し上げます。

平成 19 年 6 月

福井大学外国人留学生支援会
会長 福田 優

(「福井大学外国人留学生支援会の会員加入のお願い」より)

資料 2-6-3 平成 19 年度福井大学外国人留学生支援会の加入状況

(H20.3.1 現在)

部 局 等	平成 19 年度			平成 18 年度	
	構成員数	加入者数	口数	加入者数	口数
役 員	4 人	4 人	35 口	6 人	100 口
事 務 系	267 人	39 人	103 口	36 人	124 口
教員等(学部・病院)	1,050 人	146 人	446 口	139 人	448 口
留学生会員	-	12 人	16 口		
その他(賛助会員等)	-			2 人	59.9 口
計	-	201 人	600 口	183 人	731.9 口

(「福井大学外国人留学生支援会の加入状況等一覧」より)

計画 2-7 「大学を軸とする国際交流連携を地域に広げ、経済界・医療界や地域社会における国際交流活動の支援等を進める。」に係る状況

留学生と地域各会との交流の推進

福井県及び福井商工会議所との連携により「県内企業と留学生の交流会」及び「福井大学留学生OBと県内企業等との交流商談会」等を開催し、地域各界との交流ネットワーク構築の推進に寄与した【資料 2-7-1～5】。

資料 2-7-1 「留学生と県内企業との交流会」について

社会・経済のグローバル化が進む中で、地域経済界が生き延び、更に発展するためには、各企業の国際化は喫緊の課題である。そして、その柱となるのが、国際戦略を担う人材確保である。

他方、留学生も卒業後、実務経験を身につけたい、さらには、人生設計を日本の産業界に求めたいという学生が増えている。日本社会が抱える少子化、そして、世界的な人的移動と人材の確保競争の中で、留学生センターとしては地域国際化支援の核として、地域産業界への人材供給と留学生の就職支援を目的に、福井県、福井商工会議所、ジェトロ福井と協力して平成 13 年、14 年、18 年に「県内企業と留学生の交流会」を実施した。



【平成 18 年度交流会実施概要】

日時	平成 18 年 5 月 12 日（金）13：30-16：30
場所	福井商工会議所ビル
内容	13:30-留学生就職・採用の留意点（入国管理局及び労働局） 14:10-留学生採用事例発表（県内企業） 14:30-留学生と企業の懇談会
参加者	参加企業 19 社、参加留学生 59 名

（事務局資料）

資料 2-7-2 参加者の感想

企業側の感想

県内の留学生の優秀な人達と交流でき、弊社に興味を持った留学生が多数いた。（縫製業）
中国人留学生とコンタクトが取れた点は、良い出会いの場として評価できると考える。（製造業）
今回の企画は大変良かったと思います。産業の国際化の中で、企業も国際的な人材の登用が必要になっています。（縫製業）

留学生側の感想

福井における留学生に対する具体的な求人状況が把握できた。
企業と直接話すチャンスがとても少ないので、今回の懇談会ではたくさんの企業と話すことができ満足だった。

（平成18年度「県内企業との交流会参加者アンケート集計結果」より）

資料 2-7-3 日本企業への就職状況

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
内定者数(人)	23	9	26	30
うち県内企業内定者(人)	9	4	7	11

(「外国人留学生就職状況一覧」より)

資料 2-7-4 留学生の就職内定先一覧

<p>平成 16 年度</p> <p>シャープ(株)、(株)日本エー・エム・シー、日本システムバンク(株)、日放電子(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、松下電器モーター社、第一ビニール(株)、西川リビング(株)、東芝ソシオシステムズ(株)、(株)ニッソサービス、日本フィジカルアコースティクス(株)、(株)マキタ、福井経編興業(株)、シンフォニー(株)、(株)メタルアート、矢崎総業(株)、ティ・アイ・シー、(株)オナガメガネ、ウノコーポレーション、藤田光学、</p> <p>平成 17 年度</p> <p>日本電気(株)、東レ・デュポン(株)、(株)日本エー・エム・シー、新旭電子工業(株)、ギャレックス(株)、(株)アイティ・イット、アイピーソリューション(株)、藤倉ゴム工業(株)、</p> <p>平成 18 年度</p> <p>本田技研工業(株)、富士通(株)、日本電気(株)、(株)日本エー・エム・シー、三菱電機(HMI研究)、グローバルリンク(株)、(株)ダイフク、(株)古河オートモティブパーツ、(株)光通信、メイテックフィールドター、ソニーL S I デザイン(株)、日本電産シバウラ(株)、オプトラン(株)、(株)マキタ、江守商事(株)、(株)キューピカ、(株)アタゴ、(株)ジャロック、(株)フォーラムエンジニアリング、シンフォニー(株)、(株)サイバーフロンティア、ギャレックス(株)、藤田光学(株)、アステックコーポレーション(株)、加賀電化工業(株)</p> <p>平成 19 年度</p> <p>東芝(株)、(株)日立製作所、京セラ(株)、日立造船(株)、NEC、三菱自動車(株)、マツダ(株)、ナブテスコ(株)、(株)アーキ・ピーアンドシー、(株)グローバル・アドバンテージ、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)フルキャストテクノロジー、ギャレックス(株)、(株)ニッテイ、エフティアパレル(株)、(株)フォーラムエンジニアリング、アイテック(株)、金子産業(株)、(株)アタゴ、(株)タケダレース、(株)グランディア芳泉、福井コンピュータ(株)、(株)FGテック、(株)ユース</p>

(「外国人留学生就職内定先一覧」より)

資料 2-7-5 「福井大学留学生OBと県内企業との交流商談会」の開催について

帰国留学生上海支部会員 16 名からなる交流団が、平成 19 年 10 月 1 日から 5 日まで来訪し、福井県の産官学民と交流した。国際シンポジウムへの参加・工場見学の他に、福井県内企業 13 社との交流商談会を実施し、会員 16 名中 12 名が会社経営者であったため、具体的な商談の成立も多く、上海支部及び福井県産官学双方にとって有意義なミッションであった。



(事務局資料)

国際学会等の誘致による地域の国際化支援

国際学会や国際シンポジウム等を福井県に誘致し地域に公開，地域社会の関係者がこれらに参加できる機会を設けることにより地域国際化の支援を行った。特に医学部看護学科の国際看護セミナーは，これまでに5回が開催され，参加した医療従事者から高い評価を得ている【資料2-7-6～8】。

資料 2-7-6 平成 18 年度に開催した主な国際会議・シンポジウムについて

会議等名	国名	参加国・参加者数等	所属	代表者氏名
2006 International Symposium on Advanced Mechanical Engineering and Power Engineering	中国	参加国:日本,中国,韓国,参加者 111 名	工学研究科	服部 修次
21 世紀 COE ワークショップ	日本	参加国:日本,韓国	医学部	藤林 靖久
北陸肺循環研究会	日本	参加国:3カ国,参加者:約 40 名	医学部	石崎 武志
FA 国際シンポジウム 2006	日本	参加国:中国	工学研究科	都司 達夫
日露先端物理シンポジウム	日本	参加国:日本,ロシア,参加者:計 25 名	工学研究科	千葉 明朗
第 18 回 日韓薬理学会合同セミナー	日本	参加国:2カ国,参加者:173 名,うち外国人 25 名	医学部	村松 郁延
第 3 回染色加工国際会議	日本	参加国:7カ国(韓国・中国・台湾・アメリカ・ドイツ・オーストリア・ポルトガル),参加者:約 60 名	工学研究科	堀 照夫

(「平成18年度国際交流状況集計表」より)

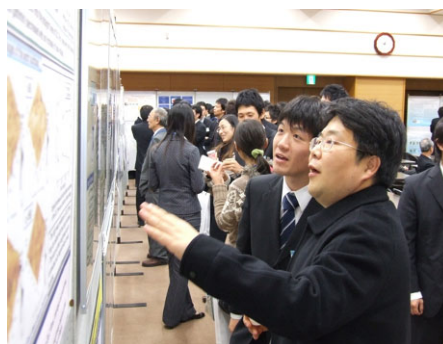
資料 2-7-7 国際会議「ISAME2007(先進機械工学および動力工学に関する国際シンポジウム 2007)」の開催

国際交流による教育研究活性化を目的に，本学と学术交流協定を結んでいる上海理工大学及び釜慶大学の共催で毎年 1 回相互開催している。平成 19 年度は本学において，本学大学院工学研究科主催で第 7 回目を開催した。3 大学から主に機械工学・動力工学関連の研究者と学生が参加し，英語による発表と議論および学生同士の交流経験は，大変貴重なものとなり，また，モチベーションを向上させることとなっている。本学の卒業生の多くは，福井県に就職しており，このことは，国際感覚を持った人材の輩出に貢献している。

一方，産学連携の推進（次世代技術を開発，及び学術研究の振興，研究成果による社会貢献及び研究者・技術者の育成）を図ることを目的に包括協定している J A E A（日本原子力研究開発機構）も実行委員として参画している。また，J A E A の他，福井県のコンベンションビューロー等からも助成を受けており，地域社会の支援にも貢献している。

〔参加者〕

福井大学	:	教員 22 名, 学生 53 名
上海理工大学	:	教員 15 名, 学生 14 名
釜慶大学校	:	教員 12 名, 学生 12 名
計	:	49 名, 79 名
(合計 128 名) 他		



ポスター発表の様子
(海外研究者らと研究ディスカッション中)

(事務局資料)

資料 2-7-8 医学部看護学科主催の国際看護学セミナー

セミナーの目的

教員及び学生の国際的な視野を広げ、地域も含めた国際交流を促進するため

開催状況

回	開催年月日	テーマ	参加者数等
第1回	平成10年4月17日	がんのホリスティックな療法	医療従事者を中心に約200名
第2回	平成10年11月21日	地域看護学における共通用語体系としてのオマハシステム - 看護の実践・記録・情報管理における応用 -	同約200名
第3回	平成11年4月16日	アメリカにおける在宅ホスピスケアの現状	同157名
第4回	平成16年9月25日	看護診断の成り立ちと今後の展望	同187名
第5回	平成19年5月26日	看護診断の地域基盤型援助への活用	同68名

備考 第5回の参加者が少ないのは、「在宅看護」を主なテーマに対象者を限定したため。

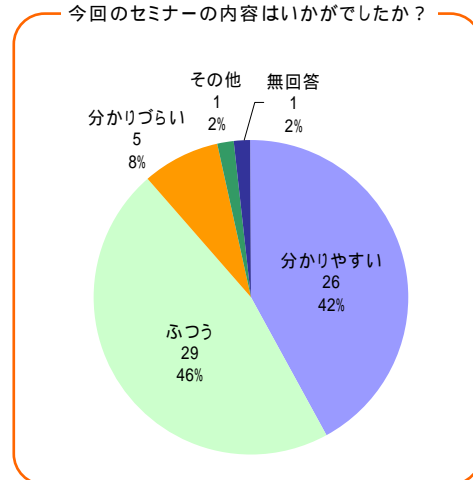
第5回参加者のコメント

- ・世界の看護診断の専門家のお話をきくことができるまねな機会だと思った
- ・看護師にとっての共通用語の必要性を改めて感じた。
- ・国際セミナーなのに参加費用が安くありがたかった。
- ・事例紹介があったため、わかりやすかったように思う。外来における機能について、アメリカも同じ問題を抱えているのがわかり驚いた。ヘルスプロモーションが本当に診療報酬につながっていくとよいと思う。
- ・めったにお会いできない先生にお会いでき、感激した。とても素敵であった。
- ・同じ視点でのシリーズ化（継続的講演）を望む。
- ・「臨床の知」についての講演会を希望する。
- ・様々な内容で企画していただきたい。



セミナー会場の様子

今回のセミナーの内容はいかがでしたか？



(松岡キャンパス総務室資料)

資料 2-8-3 海外協力プロジェクト事例 : 中国青年招へい事業 (J I C A) による中国人教師の受入

独立行政法人国際協力機構 (J I C A) から業務委託を受けた福井県日本中国友好協会と連携し、平成 17 年度に「中国青年招へい事業」を実施した。J I C A が発展途上国への O D A として支援している日本語青年教師 10 名を本学に受入れ、日中両国における教育事情等について本学教職員・学生と交流を深めた。

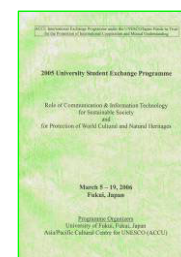


中国青年教師との交流

(事務局資料)

資料 2-8-4 海外協力プロジェクト事例 : ユネスコ大学生交流プログラムの開催

ユネスコ・アジア文化センターが主催する国際協力事業「大学生交流プログラム」を平成 18 年 3 月に開催した。当プログラムは、「持続可能な社会及び世界文化・自然遺産の保護に向けての情報通信技術の役割」をテーマとして実施し、教員・学生合わせて西安理工大学から 20 人、日本から 120 人の参加があった。



2005ユネスコ交流プログラム報告書

(事務局資料)

資料 2-8-5 ユネスコ大学生交流プログラムの実施概要

2005年 A C C U ・ユネスコ青年交流信託基金事業
大学生交流プログラム実施概要

実施校 福井大学

はじめに

標記のプログラムは、ユネスコ・アジア文化センター (A C C U) が推進している国際協力事業・人物交流事業の、ユネスコ青年交流信託基金事業に属する大学生交流プログラムの一つで、福井大学が本年度に採択を受けたプログラムである。

このプログラムは、グローバル化が進む現代社会の中で、将来を担う日中両国の大学生が交流し、ユネスコが提唱している「持続可能な開発のための教育」(E S D) の観点から、下記のテーマを定め、情報・通信技術の分野での社会・経済発展に果たす役割・諸課題に関する問題の提起を行い、将来のあり方について討論する場を提供すると共に、ワークショップ、研究発表会、討論会、企業・研究所及び世界遺産の実施見学等を行って、見識を深めてもらうことを目的としている。

テーマ

Role of Communication & Information Technology for Sustainable Society and for Protection of World Cultural and Natural Heritages
(持続可能な社会、及び世界文化・自然遺産の保護に向けての情報通信技術の役割)

実施予定期間 平成 18 年 3 月 5 日 (日) ~ 3 月 19 日 (日) の 15 日間

実施会場等 福井大学 文京キャンパス アカデミーホール

協力予定校 中国 西安理工大学
日本 福井工業大学、福井工業高等専門学校

参加予定人数 外国 (中国) 西安理工大学 学生 15 名、引率教員 5 名
日本側 福井県内高等教育機関 (本学を含む) 学生 50 名、引率教員 20 名
総計 90 名程度

(ユネスコ青年交流信託事業 大学生交流プログラム実施概要 (広報用資料) より)

計画2-9「海外の学術交流協定機関を中心に、国際的視野に立った共同研究を実施し、その成果を相手機関に還元する等、先端的研究の面で国際社会への貢献を図る。」に係る状況

海外の大学等との共同研究の推進

大学間交流協定・部局間交流協定に基づき海外の大学等との共同研究を推進しており、法人化後の国際共同研究件数は、計224件を数えた【資料2-9-1～2】。

資料 2-9-1 国際共同研究の件数

年度	件数
H 16 年度	76 件
H 17 年度	54 件
H 18 年度	45 件
H 19 年度	49 件
計	224 件

(国際課資料)



スウェーデン ウプサラ大学との国際共同研究



資料 2-9-2 平成 18 年度に実施した学術交流協定機関等との主な国際共同研究

機関名	国名	研究名称	所属	代表者氏名
West Virginia 大学	アメリカ	筋再生の制御機構	医学部	横田 義史
NIH(国立衛生研究所)	アメリカ	ナノ粒子の分離	医学部	三好 憲雄
テキサス大学アーリントン校	アメリカ	分子認識を用いた機能分子の創出	工学研究科	徳永 雄次
UCLA	アメリカ	IgE 産生	医学部	山田武千代
コロンビア大学	アメリカ	AKT シグナル伝達	医学部	杉本 千鶴
NIH(国立衛生研究所)	アメリカ	ムスカリン受容体の CHO 細胞における発現	医学部	村松 郁延
テキサス心臓研究所	アメリカ	胚性幹細胞の分化、発達	医学部	森島 繁
テキサス A & M 大学	アメリカ	モルモット肺結核モデルにおける結核免疫の解析とサイトカイン/ケモカインアッセイ系の確立	医学部	高田 伸弘
プリンストン大学	アメリカ	「サブミリ波ジャイロトロンを光源とするトカマク装置 NSTX のプラズマ計測」に関する共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
ワシントン大学	アメリカ	Cu, Br の製造に関する研究	高工ネ研	藤林 靖久
テキサス大学 M.D. Anderson がんセンター	アメリカ	Br, T-NET に関する研究	高工ネ研	藤林 靖久
オックスフォード大学生理学研究所	イギリス	椎間板及び関節軟骨の組織工学に関する基礎的研究	医学部	小林 茂
Warwick 大学	イギリス	DNP-NMR に関する共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
イタリア国立生物物理学研究所(ジェノバ)	イタリア	イオンチャネルの新しい発現系開発のための国際共同研究打合せ	医学部	老木 成稔
サー・ガンガ・ラム記念病院 遺伝医学部門	インド	質量分析計による先天代謝異常症の化学診断	医学部	重松 陽介
バンドン工科大学	インドネシア	He 準安定状態による原子励起法の研究	教育地域科学部	香川喜一郎
マケレレ大学医学部	ウガンダ	サブサハラ・東アフリカ地域における高等医学国際教育協力の地域連携型拠点形成プロジェクト	医学部	馬場 久敏
シドニー大学 School of Physics	オーストラリア	「サブミリ波ジャイロトロンを光源とする遠赤外領域開発研究の推進」	遠赤センター	出原 敏孝
オタワ大学医学部	カナダ	卵巣機能の局所調節機構の解明	医学部	小辻 文和
ソウル大学	韓国	上気道の免疫応答システムに関する研究	医学部	横田 義史

機関名	国名	研究名称	所属	代表者氏名
釜慶大学	韓国	表面改質材の強度特性評価	工学研究科	伊藤 隆基
済州大学	韓国	「アジアにおける媒介動物の分布特性に基づく新興再興感染症の拡散経路の解明」	医学部	高田 伸弘
KAIST(韓国理工学大学)	韓国	日本学術振興会 日韓二国間共同研究(代表者:京大理 松原明)・量子コンピューターへの応用に関するPドープSi半導体のNMRの研究	工学研究科	千葉 明朗
全北大学	韓国	TEA CO2レーザー誘起プラズマによる元素分析の研究	教育地域科学部	香川喜一郎
キルギス国立循環器病内科センター	キルギス	極限高地生息動物の肺循環遺伝子特性の研究	医学部	石崎 武志
チューリッヒ大学	スイス	慢性関節リュウマチの発症機構	医学部	横田 義史
ウプサラ大学	スウェーデン	硬質薄膜のトライボロジー特性に関する研究	工学研究科	岩井 善郎
チェンマイ大学	タイ	リケッチア感染症の国内実態調査及び早期診断体制の確立による早期警鐘システムの構築	医学部	高田 伸弘
国立雲林科技大学	台湾	台北市における大規模積層集合住宅の供給実態 台北市における大規模積層集合住宅の住棟構成	工学研究科	川上 洋司
西安理工大学	中国	溶媒抽出法による金属イオンの分離分析化学に関する研究	工学研究科	永長 幸雄
北京化工大学	中国	「水に極めて難溶なモノマーを含むシード乳化共重合反応に及ぼす攪拌の影響」論文執筆指導(金哲山: Zheshan JIN)	工学研究科	飛田 英孝
浙江大学	中国	「アジアにおける媒介動物の分布特性に基づく新興再興感染症の拡散経路の解明」	医学部	高田 伸弘
中国電子科技大学プラズマ研究所	中国	「高出力ジャイロデバイスの開発」に関する共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
オーフス大学附属病院	デンマーク	若年成人における喘息と酸化防御: 遺伝子と環境の相互作用	医学部	出口 洋二
Max-Delbrueck Center	ドイツ	血圧調節と腎障害に関する研究	医学部	横田 義史
カールスルーエ研究センター	ドイツ	「極限条件化で動作するジャイロトロンの開発-ジャイロトロンを超高出力化と超高周波化」に冠する共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
シュトゥットガルト大学プラズマ研究所	ドイツ	「ジャイロトロンの高純度モード動作と出力の高効率伝送」に関する共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
ネパール医科大学	ネパール	リケッチア感染症の国内実態調査及び早期診断体制の確立による早期警鐘システムの構築	医学部	高田 伸弘
ヘルシンキ工科大学	フィンランド	価数4の量子渦の自然崩壊現象の研究	工学研究科	熊倉 光孝
ブラジル国立宇宙空間研究所	ブラジル	「サブミリ波ジャイロトロンを用いた磁場閉じこめ高温プラズマの診断」に関する共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
グルノーブル・フランス国立科学研究所強磁場実験施設(GHMFL)	フランス	磁化プラトーをもつ磁性体の強磁場・超低温における核磁気共鳴	遠赤センター	藤井 裕
南ブルターニュ大学	フランス	再構成可能型システムに関する研究	工学研究科	山田 泰弘
グルノーブル大学	フランス	RGD, ポリマーに関する研究	高エネ研	藤林 靖久
ブルガリア科学アカデミー	ブルガリア	ジャイロトロン周波数可変機構の開発研究及びLOG等	遠赤センター	出原 敏孝
ロシア科学アカデミーシベリア地区物理学研究所	ロシア	ほう酸化物磁性体の研究	工学研究科	千葉 明朗
ロシア科学アカデミー応用物理学研究所	ロシア	日本学術振興会 二国間交流事業ロシア(RFBR)との共同研究	遠赤センター	出原 敏孝
D.Y.Efremov 電気物理研究所	ロシア	高出力電磁波と粒子ビームを併用した物質加工技術の開発	遠赤センター	出原 敏孝

(「平成18年度国際交流状況集計表」より)

国際共同研究における成果【資料2-9-3～11】

資料 2-9-3 国際共同研究事例 : 遠赤外光源の開発における国際コンソーシアムの形成

「遠赤外領域」は波長が1mmより短く、電波と光の中間に位置する電磁波(サブミリ波)領域であり、世界的にも有効な光源がないため、電磁波の中で開発・応用が最も遅れている。遠赤外領域開発研究センターでは、独自に開発した世界でも他に例のない高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用して、遠赤外領域の未開拓の研究や画期的な新技術の開発を行っている。

本センターは、プリンストン大学・ロシア科学アカデミー・ブルガリア科学アカデミー・カールスルーエ研究センター・大阪大学等、国内外の研究機関の協力の下「高出力テラヘルツ技術の総合開発」に関する国際コンソーシアムを形成し、遠赤外領域開発研究の世界的拠点としての役割を果たしている。



世界初の連続発振テラヘルツ波
ジャイロトロン

(遠赤外領域開発研究センター資料)

資料 2-9-4 国際共同研究事例 : 日本学術振興会二国間交流事業によるロシアとの共同研究

遠赤外領域に含まれるテラヘルツ光は、人工的に発生することが難しく、特に高出力のテラヘルツ光源は、これまで皆無の状況であった。このため、テラヘルツ領域は、21世紀が必要とする科学技術の宝庫であるにもかかわらず、開発の遅れた、未踏の周波数領域として取り残されてきた。この状況を打破するため、高出力テラヘルツ光源-ジャイロデバイスの開発をロシア科学アカデミー応用物理学研究所との共同研究として行っている。平成18,19両年度、日本学術振興会(JSPS)とロシアのRFBRが政府間協定のもとに行っている二国間交流事業によってサポートされ、遠赤外領域開発研究センターから延べ8名の研究者を先方へ派遣し、先方から6名の研究者が当センターへ派遣された。共同研究の成果として、ジャイロトロンとして初の1テラヘルツのブレークスルーを達成し、高出力テラヘルツ技術開発の光源として応用することが可能となった。



ロシアのテレビ社が二国間交流事業を取材中のスナップ。研究代表者出原教授がロシア側代表者 Bratman 教授とテラヘルツ光源の開発と応用について議論中。

(遠赤外領域開発研究センター資料)

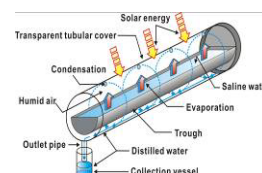
資料 2-9-5 国際共同研究事例 : 地球環境分野における国際貢献活動



UAEでの野外実験

建築建設工学専攻では、アラブ首長国連邦において1996年より砂漠緑化を目指し植物の節水栽培を行っており、現在在日企業の協力を得てデートパームやシェルマルチによるナツメヤシの節水方法の開発を行っている。また、過去6年間円筒型淡水化装置の研究を続けており、昨年よりオマーンにおいて油田随伴水の再利用と緑化を目的とした太陽熱淡水化装置の開発実験をスルターン・カブス大学で行っている。

その他、中国南京土壌研究所との代表的な塩害土壌(チャオソイル)中の熱移動に関する研究など、海外の研究機関との共同研究を通じた国際貢献活動を推進している。



(事務局資料)

資料2-9-9 国際共同研究事例 : タイチュラボーンがんセンターとの遠隔医療実験

高エネルギー医学研究センターとタイのチュラボーンがんセンターサイクロトロンPETセンターとを研究開発ネットワーク「JGN」で結び、高速で鮮明なデータ送受信により遠隔地間の医療行為に活用するための共同実験を開始した。

同装置を利用し、共同セミナーによる研究者同士の交流・遠隔医療用のソフトウェアの開発等を実施し、発展途上国への国際遠隔医療の実現を目指している。

国境超えがん診療



システムの実用的運用をタイの研究者たちと話し合う参加者。上は、水平切面の福井大学放射線医学サイクリンシステム。右は、サイクリンPETの画像。左は、サイクリンPETの画像。右は、サイクリンPETの画像。

福井大の実験始動
「サイクリンPET」の画像を高速で送受信する実験が、タイのチュラボーンがんセンターと福井大学との共同実験として始動した。サイクリンPETの画像を高速で送受信する実験が、タイのチュラボーンがんセンターと福井大学との共同実験として始動した。

患者データを高速、鮮明に送受信

(県民福井 H19.11.13)

(事務局資料)

資料2-9-10 国際共同研究事例 : 政府間協議に基づくカナダ・オタワ大学との生殖医学研究

医学部の産婦人科学領域では、オタワ大学との共同研究を中心に、Women's Health Consortium を形成し、日本とカナダとの政府間プロジェクトとして日加合同シンポジウムを開催した。日本側の参加機関は、本学、東京大、神戸大、北海道大、名古屋大等の8機関、カナダ側は、オタワ大、トロント大等の5機関であり、事業の日本側コーディネーターを本学が務め、共同研究を推進している。



カナダ オタワ大学

(事務局資料)

資料2-9-11 国際共同研究事例 : 物理教育国際ワークショップの開催

教育地域科学部理数教育講座では、理学の国際共同研究成果を背景にして、物理教育ワークショップを韓国やインドネシアにおいて毎年開催し、国際的な学校教育への貢献を実践している。

物理教育ワークショップ開催記録

開催地	参加者(のべ人数)	開催日	共催機関
韓国 (全州市)	小・中学生 40人	2007年1月 (2日間)	福井大学・全北大学共催
韓国 (全州市)	中学校教師 20人 大学生 20人	2007年3月 (2日間)	福井大学・全北大学共催
インドネシア (バンデアチェ市)	津波被災地の高校教師 50人	2006年3月 (2日間)	福井大学・シャクハラ大学共催
インドネシア (スマラン市)	公立高校物理教師 60人	2005年3月 (2日間)	デボノゴロ大学との共催 ユネスコ支援



(事務局資料)

社会連携

社会との連携、国際交流等「計画2-9」

計画 2-10 「教職員や学生の国際会議等への参加や海外研修等への支援を進める。」に係る状況

教職員・学生の国際交流活動の推進

学内における「国際交流支援事業」等により、教員や学生に対し経費の助成を行い、国際交流・協力連携活動や、戦略的な国際活動、語学研修参加等の支援を行っている【資料 2-10-1～4】。また、学術交流協定機関への派遣や、帰国留学生同窓会支部設立の際には、関係教員のほか、職員も同行させ海外研修に努めている【資料 2-10-5～6】。

資料 2-10-1 国際交流支援事業について

区分	事業名
支援経費	福井大学・上海理工大学・釜慶大学校 国際共同セミナー
	福井大学留学生同窓会上海支部「教育及び経済交流ミッション」受入事業【P101 資料 2-4-4】
	IFMSA Research 交換留学 Program
	国際戦略を実現するための事務職員の養成と資質の向上【P120 資料 2-10-5】
	福井大学留学生同窓会ドイツハンブルク支部設立大会の開催並びにハンブルク大学ドイツ語サマースクールの実施【P100～101 資料 2-4-2,3】
	アジア塵肺レントゲン読影セミナー(愛称 AIR Pneumo)設立に向けてのワークショップ
	新円筒型太陽熱淡水化装置の開発【P114 資料 2-9-5】
英語教育サブコース海外研修・国際交流推進プロジェクト	
交流経費	5/10 上海師範大学との交流経費
	5/30 西安理工大学との交流経費
	10/14 福井大学留学生同窓会上海支部ミッションとの交流経費【P107 資料 2-7-5】
	12/28 オタワ大学との交流経費【P116 資料 2-9-10】
戦略的国際企画経費	福井大学国際交流推進事業

(「平成19年度国際交流支援金決算資料」より)

資料 2-10-2 学長のリーダーシップによる国際交流・協力連携の推進

学長裁量経費(国際交流・協力連携推進経費)について

従来から、大学間協定を締結するために先方の大学を訪問する経費、留学生担当職員が海外で開催される「日本留学フェア(JASSO主催)」への参加経費及び協定校への訪問並びに協定校からの来訪時用の記念品経費については、学長裁量経費からの支援により実施している。

学長裁量経費(国際交流・協力連携推進経費)による助成
 大学間等交流協定招へい経費
 ・協定校訪問経費
 ・記念品購入費
 日本留学生フェア経費

(事務局資料)

資料 2-10-3 工学部・工学研究科海外留学支援プログラムについて

留学を希望する学生の語学学習を支援するとともに、留学中の生活情報等の提供や、留学準備に関する指導を行うことにより、海外留学の実現を多面的に支援し、より多くの学生を海外に派遣することを目的として、「海外留学準備コース」を平成 20 年度より開講することとした。

平成 20 年度前期開講コース

コース名	コマ数	対象	コース内容
留学英語コース	週 2 × 15 週	TOEFL400 点未満の学生	TOEFL450 点の獲得を目指す。
留学英語コース	週 2 × 15 週	TOEFL400 ~ 500 点の学生	TOEFL500 点の獲得を目指す。
My Preferred Destination Abroad	週 1 × 15 週	留学英語 , の受講者	留学に関する情報収集を行い、各自の留学の目的、異文化問題、留学前後の留意点等についてディスカッションし、認識を深める。各自にベストマッチする留学先を見つけ、希望の留学先の国・大学について調査し、英語で発表を行うことを目標とする。

平成 20 年度前期受講者数

学部・研究科	学年	受講数
工学部	2	4
	3	2
	4	3
工学研究科博士前期	1	6
	2	5
工学研究科博士後期	1	1
	2	2
合計		23

工学部・工学研究科
海外留学準備コース 参加者募集

工学部・工学研究科及び留学生センターでは、増加する留学希望者のニーズに応えるため、平成20年度前期から「海外留学準備コース」を開講します。このコースは、海外の大学で授業を受講したり、研究を行ったりするのに必要な語学力の学習を支援することを目的としています。海外留学を希望する方は是非ご参加下さい。

対象学生 : 工学部及び工学研究科に在籍し、海外留学に興味を持つ意欲ある学生
コース内容 : TOEFL対策 (リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング)
開講コース : 各コース15名まで、定員を超える応募があった場合は、コース開始前のテスト結果により人数調整を行います。
開講コース : 留学英語 コースと留学英語 コースの2コース 各コース週2コマ(火曜日6限目及び金曜日4限目)
受講費用 : 語学力テスト受講料2,820円×2回 = 5,640円 振込手数料100円、テキスト代
コース開始予定日 : 平成20年4月15日(火)

TOEFL ITPの受験
 コースの開始前と終了後に、語学力をチェックする為にTOEFL ITPを受験して頂きます(費用参加者負担)。
コース開始前TOEFL ITP実施予定日
 平成20年3月31日(月)
 以前TOEFLを受験したことがあり、スコアの分かる学生については、開始前のテストは免除されます。

このコースは海外留学を目指し、やる気を持って英語学習に取り組む学生の為のコースですので、頻りに欠席する学生には参加を辞退してもらいます。その他留学生センターで、開催する海外留学セミナーや国際交流ワークショップにも積極的に参加してください。

申込締切日:
 平成20年2月29日(金)

申し込み方法: 学生支援センター2階国際課留学生係にてご登録下さい。

受講者募集ポスター

(事務局資料)

資料 2-10-4 「敦賀原子力夏の大学」におけるフランス派遣について

「平成 19 年度敦賀原子力夏の大学」受講生の中の優秀学生を原子力先進国であるフランスに派遣し、フランス原子力庁（CEA）直轄の原子力教育機関（INSTN）において原子力関連教育（講義、実習、見学）を受講した。また、現在稼働中の高速増殖炉「PHENIX」を見学することにより、原子力に関する国際的な見識と視野を形成する一助となった。

研修期間 平成 20 年 2 月 2 日（土）～2 月 10 日（日）

研修場所

INSTN（仏国 CEA サクレー内）

PHENIX（仏国）

MELOX（仏国）



研修参加者 12 名（学生 7 名，教員 3 名，同行 2 名）

感想

我が国におけるこれからのエネルギー事情を考えるに当たって、原子力が占める重要性はこのほか大きく、原子力分野において国際的視野で活躍できる技術者の育成が必要である。この分野の優秀な技術者を育成するには、原子力関連機関ばかりでなく大学等の高等教育機関も連携した取り組みが重要であると認識し、平成 18 年度より、福井県嶺南地方に存在する原子力機関と福井大学が共同で「敦賀原子力夏の大学」を開催してきた。



今回の研修期間は実質 4 日間と少しタイトではあったが、フランスにおける原子力教育や原子力の実際を学ぶに十分な内容であった。特に、INSTN での講義や実習は、日本で行われているものに比べて大変効率的で、しかも内容も豊富であり、講義・実験・実習が有機的にリンクしているため、3 日間の教育でもかなりのことが学び取れたのではないと思う。学生ばかりでなく参加した教員もこの方法はかなり勉強になった。これからのカリキュラム編成等に大いに生かしていきたいと考えている。

講義や説明はすべて英語で実施された。INSTN はヨーロッパにおける原子力教育の重要な部分を担っており、各国から留学してくる学生に対して英語による教育を充実させている。このことからフランスが原子力の主導権を握り維持していくという意志が強く感じられた。

今回のこの「原子力海外研修」は原子力を学ぶ優秀な大学院生を対象に行ったが、参加した彼らにはそれぞれに自分の将来の展望が少しばかり開けたように思う。原子力現場への就職を希望する者、燃料会社を希望する者、中央官庁や研究者を志望する者等、様々な形で原子力を支えていこうとする同期の学生達がこのような海外の場での研修でお互いを認め合いながら学ぶ機会は大変重要である。今後社会に出た後、彼らがお互いのそれぞれの立場で連携し合っていくつかの事業を行っていくこともあるかと思うが、今回の研修を通しての共同体験がきっと実りある展開へと導いてくれることと確信している。

また、このような学生に対するグローバルな眼を育てる試みは、原子力分野ばかりでなく、日本の科学技術全体を発展させていく上でも有効に作用するものと考えられ、今後も発展させながら継続する必要があると思う。

（「原子力海外研修報告書～チャレンジ原子力体感プログラム～」より）

資料 2-10-5 帰国留学生同窓会支部設立大会等への参加について

	大会等名	年月日	出席者
1	マレーシア支部設立大会 タイ支部設立大会	2004年12月11日 2004年12月15日	留学生センター長・教授, 工学部教授, 留学生課職員
2	韓国支部設立大会	2005年09月02日	留学生センター長・教授・講師, 留学生課職員
3	西安支部設立大会	2005年09月09日	留学生センター教授
4	上海支部設立大会	2005年12月18日	留学生センター長・教授
5	上海支部会合 杭州支部設立大会	2006年10月28日 2006年10月29日	工学研究科教授, 留学生センター教授, 国際課職員
6	台湾支部設立大会	2006年12月16日	留学生センター教授, 国際課職員
7	北京支部設立大会	2007年02月03日	留学生センター教授, 国際課職員2名
8	ハンプルク支部設立大会	2007年08月03日	留学生センター教授, 教育地域科学部教授
9	インドネシア支部会合	2008年02月10日	留学生センター教授, 国際課職員

(「帰国留学生同窓会支部設立大会等出席者一覧」より)

資料 2-10-6 本学教職員の海外への派遣状況(平成18年度)

	国名	人数	うち滞在期間が1ヶ月以上の者
1	インド	2	0
2	ネパール	1	0
3	タイ	9	0
4	マレーシア	6	0
5	シンガポール	2	0
6	インドネシア	3	0
7	韓国	19	0
8	ベトナム	1	0
9	中国	62	0
10	台湾	7	0
11	トルコ	2	0
12	アラブ首長国連邦	5	0
13	エジプト	2	0
14	ウガンダ	4	1
15	南アフリカ	2	0
16	ニュージーランド	2	0
17	オーストラリア	1	0
18	カナダ	14	1
19	アメリカ	83	4
20	メキシコ	1	0
21	アルゼンチン	1	0
22	フィンランド	1	0
23	スウェーデン	5	0
24	ノルウェー	3	0
25	デンマーク	2	0
26	アイルランド	1	0
27	イギリス	17	3
28	ベルギー	3	0
29	オランダ	4	0
30	ドイツ	13	1
31	フランス	18	0
32	スペイン	5	0
33	ポルトガル	1	0
34	イタリア	8	0
35	ギリシア	2	0
36	オーストリア	3	0
37	ポーランド	3	0
38	チェコ	1	0
39	ロシア	6	0
40	スロバキア	1	0
41	ウクライナ	1	0
42	キルギス	1	0
	合計	328	10

(参考) 平成17年度 452名(うち1ヶ月以上 12名)
平成16年度 343名(うち1ヶ月以上 10名)

(文部科学省「平成19年度国際研究交流状況調査」より)

国際教育交流担当職員長期プログラムへの参加

平成 17 年度に、事務職員を文部科学省主催「国際教育交流担当職員長期プログラム」に参加させ、国際関係業務を遂行する上で必要となる広い識見と高度の実務能力や語学力の育成を図った【資料 2-10-7】。

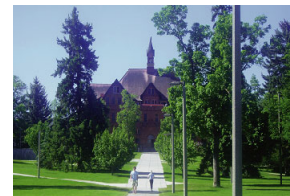
資料 2-10-7 文部科学省主催「国際教育交流担当職員長期プログラム」への参加について

カリフォルニア大学研修レポート

総務部人事労務課 川村知子

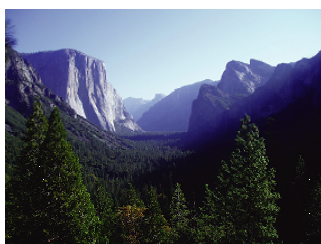
皆様こんにちは。福井大学職員の川村知子と申します。今アメリカのカリフォルニア州で、LEAP(リープ)というプログラムに参加しアメリカの高等教育を勉強しています。LEAP は「国際教育交流担当職員長期研修プログラム」という文部科学省の一年間のプログラムで、大学職員の国際交流業務能力の向上を目的としています。2005 年 4 月に渡米して最初はアメリカ北西部に位置するモンタナ州に滞在し、そこで英語とアメリカの高等教育の勉強をしました。その後 10 月にカリフォルニアに移り、今はカリフォルニア大学デービス校(UC デービス)でインターンをしています。

デービスは人口 6 万人の平和な良い町です。夏は非常に暑いのですが、冬は寒く、雨がたくさん降ります。街のあちこちにオレンジやレモンの木があって、たくさんの果樹園もあります。UC デービスは世界トップレベルの大学の 1 つで 3 万人の学生と 2 万 8,200 人の職員を抱えています。農学や生物学、獣医学分野で特にすぐれた大学です。



ところで、皆さんは「アメリカ人」というとどんなイメージを思い浮かべますか？白い肌に、金髪、青い目……。しかし、アメリカ、特にカリフォルニアには様々な人がいます。アジア系アメリカ人、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、ネイティブアメリカン等々。私も一目見ただけでは外国人とは気づかれません。大学にはたくさんの留学生もいます。UC デービスは 100 カ国以上から 3 千人以上の留学生や研究者を受け入れています。違ったバックグラウンドを持った人々との出会いは本当に面白いです。UC デービスはアメリカ人学生のための国際プログラムの開発にも力を入れており、昨年は 1,200 人の学生が海外留学や海外インターンシップを行いました。

私にとって今回が初めての海外生活ですが、ここで素晴らしい時間を過ごしています。毎日が発見と挑戦の連続です。海外で住む時間は比類ない学びと成長の時です。日本にいる時とは全く違った世界を見ることができます。たくさんの人に会い、多くのことを学びます。より自立し、自信を持ち、他人を尊敬する人間になり、そして自分の新たな可能性を発掘できます。より多くの福井大学の学生、そして職員が海外に行く機会が得られることを心より願っています。



(福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS Vol.10」より)

第 47 次日本南極地域観測隊への参加

平成 17 年度に、事務職員を第 47 次日本南極地域観測隊に参加させ、ナショナルチームの一員としての過酷な環境での任務遂行により、責任感と強い意志を養い、協調性の育成を図った【資料 2-10-8】。

資料 2-10-8 第 47 次日本南極地域観測隊への参加について

南極観測隊の任務を終えて

総務部総務企画課 北島弘一

こんにちは、南極観測隊の任務を完了し、無事帰国しました北島です。

福井に戻った私を待っていたのは、思いもよぬ大歓迎と取材でした。新聞記事やニュースを見られた方もおられると思いますが、余りの反響の大きさに改めて「南極」の話題性と偉大さを再認識しました。取材で一番多かったのは、「南極はどんな所？」という質問です。私は日が沈まず雪に覆われていない夏しか経験していません。観測隊において日が暮れるまえに昭和を離れてしまう夏隊を「日帰り」と呼んでおり、本当の南極の魅力は泊まって（越冬して）こそ解ると言われています。

昭和基地は南極大陸ではなく東オングル島という島にあるため、夏には雪が全部溶けてしまい岩と砂の世界になるのです。これだけでも驚く人が沢山おられました。実際この夏で一番暖かかった日は気温 7 度で、作業をしていると汗が流れる程でした。福井の冬は分厚いコートや暖かいジャンパーを着ないと外に出られないですよ、昭和では作業着の上に薄いカップ 1 枚で十分なんです。何故寒くないかと言うと、夏の日差しが結構きつく、一日中ガラガラと降り注いでいるからです。特に今年の夏は例年になく天候が良く作業が捗りました。弊害として日本の何倍もの紫外線が降り注がれますが…。



天の恵みを受け夏作業は順調に進み、昭和を離れる日も近づいて来ました。昭和を離れる最終日は、越冬隊の仲間と過ごし、最後の別れを惜しみました。ヘリに乗り 36 人の越冬隊を置いて飛び立った時の事は、いま思い出しても涙が出てしまう程辛かったです。この年で、別れが辛くて涙が出てしまう仲間が得られた事も、観測隊に参加して良かったと思う事の一つです。

長いようであっという間に過ぎた観測隊への参加でしたが、大学を離れ色々な職種の方と接し、南極では全く違う仕事を幾つも体験し、雄大な自然を感じる事で、僅かながらですが成長する事が出来たと思います。

もし、またチャンスが巡って来たならば、もう一度あの真っ白な大陸に立って見たいですね。



上：昭和基地最終日、47 次隊全員で 19 広場にて記念撮影
右：アメリー棚氷横を航行するしらせ



計画 2-11 「客員教授，機関研究員等の制度による海外研究者の招聘を促進し，研究面でのグローバル化を図る。」に係る状況

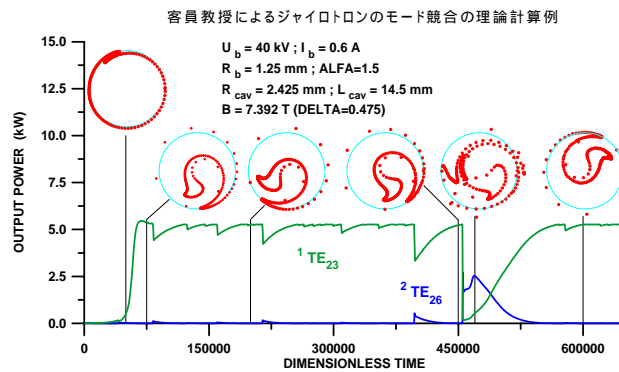
客員教員制度の活用による海外研究者の招聘

客員教員制度の活用により，本学の教授又は准教授と同等以上の資格を有すると認められ研究者を招聘し，平成 16～18 年度は各 4 名，平成 19 年度には 6 名の著名な外国人研究員等を受け入れた。各客員教授等は実質的な共同研究を展開し，多くの成果を上げている【資料 2-11-1】。

資料 2-11-1 客員教員制度の活用による海外研究者の招聘

外国人客員教授を招聘することは，本学の研究内容の高度化に大きく貢献するだけでなく，国際コンソーシアム展開の強化など，研究開発のグローバル化に大きな効果がある。客員教授の招聘先は，当初学術交流協定の締結機関を中心として，ロシア・欧州諸国からであったが，近年はアジア諸国からの招聘も開始しており，今後，アジア諸国も含めた全世界的な展開が期待される。

遠赤外領域開発研究センターでは，客員教授が筆頭著者となっている学術論文 12 編が発表されており，今後論文化が期待されるレポートは総計 22 編に達している。研究内容もジャイロトロンの高性能化とともに，その応用や遠赤外物性研究など多岐にわたり，センターの研究の展開に多大な貢献をしている。



外国人客員教員一覧（平成 16～19 年度）

役職	氏名	本務先	研究課題名	所属
客員教授	Yury K. Kalynov	ロシア科学アカデミー 応用物理学研究所	ジャイロデバイスの最適設計	遠赤外領域開発研究センター
客員教授	Olgierd Dumbrajs	ヘルシンキ工科大学	ミリ波サブミリ波光源としてのジャイロデバイスの研究開発	遠赤外領域開発研究センター
客員教授	Vladimir N. Manuilov	ニズニノブゴロド州立大学	大半径電子ビームを用いた高出力ジャイロトロンの開発研究	遠赤外領域開発研究センター
客員教授	Mikhail Yu. Glyavin	ロシア科学アカデミー 応用物理学研究所	ジャイロトロンセラミック焼結装置を用いた原子炉制御材の開発研究	遠赤外領域開発研究センター
客員教授	Michael Von Ortenberg	フンボルト大学	強磁場下での物性研究	遠赤外領域開発研究センター
客員教授	Svilen Petrov Sabtchevski	ブルガリア科学アカデミー 電子工学研究所	大回旋電子ビームを用いた高調波ジャイロ・ペニオトロンの開発研究	遠赤外領域開発研究センター
客員教授	Tsun-Hsu Chang	台湾国立清華大学物理系	周波数可変ジャイロ BWO の開発	遠赤外領域開発研究センター
客員准教授	孫立権	中国北京理工大学生命科学与技術学院	新規 F-18 標識化合物自動合成法の開発	高エネルギー医学研究センター
客員准教授	Md. Monirul ISLAM	バングラデシュ工科大学 ダッカ校計算機理工学科	ニューラルネットワーク集合の構造化学習と進化ロボットへの適用	工学研究科

（事務局資料）

海外研究者招聘の体制整備・促進

日本学術振興会の「外国人著名研究者招聘」事業等へ積極的に応募し、世界的に著名な研究者を多数招聘するなど、世界最先端の研究推進等に努めた【資料 2-11-2～5】。

資料 2-11-2 外国人研究者の受入状況（平成 18 年度）

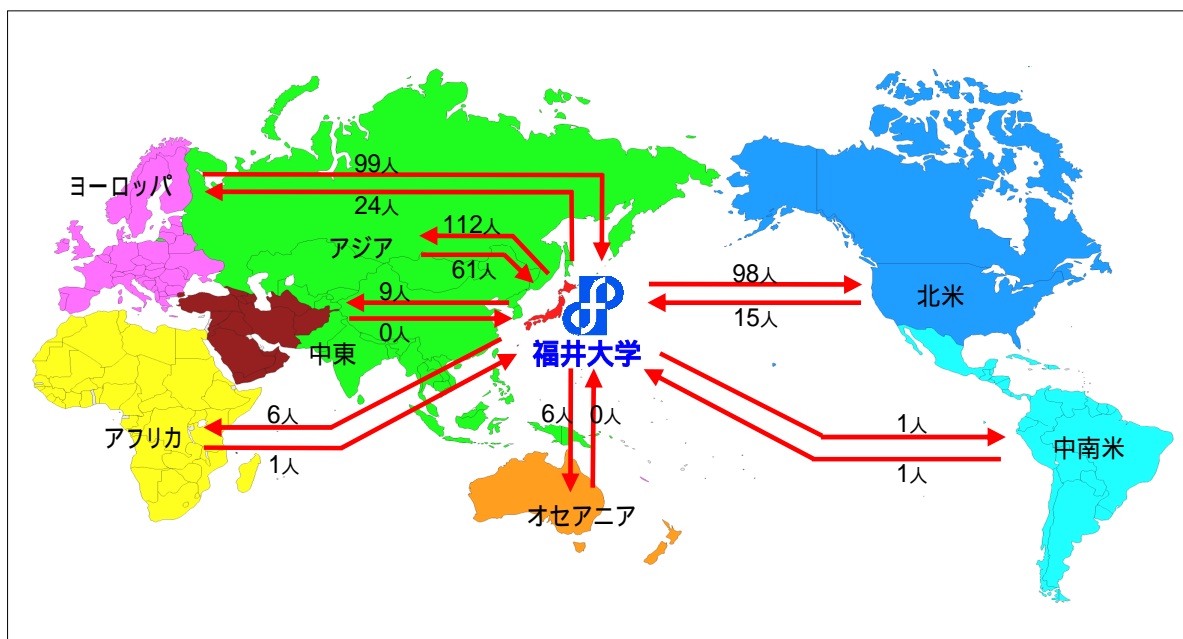
国名	人数	うち滞在期間が 1ヶ月以上の者
インド	1	1
バングラデシュ	4	2
スリランカ	1	0
タイ	2	0
マレーシア	1	0
インドネシア	4	2
韓国	1	1
モンゴル	1	1
ベトナム	1	0
中国	43	24
北朝鮮	1	1
台湾	1	0
ウガンダ	1	1
カナダ	1	0

国名	人数	うち滞在期間が 1ヶ月以上の者
アメリカ	14	6
ペルー	1	1
フィンランド	1	1
スウェーデン	1	0
イギリス	4	4
ドイツ	6	4
フランス	2	1
チェコ	1	1
ブルガリア	1	1
ロシア	5	1
スロベニア	1	0
キルギス	2	0
合計	102	53

(参考) 平成 17 年度 109 名(うち1ヶ月以上 57 名)
平成 16 年度 132 名(うち1ヶ月以上 62 名)

(文部科学省「平成19年度国際研究交流状況調査」より)

資料2-11-3 平成18年度海外研究機関等との交流状況



(「平成18年度海外研究機関等との交流状況」より)

資料 2-11-4 フランス原子力庁長官による原子力エネルギー講演会の開催



原子力エネルギー講演会 (H19.4.19(火)開催)

平成 17 年 4 月, フランス原子力庁長官 A. ビュガ氏を招聘し, 本学総合研究棟 大会議室を会場として原子力エネルギー講演会を開催した。学内外から 200 人超の参加者を集め, 原子力エネルギーに対する関心の高さを感ぜさせる講演となった。

Global Energy Prospects and Nuclear Energy Challengers
(世界のエネルギー事情と原子力開発) CEA 長官 A. ビュガ

地球環境の保護と世界におけるエネルギー需要の増大という観点から, 原子力開発に対する国際的な協調が進められようとしており, フランスにおいても, 国民的議論により, 地球温暖化の防止とエネルギーの安定供給のための研究開発を進める方針が打ち出された。核燃料サイクル実現のための技術及び廃棄物の減少とその処分のための技術開発が進められている。日仏で施設を共用して研究開発を進めると同時に, これにより人材の開発も進めていきたい。



CEA 長官 A. ビュガ氏

(福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS Vol.6」より)

資料 2-11-5 GP による海外研究者の招聘講演会開催一覧

開催日	氏名	所属	内容	備考
H18.04.26	Francois Boucher	オタワ大学家庭医療学講座助教授	「カナダにおける家庭医療学」特別講演会	現代 GP・医療人 GP 共同企画
H18.06.23	Sara Morton Stein	元亀田医療技術専門学校英語教師	「アメリカで勉強してみませんか?」留学のためのセミナー	現代 GP・医療人 GP 共同企画
H18.10.17	Dele Tatsuo Oda	ハワイ大学附属クィーンズ病院救急部医師	「ハワイの救急医学」特別講演会	現代 GP・医療人 GP 共同企画
H18.10.19	Dele Tatsuo Oda	ハワイ大学附属クィーンズ病院救急部医師	「ハワイの救急医学」特別講演会	現代 GP・医療人 GP 共同企画
H19.05.25	Margaret Lunney	ニューヨーク市立大学スタテンアイランド校教授	「ケアの質の保証: 正確な看護診断ができる看護師になる為に」特別講演会	現代 GP
H19.05.28	Margaret Lunney	ニューヨーク市立大学スタテンアイランド校教授	「アメリカの病院と看護の現状について」セミナー	現代 GP
H19.06.13	Sara Morton Stein	元亀田医療技術専門学校英語教師	「アメリカ留学準備」特別講演会	現代 GP・医療人 GP 共同企画
H19.12.12	Maria Michalczyk	ポートランド・コミュニティカレッジ医療通訳養成プログラム講師	「上手なコミュニケーターになるために」特別講演会	現代 GP
H19.12.14	Maria Michalczyk	ポートランド・コミュニティカレッジ医療通訳養成プログラム講師	「上手なコミュニケーターになるために」特別講演会	現代 GP
H19.12.14	Gerald Herbert Stein	フロリダ大学医学部助教授	「医療面接と医学英語」特別講演会	現代 GP・医療人 GP 共同企画
H19.12.18	Peter James Kuling	オワタ大学家庭医療講座講師	「カナダの家庭医療医学」特別講演会	現代 GP・医療人 GP 共同企画

(事務局資料)

国際交流推進機構の設置による人材育成

平成 19 年度に「国際交流推進機構」を設置し【P86 資料 2-1-1】，当機構の下に海外拠点
を構築し，地域諸国家との交流・次世代を担うべき若き人材の育成・共同研究などを積
極的に進めることとした【P86 資料 2-1-2】。

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

1. 外国人留学生の受け入れは福井県内の高等教育機関のうち約 8 割を占めており，短
期留学プログラムの充実や生活上のサポートを図るための支援会の創設等により，
受入留学生数は確実に増加している。また，留学生を通じて地域社会の国際化を支
援するために，小中高校での総合学習・国際理解教育，市民交流活動等に対して留
学生を講師として毎年 50 件以上派遣するなど，地域における国際交流を積極的に
促進している。
2. 留学生交流ネットワークについては，通称「こころねっと」を通じて留学生相互
の情報交換や卒業留学生との交流を推進するなど，関係者からの高い評価を得てい
る。また，「福井大学留学生同窓会」を設立し，アジアを中心とした 10 支部と本学・
在学留学生・地域社会等とのネットワークを構築して交流を積極的に推進する活動
は，特色ある取組として他大学からも注目されている。
3. 地域との国際交流連携や，海外の学術交流協定機関を中心に行う教育研究活動の
成果は，地元自治体等との連携事業や，国際共同研究や国際コンソーシアムという
形で具現化している。特に，高エネルギー医学研究センターや遠赤外領域研究開発
センターでは，国際的視野に立った共同研究を多数実施しており，先端的な研究面
での社会貢献を果たしている。また，国際競争力の強化を図り，本学の特色を活か
した国際的水準での教育研究を全学的に推進するため「国際交流推進機構」を設
置し，海外拠点を通じて更なる国際共同研究の促進・研究者の招聘・人材の育成を
図っている。

中項目 1 の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

地域社会との連携においては、小中高校生・保護者・キャリアアップをめざす職業人など幅広い人々を対象に、個別支援や相談、公開講座、特別再教育プログラム、大学・図書館の開放、演奏会など多様な形態で持続的・精力的に取り組んでおり、GPの採択や各種アンケート結果に見られるように高い評価を得ている。

また、産学官連携においても、産学官の情報交換を密にし、共同研究の推進のみならず、それを事業化していく連携事業においても本学は中核的な役割を果たしている。外部資金の伸びやベンチャー企業の増加率が顕著であることが、産学官連携の目的達成状況が非常に優秀であることを物語っている。

国際交流活動については、留学生交流ネットワーク(通称:こころねっと)の活動をベースとした「福井大学留学生同窓会」の設立や、地域社会との活発な交流活動の展開、先端的な国際共同研究の推進など、地方に位置する国立大学の中でも、最も国際交流に熱心な大学の一つであると自負している。

このように、本学の理念にもある「地域に貢献しうる大学」として、活発な地域教育活動、地域社会と深く結びついた共同研究、国際交流活動を展開し、各分野から高い評価を受け、具体的な成果も数多く上がっていることから、目的の達成状況は「非常に優れている」と判断できる。

優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

1. 「福井大学一日遊学」「元気プロジェクトまつり」等、地域ニーズに応じた多様なイベントを通じて教育・研究・医療の成果を積極的に開放し、参加者等からの高い評価を受けている。(計画 1-4)
2. 地域の産業界との連携において、本学の活動は「福井方式」として注目され、共同研究・受託研究件数の大幅増加など優れた成果を上げている。(計画 1-10)
3. 僻地における医療人養成、分娩引受の実現、地域枠入試の実施等については、地方の医師不足という福井県の地域性に対応した、今後の成果が期待できる先進的な取組である。(計画 1-8, 1-15)

(改善を要する点)

1. 附属図書館の市民開放が飛躍的に推進されたが、建物構造や閲覧環境等についてより一層市民に親しめるものにするため、平成 20 年度に文京キャンパスの総合図書館改修を予定している。(計画 1-7)
2. 日本人学生の海外派遣に関して、広報体制の充実及び協定校との関係強化によって留学の機会は増えているが、語学力向上のための取組・留学経費の支援等、留学をより現実化させるためのフォローアップが必要であるため、平成 20 年度から工学部学生等を対象とした海外留学準備コースの設置を予定している。(計画 2-10)

(特色ある点)

1. カリキュラムの中に位置付けられた「ライフパートナー事業」「探求ネットワーク事業」と持続的に続けられている「子どもの悩み 110 番」は、子どもの不登校の減少に寄与する実践及び学校 5 日制に対応する地域の受け皿として、非常に個性的な地域連携事業であると全国から注目されている。(計画 1-1)
2. 「福井県エネルギー拠点化計画」と連携し、本学が中核となり関西・中京圏の大学との「広域連携大学拠点設置構想」を推進している。(計画 1-15)
3. 帰国留学生等による「福井大学留学生同窓会」を設立し、海外の各支部と在学留学生・地域社会等とのネットワークを構築して文化・友好交流を推進する活動は、特色ある取組として他大学からも注目されている。(計画 2-4)

添付資料

重点的に取り組む領域説明書

(表)

「重点的に取り組む領域説明書 (表)」整理表

関連する中期計画	重点的に取り組む研究領域名
研究に関する目標 中項目 1 小項目 5 中期計画 5 - 1	地域・学校と協働ですすめる地域の学校改革とそのための実践的な教育研究を行う。 (整理番号: 42 - 01)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 5 中期計画 5 - 2	地域の文化, 住民生活, 自治の向上に資する地域科学研究を行う。 (整理番号: 42 - 02)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 2 中期計画 2 - 1	地域の教育研究ネットワークの中心的存在としての役割を強化する研究を行う。 (整理番号: 42 - 03)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 1 中期計画 1 - 1	神経系, 免疫系などを対象として細胞の分化と増殖の制御機構を分子レベルで明らかにし, 高次生体システムの発達・構築とその維持に関わるメカニズムの解明に関する研究を行う。 (整理番号: 42 - 04)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 3 中期計画 3 - 1	生殖・内分泌医学に関する基礎的研究及びトランスレーショナルリサーチ(基礎的な研究成果の臨床応用)に繋がる研究を行う。 (整理番号: 42 - 05)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 3 中期計画 3 - 2	人の生活の質(QOL)と福祉の向上に関連する様々な領域を結集した医学研究を行う。 (整理番号: 42 - 06)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 4 中期計画 4 - 2	生体内の様々な機能情報を画像化するための標識薬剤の開発研究とデータ収集・解析法の開発研究を行い, 悪性腫瘍, 脳疾患, 心疾患などにおける臨床的意義の確立を目指す。 (整理番号: 42 - 07)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 3 中期計画 3 - 3	健康障害をもつ人々の生活の質の向上と健康維持に寄与できる看護学研究を行う。 (整理番号: 42 - 08)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 1 中期計画 1 - 2	物質, システム, 環境設計系諸分野の発展に寄与する研究を行う。 (整理番号: 42 - 09)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 2 中期計画 2 - 2	ファイバーアメニティ研究, 原子力・エネルギー安全工学研究など地域社会の産業活性化と既存産業の活性化と新産業創出に寄与できる研究を行う。(ファイバーアメニティ研究に係る分野) (整理番号: 42 - 10)
	ファイバーアメニティ研究, 原子力・エネルギー安全工学研究など地域社会の産業活性化と既存産業の活性化と新産業創出に寄与できる研究を行う。(原子力・エネルギー安全工学研究に係る分野) (整理番号: 42 - 11)
研究に関する目標 中項目 1 小項目 2 中期計画 2 - 3	国内外の研究機関との共同研究で遠赤外領域開発研究センター, 高エネルギー医学研究センターなど国際的な研究拠点として先導的な役割を果たす研究を行う。 (遠赤外領域開発研究センターに係る分野) (整理番号: 42 - 12)
	国内外の研究機関との共同研究で遠赤外領域開発研究センター, 高エネルギー医学研究センターなど国際的な研究拠点として先導的な役割を果たす研究を行う。 (高エネルギー医学研究センターに係る分野) (整理番号: 42 - 13)
	生体内の様々な機能情報を画像化するための標識薬剤の開発研究とデータ収集・解析法の開発研究を行い, 悪性腫瘍, 脳疾患, 心疾患などにおける臨床的意義の確立を目指す。 (整理番号: 42 - 07)

注: 「重点的に取り組む研究領域名」欄の記載順は本学の中期計画順とした。

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 01

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名)寺岡 英男 (所属)教育地域科学部 (職名)教授

重点的に取り組む領域名
地域・学校と協働ですすめる地域の学校改革とそのための実践的な教育研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)																																																							
学校改革に資する教師教育研究と新しい教育課題に関する教育研究の推進が重要な目的であり、その取り組みが科学研究費やG P等外部の審査者により評価され、研究成果が学部・大学院の組織改革に結びついていること。																																																							
2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)																																																							
<p>教師教育に関しては、大学院と協定を結んだ諸学校(拠点校)に、学部教員が出向き、学校教諭と連携しながら授業づくりと組織づくりにかかわったプロセスを著書・学術論文にまとめた成果が公表されている。この活動は、教員養成G Pに採択され評価されている。</p> <p>新しい教育内容(小学校英語、法教育)や学校教育が直面している諸課題(発達障害、健康問題)、あるいは授業研究に関する研究的な取り組みを継続しており、全国規模の学会において優秀論文として評価された学術論文を含み、研究成果を学会誌の査読論文や著書として公にしている。</p> <p>教育研究成果を基に、教職開発専攻(教職大学院)設置を申請し、平成19年12月に認可されている。</p> <p>以上のように学部・研究科の重要な研究課題について、成果を公にし、しかも公募による外部資金を獲得し、最終的には学部・大学院の組織改革に結び付けている点で所与の目的を達成していると判断した。</p>																																																							
3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。																																																							
(合計10名)																																																							
(他機関の参加者も含む。)																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所属(学部・研究科等)</th> <th>職名</th> <th>専門分野</th> <th>分担内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寺岡 英男</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>教育方法学</td> <td>総括・教師教育</td> </tr> <tr> <td>柳沢 昌一</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>社会教育学</td> <td>教師教育</td> </tr> <tr> <td>石井パークマン麻子</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>障害児教育・教師教育</td> <td>教師教育</td> </tr> <tr> <td>岸野 麻衣</td> <td>教育地域科学部</td> <td>講師</td> <td>幼児教育</td> <td>教師教育</td> </tr> <tr> <td>梅澤 章男</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>教育心理学</td> <td>健康教育への対応</td> </tr> <tr> <td>三橋 美典</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>障害児心理学</td> <td>発達障害への対応</td> </tr> <tr> <td>大下 邦幸</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>英語科教育</td> <td>新しい教育内容への対応</td> </tr> <tr> <td>荒井 紀子</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>家庭科教育</td> <td>新しい教育内容への対応</td> </tr> <tr> <td>寺尾 健夫</td> <td>教育地域科学部</td> <td>教授</td> <td>社会科教育</td> <td>新しい教育内容への対応</td> </tr> <tr> <td>橋本 康弘</td> <td>教育地域科学部</td> <td>准教授</td> <td>社会科教育</td> <td>新しい教育内容への対応</td> </tr> </tbody> </table>	氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容	寺岡 英男	教育地域科学部	教授	教育方法学	総括・教師教育	柳沢 昌一	教育地域科学部	教授	社会教育学	教師教育	石井パークマン麻子	教育地域科学部	教授	障害児教育・教師教育	教師教育	岸野 麻衣	教育地域科学部	講師	幼児教育	教師教育	梅澤 章男	教育地域科学部	教授	教育心理学	健康教育への対応	三橋 美典	教育地域科学部	教授	障害児心理学	発達障害への対応	大下 邦幸	教育地域科学部	教授	英語科教育	新しい教育内容への対応	荒井 紀子	教育地域科学部	教授	家庭科教育	新しい教育内容への対応	寺尾 健夫	教育地域科学部	教授	社会科教育	新しい教育内容への対応	橋本 康弘	教育地域科学部	准教授	社会科教育	新しい教育内容への対応
氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容																																																			
寺岡 英男	教育地域科学部	教授	教育方法学	総括・教師教育																																																			
柳沢 昌一	教育地域科学部	教授	社会教育学	教師教育																																																			
石井パークマン麻子	教育地域科学部	教授	障害児教育・教師教育	教師教育																																																			
岸野 麻衣	教育地域科学部	講師	幼児教育	教師教育																																																			
梅澤 章男	教育地域科学部	教授	教育心理学	健康教育への対応																																																			
三橋 美典	教育地域科学部	教授	障害児心理学	発達障害への対応																																																			
大下 邦幸	教育地域科学部	教授	英語科教育	新しい教育内容への対応																																																			
荒井 紀子	教育地域科学部	教授	家庭科教育	新しい教育内容への対応																																																			
寺尾 健夫	教育地域科学部	教授	社会科教育	新しい教育内容への対応																																																			
橋本 康弘	教育地域科学部	准教授	社会科教育	新しい教育内容への対応																																																			
4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。																																																							
<p>総額 100,800 千円</p> <p>教員養成G P「学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院」 科学研究費補助金(平成16年度～19年度中 10件採択) 受託研究費 奨学寄附金 運営費交付金</p>																																																							

5. 選定された研究業績リスト

No	研究業績名		細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等	
				学術的意義	社会、経済、文化的意義		
42	01	2001	学校教育におけるバイオフィードバックの利用可能性を探る	1401	S		
42	01	2002	小学校英語と中学校英語を結ぶ - 英語教育における小中連携	3005	S		
42	01	2003	授業進行から外れた子どもの発話への教師の対応 小学校2年生の算数と国語の一斉授業における教室談話の分析	3902	SS		
42	01	2004	今、あらためてLDを考える：軽度発達障害を再考するシンポジウム討論とまとめ	3902	S		
42	01	2005	実践のコミュニティと省察的な機構 福井大学における教育実践研究と組織改革の展開	4001	SS		
42	01	2006	科学リテラシーと授業改善	4001	S		
42	01	2007	生活主体の形成と家庭科教育	4003	SS		
42	01	2008	“法”を教える 身近な題材で基礎基本を授業する	4003	SS		
42	01	2009	認知構成主義に基づく歴史人物学習の原理 - アマーストプロジェクト単元『リンカーンと奴隷解放』を手がかりとして -	4003	S		
42	01	2010	初期の発達段階にある重度重複障害をもつ生徒たちを指導する教師たちの体験に基づく、現職教員教育の効果について	4004		S	

共同利用・共同研究	
-----------	--

整理番号	42	-	02
------	----	---	----

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名) 松木 健一 (所属) 教育地域科学部 (職名) 教授

重点的に取り組む領域名
地域の文化，住民生活，自治の向上に資する地域科学研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)
 地域の文化・生活・自治の向上に資する実践的な教育研究の推進と充実が重要な目的であり，その取り組みがGPあるいは科学研究費などの外部の審査者により評価され，かつ地域行政の施策改善・組織改革に結びついていること。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)
 (生涯学習領域) 学部のコア・カリキュラムとしてライフパートナーを設定した。これは教員免許における教職科目に位置づけられた臨床教育学的な実践研究である。その独自性が評価され，特色GPに採択されている。また，健康と有酸素運動に関する研究やスキーの安全対策に関する研究などにより専門的な立場から地域における健康づくり推進に関する指導を行っている。(環境，地域文化・経済領域) 平成16年7月の福井豪雨において，洪水調査分析データを公表し，今後の防災・減災を検討する際の貴重な研究成果として評価された。この領域では，南アジアにおける環境にかかわる政治・文化的研究など科研費の補助による多彩な研究が発表されているが，中でも海運サービスのモデル構成に関する研究は学会賞を受賞している。科研費等の外部資金を得て実施した研究成果をもとに，特許を取得したものを含め，2件のベンチャー・ビジネスを起業している。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。
 (合計8名)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
松木 健一	教育地域科学部	教授	教育臨床心理学	総括・ライフパートナー
水沢 利栄	教育地域科学部	准教授	体育学	健康づくりの推進
戎 利光	教育地域科学部	教授	生理学・衛生学	健康づくりの推進
月原 敏博	教育地域科学部	准教授	地理学	地域文化
手塚広一郎	教育地域科学部	准教授	経済学	地域経済
山本 博文	教育地域科学部	准教授	地学	地域環境
前田 榊夫	教育地域科学部	教授	生物学	知財起業化
吉澤 正尹	教育地域科学部	教授	保健体育科教育	知財起業化

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 87,078 千円
 特色GP「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の一部
 科学研究費補助金(平成16年度～19年度中 7件採択)
 受託研究費
 奨学寄附金
 運営費交付金

5. 選定された研究業績リスト

No	研究業績名	細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等		
			学術的意義	社会、経済、文化的意義			
42	02	2001	特許（申請中）によるベンチャー・ビジネスの起業	1402		SS	
42	02	2002	スキー場における免責告知 パーク内の注意表示の検討	1402		S	
42	02	2003	Chronic effects of aerobic exercise upon blood lipids in hyperlipidemia patients.	1403		S	
42	02	2004	南アジアにおける山地の「環境と開発」資源・環境をめぐる政治と文化の研究課題	3201	S		
42	02	2005	不定期船市場におけるスポット運賃と先物価格の形成 数値計算によるバイアスの検証を中心として	3604	SS		
42	02	2006	松木健一監修 すぐに役立つ特別支援教育コーディネータ入門	4004		S	
42	02	2007	ライフパートナー活動報告書	4004		S	
42	02	2008	福井市足羽川左岸における平成16年福井豪雨の浸水被害について	4404		S	
42	02	2009	Production of sporophytic plants of <i>Cyathea lepifera</i> , a tree fern, from in vitro cultured gametophyte	5704		S	

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 03

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名) 森 透 (所属) 教育地域科学部 (職名) 教授

重点的に取り組む領域名
地域の教育研究ネットワークの中心的な存在としての役割を強化する研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

多彩な専門性を生かして大学と地域が協働した実践的な研究を展開し、その成果を地域貢献や国際協力につなげていくことで、地域の教育研究ネットワークの核としての福井大学の役割を高める。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

大学を拠点とした地域とのネットワークを生かし、児童の長期にわたる探求活動を支える実践的研究に継続的に取り組む他、地域の諸学校・機関との共同研究を推進し、その成果を学術論文や芸術文化催事等で公表してきた。こうした教育研究活動の内、「探求ネットワーク」は特色GPにも採択され、評価されている。

教科教育学や教科専門の立場から全国の諸学校で採用されている教科書や辞書の編纂に取り組み、教科指導における教育内容・カリキュラム開発・授業改善の方向性を提案してきており、地域のみならずわが国の学校教育に貢献している。

海外との共同研究成果を基礎に、教科教育法の国際ワークショップを開催し、諸外国の学校教育にも貢献している。以上のような研究成果は、地域における教育研究ネットワークの核としての役割を強化するものであり、所与の目的を十分に達成していると判断した。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(合計10名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
森 透	教育地域科学部	教授	教育実践史	総括・探究ネットワーク
伊佐 公男	教育地域科学部	教授	理科教育	理数ネットワーク
香川喜一郎	教育地域科学部	教授	物理	理数ネットワーク
浅原 雅浩	教育地域科学部	准教授	化学	理数ネットワーク
西畑 敏秀	教育地域科学部	教授	デザイン	芸術文化ネットワーク
宇野 文男	教育地域科学部	教授	博物館情報学	芸術文化ネットワーク
分校 淑子	教育地域科学部	准教授	カリキュラム・授業改革	消費者教育ネットワーク
中根 貞幸	教育地域科学部	教授	英語学	教科書・辞書の編纂
松友 一雄	教育地域科学部	准教授	国語科教育	教科書・辞書の編纂
石井 恭子	教育地域科学部	准教授	カリキュラム・授業改革	教科書・辞書の編纂

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 74,175 千円

特色GP「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の一部

科学研究費補助金(平成16年度～19年度中 3件採択)

受託研究費

奨学寄附金

運営費交付金

5. 選定された研究業績リスト

No	研究業績名	細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等	
			学術的意義	社会、経済、文化的意義		
42	03	2001	SPP (サイエンス・パートナーシップ・プログラム) 事業の実践と課題 中大連携のすすめ	1601	S	
42	03	2002	分子模型作製方法、及び分子模型	1601	SS	
42	03	2003	福井クリエイターズガイド06-07	2806	S	
42	03	2004	福井大学&福井県立歴史博物館コラボレーション企画展「ピン。展 ラリックからラムネ瓶まで」	2806	S	
42	03	2005	編集協力・校閲 『ジーニアス英和辞典』第4版	3003	S	
42	03	2006	教育実践の事例研究を通じた教育学の再構築 <実践 - 省察 - 再構成> の学びのサイクルの提案	4001	SS	
42	03	2007	持続可能な社会に向けての消費者教育の転換	4003	S	
42	03	2008	三省堂中学校国語科教科書『現代の国語』1~3年	4003	S	
42	03	2009	小学校理科教科書『新しい理科』3年・4年・5年・6年	4003	S	
42	03	2010	新編 新しい科学	4003	S	
42	03	2011	地域と協働する実践的教員養成プロジェクトの構想と実践 - 小・中学生と学生との協働プロジェクト(探究ネットワーク) -	4004	S	
42	03	2012	Hydrogen and Deuterium Analysis Using Laser-Induced Plasma Spectroscopy	4701	S	

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 04

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学		
領域代表者名	(氏名) 眞弓 光文	(所属) 医学部	(職名) 教授

重点的に取り組む領域名
神経系, 免疫系関連医学研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)					
神経系, 免疫系などを対象として細胞の分化と増殖の制御機構などを分子レベルで明らかにし, 高次生体システムの発達・構築とその維持に関わるメカニズムの解明に関する研究を行う。					
2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)					
特筆すべき成果が得られた。脳内情報伝達システム成熟, 脳形成, 消化管分化, アレルギー獲得, チャネル調節機構に関する研究を行った。これらをCellなどのトップジャーナル等に英文原著論文として発表した。顕著なものをSSとして示した。中でも, チャネル調節機構に関する論文はCell誌において月間ダウンロード数1位, 歴代14位になり, 国際的に高く注目された。その他, 細胞分化におけるId蛋白の新たな機能, 生体システムの維持に関わる新たな受容体機能調整機構の解明, 食物アレルギー, 花粉アレルギーに関する新たな知見などが得られた。又, 脳形成に関わる論文は掲載誌(J. Neurosci.)にハイライト論文として取りあげられた。これらの業績のもと本学はISIの引用度指数において免疫学の分野では全国大学等3位, 神経科学の分野では全国大学等9位であった(大学ランキング(朝日新聞社))。同時にこの分野において共同研究も盛んに実施された。					
3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。					
(他の参加者を含め合計25名)					
(他機関の参加者も含む。)					
氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容	
佐藤 真	医学部	教授	神経解剖学, 解剖学, 神経化学	大脳皮質形成	
老木 成稔	医学部	教授	生理学, 生物物理学	イオンチャネルの分子生理学	
横田 義史	医学部	教授	医化学一般, 分子生物学	細胞分化と増殖, 消化管分化	
村松 郁延	医学部	教授	受容体薬理, 神経薬理	情報伝達システム, 受容体	
眞弓 光文	医学部	教授	小児科学	免疫学, アレルギー学	
山口 明夫	医学部	教授	消化器外科学	癌研究	
藤枝 重治	医学部	教授	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	アレルギー性鼻炎	
米田 誠	医学部	准教授	神経内科学	神経免疫学	
大嶋 勇成	医学部	講師	小児科学	免疫学, アレルギー学	
清水 啓史	医学部	助教	生理学, 生物物理学	イオンチャネル	
4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。					
総額 906,496千円 平成16年度～平成19年度の科学研究費補助金, 厚生科学研究費補助金・がん研究助成金, 21世紀COE経費, その他財団等からの助成金, 共同研究費, 受託研究費, 奨学寄附金, 学内競争的配分経費					

5. 選定された研究業績リスト

No	研究業績名		細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等
				学術的意義	社会、経済、文化的意義	
42	04	2001	Vlgr1 is responsible for audiogenic seizure susceptibility.	1102	S	
42	04	2002	gamma-Aminobutyric acid-containing sympathetic preganglionic neurons in rat thoracic spinal cord send their axons to the superior cervical ganglion.	1102	S	
42	04	2003	Surface structure and its dynamic rearrangements of the KcsA Potassium channel upon gating and tetrabutylammonium blocking.	2401	SS	
42	04	2004	Global Twisting Motion of Single Molecular KcsA Potassium Channel Upon Gating.	5801	SS	
42	04	2005	Filamin A and FILIP (Filamin A-interacting protein) regulate cell polarity and motility in neocortical subventricular and intermediate zones during radial migration.	6901	SS	
42	04	2006	Coupled K+-Water Flux through the HERG Potassium Channel Measured by an Osmotic Pulse Method.	6902	S	
42	04	2007	Snapin, a new regulator of receptor signaling, augments α 1A-adrenoceptor-operated calcium influx through TRPC6.	6904	SS	
42	04	2008	RFX1 mediates the serum-induced immediate early response of Id2 gene expression.	6905	SS	
42	04	2009	Nucleo-cytoplasmic shuttling of Id2, a negative regulator of basic helix-loop-helix transcription factors.	6905	SS	
42	04	2010	Adaptor protein 3BP2 and cherubism.	6906	S	
42	04	2011	特許第3976742号インターフェロンアルファを誘導する免疫刺激オリゴヌクレオチド	6913	S	
42	04	2012	High prevalence of serum autoantibodies against the amino terminal of α -enolase in Hashimoto's encephalopathy.	7206	SS	
42	04	2013	Biomarkers for oxidative stress: Clinical application in pediatric medicine.	7211	SS	
42	04	2014	Ovalbumin-specific IgE modulates ovalbumin-specific T cell response after repetitive oral antigen administration.	7211	SS	
42	04	2015	Erythromycin differentially inhibits LPS- or poly (I:C)-induced but not peptidoglycan-induced activation of human monocyte-derived dendritic cells.	7211	SS	
42	04	2016	Transmaternal exposure to bisphenol A modulates the development of oral tolerance.	7211	S	
42	04	2017	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2005 .	7211		S
42	04	2018	Angiogenesis and tumor proliferation/metastasis of human colorectal cancer cell line SW620 transfected with endocrine glands-derived-vascular endothelial growth factor, as a new angiogenic factor.	7302	SS	

42	04	2019	Identification of alpha-1L and alpha-1A adrenoceptors in human prostate by tissue segment binding.	7307	SS		
42	04	2020	Id2 haploinsufficiency in mice leads to congenital hydronephrosis resembling that in humans.	7307	SS		
42	04	2021	Collaborative action of NF-kappaB and p38 MAPK is involved in CpG DNA-induced IFN-alpha and chemokine production in human plasmacytoid dendritic cells.	7309	SS		
42	04	2022	B lymphocyte stimulator activates p38 mitogen-activated protein kinase in human Ig class switch recombination.	7309	SS		

共同利用・共同研究	
-----------	--

整理番号	42	-	05
------	----	---	----

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学		
領域代表者名	(氏名) 宮本 薫	(所属) 医学部	(職名) 教授

重点的に取り組む領域名
生殖・内分泌医学関連研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

生殖・内分泌医学に関する基礎的研究及びトランスレーショナルリサーチ(基礎的な研究成果の臨床応用)に繋がる研究を行う。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

幹細胞を用いた生殖腺細胞への分化誘導技術の開発、莖膜細胞や女性生殖腺の成熟分化、胎児消化管機能成熟に関する羊水の役割の解明、さらには糖尿病学などで優れた成果が得られた。構成員の一人はこれら分野を包括するCRESTにおいて、研究代表者に選出されており内分泌攪乱物質ダイオキシンなどにより発現変化をうける遺伝子データベースを完成・公開するとともに、将来の再生治療への途を拓く幹細胞の生殖内分泌細胞への分化の研究を進め「幹細胞からのステロイドホルモン産生細胞の作製」に関する特許を登録した。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計10名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
宮本 薫	医学部	教授	内分泌学, 医化学一般	内分泌攪乱物質
小辻 文和	医学部	教授	生殖医学, 婦人科腫瘍学, 内分泌学	生殖機能の分化・発達・維持
山田 一哉	医学部	准教授	生化学, 分子生物学	栄養素とホルモンと遺伝子転写調節
水谷 哲也	医学部	講師	生化学, 内分泌学	幹細胞からのステロイドホルモン産生細胞創出
塚原 宏一	医学部	講師	小児科学, 腎臓内科学, 新生児学	新生児学(特に酸化ストレス)
田嶋 公久	医学部	講師	婦人科生殖内分泌	卵巣顆粒膜細胞・莖膜細胞におけるステロイド産生調節の解明
矢澤 隆志	医学部	助教	医化学一般, 内分泌学	ステロイドホルモン産出細胞の形成
西島 浩二	医学部	助教	産婦人科学	超低出生体重児の消化管成熟法
折坂 誠	医学部	助教	産婦人科学, 生殖生理学	卵巣での顆粒膜・莖膜細胞間相互作用の役割

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 186,877千円
平成16年度～平成19年度の科学研究費補助金, 厚生科学研究費補助金・がん研究助成金, 21世紀COE経費, その他財団等からの助成金, 共同研究費, 受託研究費, 奨学寄附金, 学内競争的配分経費

5. 選定された研究業績リスト

No	研究業績名	細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等
			学術的意義	社会、経済、文化的意義	
42 05 2001	Identification of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin (TCDD)-inducible and -suppressive genes in the rat placenta: induction of interferon-regulated genes with possible inhibitory roles for angiogenesis in the placenta.	2003		SS	
42 05 2002	Gene expression of basic helix-loop-helix transcription factor, SHARP-2, is regulated by gonadotropins in the rat ovary and MA-10 cells.	6906	S		
42 05 2003	Flare-up of serum amylase prior to onset of lethal ketoacidosis in a patient with fulminant type 1 diabetes mellitus.	7207	SS		
42 05 2004	Differentiation of adult stem cells derived from bone marrow stroma into Leydig or adrenocortical cells.	7208	SS		
42 05 2005	Concentrations of thioredoxin, a redox-regulating protein, in umbilical cord blood and breast milk.	7211	SS		
42 05 2006	Micelles of pulmonary surfactant in human amniotic fluid at term.	7212	SS		
42 05 2007	Assessment of the Vascularity of Uterine Leiomyomas using Double-Echo Dynamic Perfusion-weighted MRI with the First-pass Pharmacokinetic Model: Correlation with Histopathology.	7215	S		
42 05 2008	An operative technique for conservative management of placenta accreta.	7308	SS		
42 05 2009	Ovarian theca cells in follicular function.	7308	S		
42 05 2010	Growth differentiation factor 9 is antiapoptotic during follicular development from preantral to early antral stage.	7308	S		

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 06

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学		
領域代表者名	(氏名)馬場 久敏	(所属)医学部	(職名)教授

重点的に取り組む領域名
QOL関連医学研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

人の生活の質(QOL)と福祉の向上に関連する様々な領域を結集した医学研究を行う。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

整形外科関連疾患に対する多様なアプローチ, アミロイドーシス等に関する特徴的な研究, 脳梗塞時の蓄尿障害発現機構に関する研究, 白内障発症機序に関する研究や新たな手術術式の提案など顕著な成果が得られた。又, 接触アレルギーの原因を特定し, 政策を変えた研究も発表された。さらに, 心筋梗塞時の血液マーカーに関する研究は, 発作後最も早く変化するマーカーとして高く評価され, 検査用キットとして販売準備が進められている。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計36名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
内木 宏延	医学部	教授	神経病理学, 病態 医化学	アミロイドーシス発 症機構の解析
安田 年博	医学部	教授	法医学	心筋梗塞・核酸分解 酵素に関する研究
馬場 久敏	医学部	教授	整形外科, リハビリ テーション医学	脊椎脊髄疾患の臨床 神経生理学・病理学
横山 修	医学部	教授	泌尿器科学	排尿調節の中樞機構
赤木 好男	医学部	教授	眼科学	糖尿病眼合併症
田中 國義	医学部	教授	心臓血管外科学	虚血性心疾患治療
今野 卓	医学部	准教授	生物物理学, 生理 学一般	タンパク質凝集過程 の解析
松本 英樹	医学部	准教授	放射線科学, 放射 線・化学物質影響科 学, 分子生物学	癌・温熱療法研究
小林 茂	医学部	准教授	整形外科, リハビリ テーション科学・ 福祉工学	関節軟骨及び椎間板 再生に関する研究
井戸 敏子	医学部	講師	皮膚科学	アレルギーに関する 研究

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 973,451千円

平成16年度～平成19年度の科学研究費補助金, 厚生科学研究費補助金・がん研究助成金, 21世紀COE経費, その他財団等からの助成金, 共同研究費, 受託研究費, 奨学寄附金, 学内競争的配分経費

5 . 選定された研究業績リスト

No	研究業績名		細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等
				学術的意義	社会、経済、文化的意義	
42	06	2001	Nitric Oxide Radicals Choreograph a Radioadaptive Response.	2003	SS	
42	06	2002	Phosphate and amide mapping of sialolith with Raman microspectroscopy	4706	S	
42	06	2003	Pressure-dissociable reversible assembly of intrinsically denatured lysozyme is a precursor for amyloid fibrils.	5803	SS	
42	06	2004	A novel alternative spliced Mpv17-like protein isoform localizes in cytosol and is expressed in a kidney-specific and adult-specific manner.	5804	S	
42	06	2005	Genetic and biochemical properties of streptococcal NAD-glycohydrolase inhibitor.	6804		SS
42	06	2006	Interstitial cells of Cajal involved in neurotransmission in the gastrointestinal tract.	6901	SS	
42	06	2007	Paradoxical inhibition of protein aggregation and precipitation by transglutaminase-catalyzed intermolecular cross-linking	6902	SS	
42	06	2008	Daily restricted feeding resets the circadian clock in the suprachiasmatic nucleus of CS mice.	6903	S	
42	06	2009	The anti-amyloidogenic effect is exerted against Alzheimer's b-amyloid fibrils in vitro by preferential and reversible binding of flavonoids to the amyloid fibril structure.	6904	SS	
42	06	2010	3D structure of amyloid protofilaments of b2-microglobulin fragment probed by solid-state NMR.	6906	SS	
42	06	2011	A seed for Alzheimer amyloid in the brain.	6909	SS	
42	06	2012	東南アジアにおけるリケッチャ感染症の疫学 - 地理病理学の視点から -	6911		SS
42	06	2013	Characterization of Borrelia burgdorferi sensu lato isolated in Moscow province - a sympatric region for Ixodes ricinus and Ixodes persulcatus.	6911		SS
42	06	2014	ドイツ連邦議会審議会中間答申『人間らしい死と自己決定 終末期における事前指示』	7001		SS
42	06	2015	Ancestry and pharmacogenetics of antileukemic drug toxicity.	7002	SS	
42	06	2016	A sensitive new method for clinically monitoring cytarabine concentrations at the DNA level in leukemic cells.	7002	S	
42	06	2017	Smoking and Chemokine levels.	7003		S
42	06	2018	International Classification of HRCT for Occupational and Environmental Respiratory Diseases.	7101		SS
42	06	2019	Identification, characterization and forensic application of novel Y-STRs.	7103	SS	
42	06	2020	The diagnostic use of serum deoxyribonuclease I activity as a novel early-phase marker in acute myocardial infarction.	7203	SS	

42	06	2021	Serum deoxyribonuclease I activity can be used as a novel marker of transient myocardial ischemia: results in vasospastic angina pectoris induced by provocation test.	7203	SS		
42	06	2022	Persistent diffuse pulmonary interstitial emphysema mimicking pulmonary emphysema.	7204	SS		
42	06	2023	Reappraisal of Clindamycin IV Monotherapy for Treatment of Mild-to-Moderate Aspiration Pneumonia in Elderly Patients.	7204	S		
42	06	2024	Nitric oxide inhibitor altitude-dependently elevates pulmonary arterial pressure in high-altitude adapted yaks.	7204	S		
42	06	2025	Synergistic effect of hypoxia and TNF-alpha on production of PAI-1 in human proximal renal tubular cells.	7205	SS		
42	06	2026	Synthetic/secretory and apoptotic phenotypes in renal biopsy tissues from hypertensive nephrosclerosis patients.	7205	S		
42	06	2027	Hypoxia reduces the expression and anti-inflammatory effects of peroxisome proliferator-activated receptor-gamma in human proximal renal tubular cells.	7205	S		
42	06	2028	Effects of prednisone and genetic polymorphisms on etoposide disposition in children with acute lymphoblastic leukemia.	7209	SS		
42	06	2029	Melanin acts as a potent UVB photosensitizer to cause an atypical mode of cell death in murine skin.	7213	SS		
42	06	2030	Prurigo nodularis occurred in a patient with an allergy to pyridine derivative in desk mat	7213		SS	
42	06	2031	Enhancement of apoptosis by nitric oxide released from -phenyl-tert-butyl nitron under hyperthermic conditions.	7215	S		
42	06	2032	Depressive psychosis: clinical usefulness of MR spectroscopy data in predicting prognosis.	7215	S		
42	06	2033	Transient focal lesions in the splenium of the corpus callosum with restricted diffusion: An enigma.	7215	S		
42	06	2034	Thymidine phosphorylase gene transfer inhibits vascular smooth muscle cell proliferation by upregulating heme oxygenase-1 and p27KIP1.	7303	SS		
42	06	2035	Gene therapy for chronic myocardial ischemia Using platelet-derived endothelial cell growth factor in dogs.	7303	S		
42	06	2036	Adventitial inversion technique without the aid of biologic glue or Teflon buttress for acute type A aortic dissection.	7303		SS	
42	06	2037	Thoracic ossification of the human ligamentum flavum: histopathological and immunohistochemical findings around the ossified lesion.	7305	SS		
42	06	2038	Localization and changes of intraneural inflammatory cytokines and inducible-nitric oxide induced by mechanical compression.	7305	SS		

42	06	2039	Effect of cell density on the rate of glycosaminoglycan accumulation by disc and cartilage cells in vitro.	7305	SS		
42	06	2040	Pathology of lumbar nerve root compression. Part 1: Intraradicular inflammatory changes induced by mechanical compression.	7305	SS		
42	06	2041	Rescue of rat anterior horn neurons after spinal cord injury by retrograde transfection of adenovirus vector carrying brain-derived neurotrophic factor gene.	7305	SS		
42	06	2042	Anterior expandable strut cage replacement for osteoporotic thoracolumbar vertebral collapse.	7305		SS	
42	06	2043	Relationship between vertical orientation and stability of acetabular component in the dysplastic hip simulated by nonlinear three-dimensional finite element method.	7305		SS	
42	06	2044	Excitatory and inhibitory actions of isoflurane on the cholinergic ascending arousal system of the rat.	7306	S		
42	06	2045	Effects of tolterodine on an overactive bladder depend on suppression of C-fiber bladder afferent activity in rats.	7307	SS		
42	06	2046	Improvement of bladder storage function by tamsulosin depends on suppression of C-fiber urethral afferent activity in rats.	7307	SS		
42	06	2047	Inhibition of histone deacetylase 3 stimulates apoptosis induced by heat shock under acidic conditions in human maxillary cancer.	7309	SS		
42	06	2048	Correlation between adult diabetic cataracts and red blood cell aldose reductase levels.	7310	SS		
42	06	2049	Gene expression profiling of diabetic and galactosaemic cataractous rat lens by microarray analysis.	7310	SS		

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 07

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名) 藤林 康久 (所属) 高I科* -医学研究センター (職名) 教授

重点的に取り組む領域名	画像医学関連研究
-------------	----------

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)				
生体内の様々な機能情報を画像化するための標識薬剤の開発研究とデータ収集・解析法の開発研究を行い、悪性腫瘍、脳疾患、心疾患などにおける臨床的意義の確立を目指す。				
2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)				
21世紀COE,リーディングプロジェクト等の大型研究費を基盤として、低酸素組織集積[Cu-62]ATSM等を開発した。低酸素組織集積[Cu-62]ATSMの研究は、放射線医学総合研究所他3大学との多施設共同研究を経て臨床応用を開始した。また、乳癌・骨盤内腫瘍を標的とするエストロゲンリガンドを国内で初めて臨床応用した。PET, MRIを用いた新規データ収集・画像解析法を確立した。				
3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。				
(他の参加者を含め合計15名)				
(他機関の参加者も含む。)				
氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
和田 有司	医学部	教授	神経化学・神経薬理学, 精神神経科学	精神疾患(統合失調症など)の脳機能研究
木村 浩彦	医学部	教授	放射線科学	脳組織障害のMRによる画像化
岡沢 秀彦	高I科* -医学研究センター	教授	画像診断医学, 核医学, 脳機能科学	脳循環代謝の定量測定, 病態観察
藤林 康久	高I科* -医学研究センター	教授	放射性薬品化学, 核医学, 分子イメージング	ミトコンドリア機能診断薬剤の開発, 低酸素腫瘍診断治療薬の開発研究
村田 哲人	医学部	准教授	精神薬理学, 精神神経科学	ヒト高次脳機能や精神神経疾患に関する脳機能画像研究
吉田 好雄	医学部	准教授	婦人科腫瘍学, 産婦人科学	卵巣がん・子宮肉腫診断法に関する研究
清野 泰	高I科* -医学研究センター	准教授	放射線科学	疾患特異的な分子イメージングプローブの開発研究
三好 憲雄	医学部	助教	実験病理学, 病態医学化学, 病態検査学	病態分光画像診断法・開発
4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。				
総額 1,224,629千円 平成16年度~平成19年度の科学研究費補助金, 厚生科学研究費補助金・がん研究助成金, 21世紀COE経費, その他財団等からの助成金, 共同研究費, 受託研究費, 奨学寄附金, 学内競争的配分経費				

5 . 選定された研究業績リスト

No	研究業績名		細 目 番 号	研究業績の分析結果		共同利用 等
				学術的意義	社会、経 済、文化的 意義	
42	07	2001	Diagnostic significance of FDG-PET and argyrophilic nucleolar organizer regions(AgNORs)in oral squamous cell carcinoma.	4706	S	
42	07	2002	In Light of recent developments, application of fluorescence spectral analysis in tumor diagnosis.	6906	S	
42	07	2003	Terahertz imagingdiagnosis of cancer tissues with chemometrics technique.	6906	S	
42	07	2004	Comparative assessment of 18F-fluorodeoxyglucose PET and 99mTc-tetrofosmin SPECT for the prediction of functional recovery in patients with reperfused acute myocardial infarction.	7203	S	
42	07	2005	Multifractal analysis of deep white matter microstructural changes on MRI in relation to early-stage atherosclerosis.	7214	SS	
42	07	2006	A comparative study of the plasma membrane permeabilization and fluidization induced by antipsychotic drugs in the rat brain.	7214	S	
42	07	2007	Abnormal pontine activation in pathological laughing as shown by functional magnetic resonance imaging.	7214	S	
42	07	2008	Effects of 5-HT1B/1D receptor agonist rizatriptan on cerebral blood flow and blood volume in normal circulation.	7215	SS	
42	07	2009	Can reductions in baseline CBF and vasoreactivity detect misery perfusion in chronic cerebrovascular disease?	7215	SS	
42	07	2010	Evaluation of radioiodinated (2S, S)-2-(-2-iodophenoxy)benzyl)morpholine as a radioligand for imaging of norepinephrine transporter in the heart.	7215	SS	
42	07	2011	Double-tracer autoradiography with Cu-ATSM/FDG and immunohistochemical interpretation in four different mouse implanted tumor models.	7215	SS	
42	07	2012	Multislice continuous arterial spin-labeled perfusion MRI in patients with chronic occlusive cerebrovascular disease : a correlative study with C02 PET validation .	7215	S	
42	07	2013	Shorter examination method for the diagnosis of misery perfusion using count-based OEF elevation in 150-Gas PET.	7215	S	
42	07	2014	Metabolic neuroimaging of the cervical spinal cord in patients with compressive myelopathy: a high-resolution positron emission tomography study.	7305	SS	
42	07	2015	The positron emission tomography with F18 17beta-estradiol has the potential to benefit diagnosis and treatment of endometrial cancer.	7308	S	

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 08

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学		
領域代表者名	(氏名) 岩田 浩子	(所属) 医学部	(職名) 教授

重点的に取り組む領域名

看護学研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

健康障害をもつ人々の生活の質の向上と健康維持に寄与できる看護学研究を行う。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

患者・家族のQOLに関しては、ドナー家族の心理に関する研究、産婦の痛みに関する研究などで優れた成果が得られた。健康維持の観点では、母性意識に関する実証的研究、認知症の生命予後に関する研究が地域社会に生活する人の社会問題の解決に貢献できる基礎的研究として特筆すべき成果が得られた。さらに、看護診断能力とその正確性に関する研究、救急看護師の臨床判断能力に関する研究は、QOL支援における看護師の能力開発の基盤形成に資する研究として高い評価を得た。また、災害看護やDVに関しては、研究成果を講演会等で保健福祉関係職員及び住民に広く解説するなど社会への貢献も大きい。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計15名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
長谷川智子	医学部	教授	基礎看護学	看護診断の正確性・能力に関する研究
田邊美智子	医学部	教授	母性看護学・助産学	早期産褥期の外陰部ケアに関する研究
岩田 浩子	医学部	教授	臨床看護学	急性期看護の構造と看護能力に関する研究
長谷川美香	医学部	教授	地域・老年看護学	配偶者・パートナー間暴力に関する研究
酒井 明子	医学部	准教授	臨床看護学	災害時における被災者と支援者の実態に関する研究
佐々木綾子	医学部	准教授	母性看護学・助産学	青年期の親性を育てる乳幼児とのふれあい育児体験に関する実証的研究

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 82,350千円

平成16年度～平成19年度の科学研究費補助金、厚生科学研究費補助金・がん研究助成金、その他財団等からの助成金、共同研究費、受託研究費、奨学寄附金、学内競争的配分経費

5 . 選定された研究業績リスト

No	研究業績名	細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等
			学術的意義	社会、経済、文化的意義	
42 08 2001	Measuring Diagnostic Competency and the Analysis of Factors Influencing Competency Using Written Case Studies.	7501	SS		
42 08 2002	看護師の緊急性の判断に関する研究-初期～三次対応の救急外来において-	7502	S		
42 08 2003	青年期の母性を育てる乳幼児とのふれあい育児体験に関する実証的研究 - 心理・生理・内分泌学的指標による評価 -	7502		SS	
42 08 2004	脳死下臓器提供選択後のドナー家族の心理に関する研究-他者からの介入による心理-脳死・脳蘇生	7502		S	
42 08 2005	産褥早期における外陰部セルフケアに関する研究 - 傷・痛み・不安・および外陰部保清潔の関係 -	7502		S	
42 08 2006	災害復旧活動における災害ボランティアコーディネーターの心身の経過別変化と対処行動	7502		S	
42 08 2007	在宅痴呆症高齢者の10年間の死亡率，死因および死亡場所	7503	S		
42 08 2008	地方都市における配偶者・パートナー間暴力体験とその関連要因	7503		S	

共同利用・共同研究

整理番号

42

-

09

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名)鈴木 敏男 (所属)工学研究科 (職名)教授

重点的に取り組む領域名

物質, システム, 環境設計系諸分野の発展に寄与する研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

物質系, システム系, 環境設計系において, 国際水準の学術的研究と, 社会的な要請の高い研究を推進し, 諸分野の発展に寄与することを目的とする。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

物質・システム・環境設計系のいずれの分野においても, 国際水準の, 或いは社会的な要請の高い研究が行われ, SSが15件, Sが24件の研究業績がある。物理系では最もインパクトファクターの高い雑誌に掲載され, 特に評価を受けた論文が6編あり, 生物・医学系分野でも同様な業績が4件, 中には学会賞を受けたものもある。窒化物半導体結晶が太陽電池の材料となることを示した研究業績は, 4つの国際会議で招待講演を受け, 2004年から6年間, N E D Oの研究開発事業に採択されている。優れた業績の内, 約1/3は社会的意義による業績である。液体窒素冷却による小型高温超伝導モータの実用化を実現したものは, 日本産業科学大賞文部科学大臣賞をはじめ3つの賞を受賞し, 光ビームによる機能性材料加工創成技術の開発は, 科学技術振興機構による地域結集型共同研究事業として6年間で約10億円を受けた大型プロジェクトの業績である。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計 148名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
山田 泰弘	工学研究科	教授	システム制御工学	高機能機械システム
山本 嵩勇	工学研究科	教授	エネルギー工学	高効率エネルギー伝送
高橋 謙三	工学研究科	教授	計算機・通信	高機能ネットワーク
白井 秀和	工学研究科	教授	都市建築設計	環境空間設計・計画
櫻井 謙資	工学研究科	教授	インテリジェント材料	高機能高分子材料開発
内田 博之	工学研究科	教授	生物化学工学	微生物生体高分子機能
鈴木 敏男	工学研究科	教授	数理・量子科学	量子多体系
森田 紀夫	工学研究科	教授	物性・電磁物理	気体原子のレーザ冷却
村瀬 一之	工学研究科	教授	知能基礎	生体高次機能の構造
高島 正之	産学官連携本部	教授	エネルギー・物質変換化学	ナノ薄膜高機能金属材料

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 2,445,842千円

平成16年度～平成19年度 運営費, 教育研究基盤経費, 教育研究充実設備費, 平成16年度～平成19年度科学研究費補助金, 学長重点配分経費(プロジェクト経費, 萌芽の研究経費, 競争的研究費), 学部学長重点配分経費, 共同経費, 受託研究費, 奨学研究費

5 . 選定された研究業績リスト

No	研究業績名		細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等	
				学術的意義	社会、経済、文化的意義		
42	09	2001	基礎からわかるTCP/IP アナライザ作成とパケット解析 Linux/FreeBSD対応 (第2版)	1003		S	
42	09	2002	最適フレームレート推定に基づく動画符号化法の有効性について	1004	S		
42	09	2003	コマンド入力連鎖による認証におけるファジィ測度的手法の検討	1007	S		
42	09	2004	NO-dependent control of presynaptic spiking underlies LTP that mediates hyperalgesia.	1104	SS		
42	09	2005	糖尿病教育・治療支援のためのデータベースネットワークシステムの開発と運用	1403		S	
42	09	2006	乗用車専用小型道路トンネルにおける火災時の煙挙動に関する模型実験	2201		S	
42	09	2007	Improved Measurement of the K ⁺ Branching Ratio	4301	SS		
42	09	2008	Gamow-Teller Sum Rule in Relativistic Nuclear Models	4301	SS		
42	09	2009	Search for the H ⁻ -dibaryon resonance in ¹² C(K ⁻ , K ⁺ X)	4301	S		
42	09	2010	Experimental Observation of the 1/3 Magnetization Plateau in the Diamond-Chain Compound Cu ₃ (CO ₃) ₂ (OH) ₂	4303	SS		
42	09	2011	Vortex Formation and Annihilation in Three Textures of Rotating Superfluid ³ He-A	4303	S		
42	09	2012	Unified Derivation of Tunneling Times from Decoherence Functionals	4304	SS		
42	09	2013	General Chemotactic Model of Oscillators	4304	SS		
42	09	2014	Fluctuations, Responses and Energetics of Molecular Motors	4304	S		
42	09	2015	Dissociation processes of Kr ₂ ⁺ and Kr ₃ ⁺ studied by threshold photoelectron-photoion coincidence measurements	4305	S		
42	09	2016	Mean king's problem with mutually unbiased bases and orthogonal Latin squares	4305	S		
42	09	2017	Spontaneous Splitting of a Quadruply Charged Vortex	4305	S		
42	09	2018	Noninvasive Diagnosis of a Single Cell with a Probe Beam	4701	S		
42	09	2019	Infrared Spectroscopic Investigation of Poly(2-methoxyethyl vinyl ether) during Thermosensitive Phase Separation in Water	4703	S		
42	09	2020	Large-Scale Synthesis and Electrochemical Properties of LiAlXMn ₂ -XO ₄ Powders by Internal Combustion Type Spray Pyrolysis Apparatus Using Gas Burner	4803		S	

42	09	2021	対流圏気温分布の高精度計測のための多重ファブリーペロー共振器利用の紫外域レイリー・ミー散乱方式レーザーレーダ	4903	SS		
42	09	2022	スラリー摩耗の衝突角度依存性に関する簡易予測法	5001	S		
42	09	2023	ダイス傾斜角制御フレキシブル押し出しシステムの開発	5002		S	
42	09	2024	Evaluation of Erosive Wear Resistance of TiN Coatings by A Slurry Jet Impact Test	5003	S		
42	09	2025	無機系ガラスコーティングの洗浄機構と耐久性評価	5003		SS	
42	09	2026	分散型電源の導入拡大に対応した配電システムの協調運用形態	5101	S		
42	09	2027	Design of an Axial Flux Inductor Type Synchronous Motor With the Liquid Nitrogen Cooled Field and Armature HTS Windings	5101		SS	
42	09	2028	Correlation between electrical and optical properties for OMVPE InN	5102	SS		
42	09	2029	A new structure of C60 / AlN high performance field effect transistor	5102	S		
42	09	2030	「窒化物半導体トランジスタへの期待と将来展望」	5103	S		
42	09	2031	地中熱利用システムの開発と伝熱理論 (総合題目)	5202		SS	
42	09	2032	地盤工学会調査団：平成16年7月福井豪雨による地盤災害調査報告書	5203		S	
42	09	2033	High Temperature Thermal Insulation System for Millimeter Wave Sintering of B4C005).	5402		S	
42	09	2034	ナノ領域での薄膜形成と表面処理による高度機能性材料創製技術 (総合タイトル)	5404		SS	
42	09	2035	光ビームによる機能性材料加工創成技術開発	5405		SS	
42	09	2036	Synthesis of New Degradable Polyurethane Elastomer Containing Polyacetal Soft Segments	5604		S	
42	09	2037	Synthesis of Lithium Manganate Powders by Spray Pyrolysis and Its Application to Lithium Ion Batteries for Trams	5607		SS	
42	09	2038	The Rates of Switching Movement of Troponin-T between Three States of Skeletal Muscle Thin Filaments Determined by Fluorescence Resonance Energy Transfer	5803	S		
42	09	2039	High-efficiency laser-diodes-pumped microthickness Yb:Y3Al5O12 slab laser	4903	SS		

共同利用・共同研究	
-----------	--

整理番号	42	-	10
------	----	---	----

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名) 家元良幸 (所属) 工学研究科 (職名) 教授

重点的に取り組む領域名	地域産業の活性化に寄与するファイバーアメニティ工学研究
-------------	-----------------------------

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

地域の中心産業である繊維関連産業の活性化と新産業創出を目的として、産学官連携を強め、アメニティ社会に配慮した繊維に関する学術研究と技術開発の高度化を目指す。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

福井県は繊維の総合産地として世界の繊維・加工技術をリードしており、福井大学はその牽引役を果たしてきた。アメニティに配慮した衣料用から非衣料用に至る幅広い分野への高性能繊維材料の供給を目的に、ナノ加工、バイオメテック加工、センサー機能付与などの新しい手法を用い、これらの調製原理の開発からもの作りまでの広範囲な研究に取り組んできている。その結果、経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業やJST委託開発事業に採択され、ナノファイバーの新規創製法、超臨界流体や電子線照射技術、さらにはバイオ加工技術などの繊維産業への取り組みにおいて、世界をリードする成果を上げている。引き続き地域産業の活性化を目指して、研究の高度化を図り世界最先端の水準を維持するために、平成19年度には、財団法人「繊維工業研究協会」からの寄付金をもとに「工学研究科附属繊維工業研究センター」を設立した。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計 15名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
家元 良幸	工学研究科	教授	生産加工プロセス	繊維機械
小形 信男	工学研究科	教授	生産加工プロセス	ナノ繊維の製造
橋本 保	工学研究科	教授	エネルギー・物質変換化学	高分子材料のリサイクル
田上 秀一	工学研究科	准教授	生産加工プロセス	繊維の成形加工
中根 幸治	工学研究科	助教	生産加工プロセス	ハイブリッド繊維の創製
池田 功夫	工学研究科	教授	応用化学	繊維の高機能化
前田 寧	工学研究科	教授	応用化学	機能性高分子開発と評価
寺田 聡	工学研究科	准教授	生物化学工学	セリシンの有効活用
杉原 伸治	工学研究科	助教	応用化学	機能性高分子の開発
堀 照夫	工学研究科	教授	応用化学	超臨界流体加工繊維
久田 研次	工学研究科	准教授	応用化学	繊維表面の機能化

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 853,071千円

平成16年度～平成19年度 運営費, 教育研究基盤経費, 教育研究充実設備費, 平成16年度～平成19年度科学研究費補助金, 学長重点配分経費(プロジェクト経費, 萌芽的研究経費, 競争的研究費), 学部長重点配分経費, 共同研究費, 受託研究費, 奨学寄付金

5. 選定された研究業績リスト

No			研究業績名	細 目 番 号	研究業績の分析結果		共同利用 等
					学術的意義	社会、経 済、文化的 意義	
42	10	2001	Synthesis of Fine Hydrogel Microspheres and Capsules from Thermoresponsive Coacervate	4804	S		
42	10	2002	電子線グラフト加工技術を応用した綿 布恒久加工の事業化	4804		SS	
42	10	2003	ゾル - ゲル法による炭素繊維へのアル ミナコーティング	5403		SS	
42	10	2004	Preparation of Silk Protein Sericin as a Mitogenic Factor for Better Mammalian Cell Culture	5504	S		

共同利用・共同研究

整理番号	42	-	11
------	----	---	----

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名)望月 弘保 (所属)工学研究科 (職名)教授

重点的に取り組む領域名
原子力・エネルギー安全工学研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

学外の研究機関と連携して、原子炉と原子力発電所における安全性の確保、立地地域の共生システムの構築、電力供給ネットワークの安定などに関わる研究を行い、地域の安全性・信頼性の確立と産業の活性化に貢献する。

2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

工学研究科の独立専攻として、平成16年度に「原子力・エネルギー安全工学専攻」を新設し、地域の二つの原子力研究機関との連携講座を開講すると共に、19年度には企業から寄付講座を受け入れ、さらに日本原子力研究開発機構との包括協定や京都大学原子炉実験所との交流協定を結び、研究体制を固めてきた。原子力・エネルギー安全工学に関わる多種多様な課題について研究を行い、特に、高速炉工学において重要な材料開発や材料特性の評価法の開発、原子炉構造物の劣化メカニズムの解明、軽水炉及び高速増殖炉「もんじゅ」の冷却系全系の熱流動解析に関する研究において世界水準の優れた研究成果を上げると共に、国内外に広く発信して安全性の確保と電力産業に貢献した。さらに研究の高度化を図るために、関西・中京圏の有力大学との広域連携研究拠点形成を目指し、平成21年度に福井大学附属国際原子力工学研究所(仮称)を設置する予定である。

3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計 22名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
松木 純也	工学研究科	教授	エネルギー工学	電力供給ネットワーク
荻原 隆	工学研究科	教授	生産加工プロセス	公共交通の省エネ化
飯井 俊行	工学研究科	教授	構造健全性評価工学	原子炉施設の構造評価
仁木 秀明	工学研究科	教授	地域共生工学	原子力へのレーザ応用
酒井 泉	工学研究科	教授	加速器応用工学	放射線応用技術
福元 謙一	工学研究科	准教授	構造健全性評価工学	核融合炉構造材料技術
金邊 忠	工学研究科	准教授	地域共生工学	レーザによる廃炉技術
岡部 晃太	工学研究科	助教	加速器応用工学	放射線応用技術
佐藤 康元	工学研究科	講師	構造健全性評価工学	原子炉材料の構造評価
望月 弘保	工学研究科	教授	プラントシステム安全工学	原子炉冷却系の評価

4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 432,532千円

平成16年度～平成19年度 運営費, 教育研究基盤経費, 教育研究充実設備費, 平成16年度～平成19年度科学研究費補助金, 学長重点配分経費(プロジェクト経費・萌芽的研究経費・競争的研究費), 学部長重点配分経費, 共同研究, 受託研究, 奨学寄付金

5 . 選定された研究業績リスト

No			研究業績名	細 目 番 号	研究業績の分析結果		共同利用 等
					学術的意義	社会、経 済、文化的 意義	
42	11	2001	Manufacturing pressurized creep tubes from highly purified V-4Cr-4Ti alloys,NIFS-Heat2	5605	S		
42	11	2002	Separation of Microstructural and Microchemical Effects in Irradiation Assisted Stress Corrosion Cracking Using Post-irradiation Annealing	5606	SS		
42	11	2003	Inter-subassembly Heat Transfer of Sodium Cooled Fast Reactors: Validation of the NETFLOW code	5606		SS	

共同利用・共同研究

整理番号 42 - 12

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名) 斎藤 輝雄 (所属) 遠赤外領域開発研究センター (職名) 教授

重点的に取り組む領域名：遠赤外領域開発系
遠赤外領域開発研究

1．重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)

遠赤外領域開発研究センターを中心に、遠赤外領域の基礎技術、応用技術及び新技術の開発・活用に関する研究を行い、遠赤外領域の総合的開発研究を推進するとともに、遠赤外領域研究の世界拠点としての役割を果たす。

2．重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)

本領域の研究は遠赤外領域開発研究センターを中心に、工学研究科などとの連携により推進されている。ジャイロトロンの高性能化研究では、最高周波数記録889 GHzを自ら破る1 THz 発振の達成、ジャイロトロン出力及び周波数変調の実証、出力と周波数の高安定化の達成等につづき、連続発振の高周波・周波数可変ジャイロトロンを開発を推進している。応用研究では、核融合プラズマのテラヘルツ帯散乱計測、ジャイロトロンを光源とするテラヘルツ帯ESR計測、原子炉制御棒用B₄C材のジャイロトロンを用いた電磁波焼結の成功などの成果とともに、ジャイロトロンを光源とする超高感度タンパク質構造分析装置の開発も進めている。また、国内外の研究機関との学术交流協定あるいは共同研究覚書の締結、国内外機関と高性能ジャイロトロン開発と応用研究のための国際コンソーシアムを主導するなど、当該分野の世界的拠点としての機能を強化している。

3．重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。

(他の参加者を含め合計10名)

(他機関の参加者も含む。)

氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
斎藤 輝雄	遠赤外領域開発研究センター	教授	テラヘルツ波工学	プラズマ計測および高周波ジャイロトロン開
小川 勇	遠赤外領域開発研究センター	教授	プラズマ理工学	連続発振周波数可変ジャイロトロン開発
光藤誠太郎	遠赤外領域開発研究センター	教授	遠赤外物性物理学	テラヘルツ帯ESRおよび電磁波焼結
立松 芳典	遠赤外領域開発研究センター	准教授	プラズマ理工学	核融合プラズマの散乱計測
藤井 裕	遠赤外領域開発研究センター	准教授	遠赤外低温物理学	テラヘルツ帯高感度ESR計測
出原 敏孝	遠赤外領域開発研究センター	教授	テラヘルツ波工学	THz発振の達成および超高感度蛋白質解析装置開発
近藤 新一	遠赤外領域開発研究センター	教授	遠赤外分光学	新機能遠赤外光源開発
福井 一俊	工学研究科	教授	遠赤外分光学	高感度テラヘルツ帯分光器開発
菊池 彦光	工学研究科	教授	磁性物理学	遠赤外ESR計測

4．重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。

総額 669,522 千円

平成16年度～平成19年度 センター運営費、教育研究基盤経費、基幹設備費、施設整備費、特別教育研究経費、平成16年度～平成19年度 科学研究費補助金、福井大学学長裁量経費(プロジェクト経費・萌芽的研究経費・競争的研究費)、共同研究、受託研究、奨学寄付金、研究助成金、間接経費

5. 選定された研究業績リスト

No	研究業績名	細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等
			学術的意義	社会、経済、文化的意義	
42 12 2001	Experimental Observation of the 1/3 Magnetization Plateau in the Diamond-Chain Compound $\text{Cu}_3(\text{CO}_3)_2(\text{OH})_2$	4303	SS		
42 12 2002	First experiment of a THz gyrotron with a pulse magnet	5103	SS		
42 12 2003	国際学術誌 International Journal of Infrared and Millimeter Waves の Editorial Office を遠赤外領域開発研究センター内に開設、Editor in Chief (編集委員長)を勤める。	5103		S	
42 12 2004	High Temperature Thermal Insulation System for Millimeter Wave Sintering of B4C	5402		S	

共同利用・共同研究	
-----------	--

整理番号	42	-	13
------	----	---	----

重点的に取り組む領域説明書(表)

法人名	国立大学法人 福井大学
領域代表者名	(氏名) 藤林康久 (所属) 高エネルギー医学研究センター (職名) センター長

重点的に取り組む領域名
高エネルギー医学研究

1. 重点的に取り組む領域の目的及び目指す水準を記述してください。(100字以内)				
分子イメージングの手法で開発された分子プローブを用い、ポジトロンCT、高磁場MRI等の生体機能イメージングを基礎研究から臨床応用まで広い範囲で展開し、国際的にトップレベルの水準で取り組む。				
2. 重点的に取り組む領域の概要及び達成状況等を記述してください。(400字以内)				
高エネルギー医学研究センターでは、ポジトロンCTを用いた生体機能イメージングを目指した分子プローブの開発と臨床応用を行っている。当センターで開発されたCu-ATSMは、低酸素組織イメージング剤として、現在国際的に注目され、治療も含めた広い領域での臨床応用が検討されている。また、女性ホルモンをフッ素標識した[F-18]FESを国内で初めて臨床検査に導入し、乳ガンや女性骨盤内腫瘍など特異的な腫瘍の診断や治療法の選択等に利用している。高磁場MRIを用いた研究では、非侵襲的血流画像法の開発や機能的MRI法(fMRI)を用いた脳機能画像の臨床応用を検討し、脳血管障害や精神疾患患者の病態解明等に応用している。これらの研究は世界的に優れた水準の研究であり、特に分子イメージング学の領域においてはアジアの先導的拠点としてIAEAの教育セミナーを開催するなど、国際的な取り組みを積極的に進めている。				
3. 重点的に取り組む領域への主な参加者及び分担内容を記載してください。				
(他の参加者を含め合計 9 名)				
(他機関の参加者も含む。)				
氏名	所属(学部・研究科等)	職名	専門分野	分担内容
藤林康久	高エネルギー医学研究センター	教授	分子イメージング	薬剤合成
岡沢秀彦	高エネルギー医学研究センター	教授	核医学	生体機能イメージング
工藤 崇	高エネルギー医学研究センター	准教授	核医学	生体機能イメージング
清野 泰	高エネルギー医学研究センター	准教授	分子イメージング	薬剤合成
森 哲也	高エネルギー医学研究センター	助教	分子イメージング	薬剤合成
辻川哲也	高エネルギー医学研究センター	寄附研究部門教育職員	核医学	生体機能イメージング
小林正和	高エネルギー医学研究センター	寄附研究部門教育職員	核医学	小動物用PETにおける基礎検討
米倉義晴	放射線医学総合研究所	理事長	核医学	生体機能イメージング
古川高子	放射線医学総合研究所	分子診断研究チームリーダー	分子イメージング	遺伝子解析
4. 重点的に取り組む領域に使用した資金の総額と資金源の名称を記載してください。				
総額 380,224千円				
文部科学省「21世紀COEプログラム」(平成15~19年度) 文部科学省「経済活性化のための研究開発プロジェクト(リーディングプロジェクト)」(平成15~19年度)				

5 . 選定された研究業績リスト

No	研究業績名	細目番号	研究業績の分析結果		共同利用等
			学術的意義	社会、経済、文化的意義	
42 13 2001	Effects of 5-HT1B/1D receptor agonist rizatriptan on cerebral blood flow and blood volume in normal circulation.	7215	SS		
42 13 2002	Can reductions in baseline CBF and vasoreactivity detect misery perfusion in chronic cerebrovascular disease?	7215	SS		
42 13 2003	Evaluation of radioiodinated (2S, S)-2-(- (2-iodophenoxy)benzyl)morpholine as a radioligand for imaging of norepinephrine transporter in the heart.	7215	SS		
42 13 2004	Double-tracer autoradiography with Cu-ATSM/FDG and immunohistochemical interpretation in four different mouse implanted tumor models.	7215	SS		
42 13 2005	Shorter examination method for the diagnosis of misery perfusion using count-based OEF elevation in 15O-Gas PET.	7215	S		

第1期「中期目標の達成状況報告書」作成WG等委員名簿

教育に関する分析WG委員

副学長（教育・学生）	中川 英之（主査）
教育地域科学部 教授	山根 清志
医学部 教授	内木 宏延
医学部 教授	安田 年博
工学研究科 教授	西川 嗣雄
学務部長	中村 直

研究に関する分析WG委員

副学長（研究・評価）	伊藤 春海（主査）
教育地域科学部 教授	梅澤 章男
医学部 教授	佐藤 真
高エネルギー医学研究センター 教授	藤林 康久
工学研究科 教授	小倉 久和

社会との連携・国際交流等に関する分析WG委員

副学長（広報・地域貢献）	松浦 義則（主査）
副学長（国際交流）	堀 照夫
教育地域科学部 教授	木村 亮
医学部 教授	宮森 勇
医学部 教授	馬場 久敏
工学研究科 教授	櫻井 康宏

評価サポートチーム

学長特別補佐	寺岡 英男
学長特別補佐	中島 正志
学長特別補佐	内木 宏延
学長特別補佐	岩井 善郎
医学部 教授	安田 年博



中期目標の達成状況報告書

平成20年6月

